

昭和六十年三月

史料館所蔵史料目録 第四十集

信濃国松代真田家文書目録（その三）

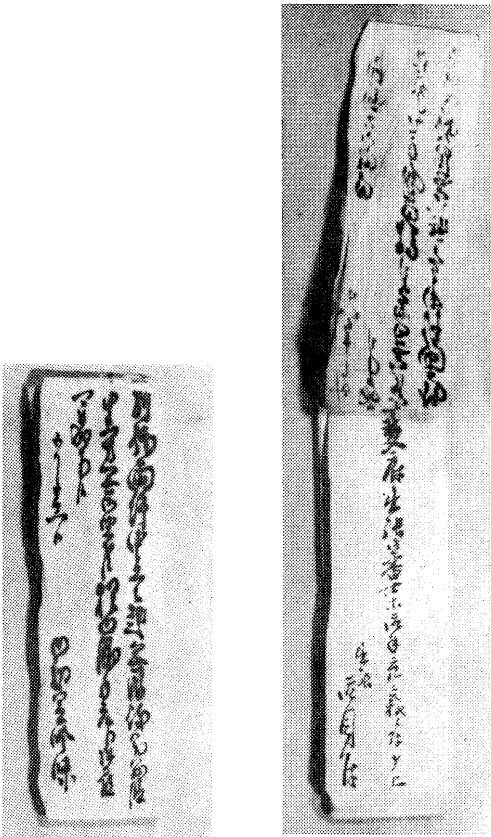
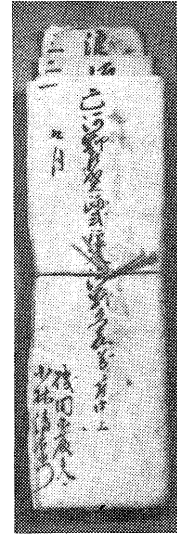
史料館

史料館所蔵史料目録 第四十集

信濃国松代真田家文書目録（その三）

1 評議書類の小束（上）とその内訳（下）

〔浪人格河野久喜御賞評議書類 き 1595〕

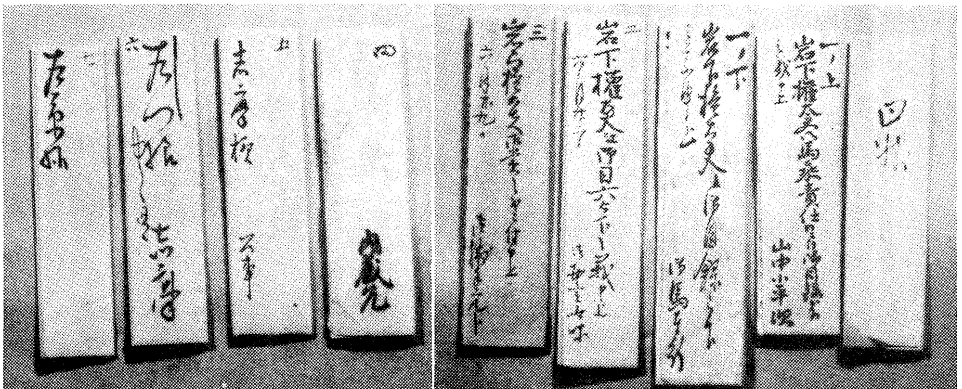


2 伺書（右）と答書貼紙（左）

〔甲府出張番士御手充評議書類
き 1046〕

3 書類番号を付してある評議書類

〔岩下権太夫御賞筋評議書類 き 1066〕





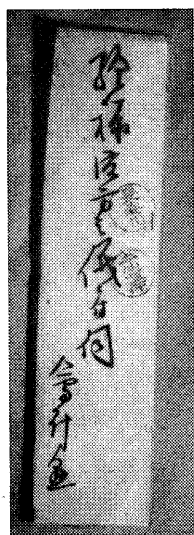
7 御尋物答書に捺された「議事可」の朱印

〔監手等御賞評議書類 き 1592〕



4 御尋物答書の束を入れた袋

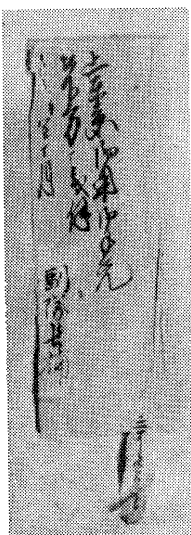
〔御尋物御答稿 き 802〕



8

伺書に捺された個人印

〔給禄渡方伺書 き 103〕



6 伺書の差出役名の上に貼った貼添

〔上東京御用御手充被下方伺書 き 1051〕



5 伺書（右）と添伺貼紙（左）

〔割番伺書 き 401〕

凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第二十八集および第三十七集に続いて、第四十集に信濃国松代真田家文書目録（その三）として、同文書の書付型史料の一部を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・性格等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は一二ポイント活字、中項目は一〇ポイント活字、小項目は九ポイントゴチック活字で示した。また、必要に応じて〇印で細項目を示した。なお一括史料のうち、他の項目中にも掲げることを妥当と考えた史料は、*印を付して重出した。
- 一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)作成者または差出人 (三)宛名 (四)作成年月日 (五)形態及び封紙類 (六)数量 (七)整理番号の順である。
- 一 表題（史料名称）は原表題の無いものが多いため仮に命名して掲げたが、(一)を付すことは省略した。また内容摘記は「」内に八ポイント活字をもって併記した。
- 一 作成者または差出人および宛名のうち複数のものの一部などは適宜省略したものもある。なお役職名は必要に応じて付した。
- 一 作成年次は年月日・干支を採った。
- 一 苗字を欠く人名や、年次を特定し難いものには、(一)または力を付して推定の方を記した。ただし、他の史料などにより苗字や年代を確定できるものは、煩を避けて(一)を省略した。
- 一 史料の形態は、薄冊類では半（半紙判）、美（美濃判）、美大（美濃大判）、半半（半紙半截判）、美半（美濃半截判）、横長半（半紙横長判）、横長美（美濃横長判）、横長美大（美濃大横長判）、横半半（半紙半截横長判）、横美半（美濃半截横長判）、などによって原書の大きさの大概を示すにとどめた。また一紙書付類は通をもって数量を示し、紙形の大小寸法は省略した。
- 一 数量の上部に示した仮は仮綴本を示した。
- 一 下欄の、かおよびぎの記号および数字は、各史料の整理番号を示す。照合・閲覧・引用の場合に利用されたい。
- 一 巻末に簡単な解題を付した。

目次

口絵

凡例

頁

信濃国松代真田家文書目録（その三）……………三

目次……………四

目録……………五

解題……………二七

信濃
松代

真田家文書目録
(その三)

信濃国
松代

真田家文書目録（その三）目次

藩政	五
法制	五
被仰出書、御条目、張紙、御触、布令	五
・布告	五
役職	八
職制、増減員、任免、出張申渡、跡役	八
任免、誓詞、御目見、規式、口留番所	八
勤方	三
勤方規定、願届書、印鑑、出欠勤、呼	三
出状、勤方、用状、其他	三
賞罰	三
御賞、維新褒賞、仕置、宥免・赦免願、	三
差扣、吟味、箱訴、落文、盜難・紛失、	三
牢扶持	三
学芸・学校	三
学校、書籍・道具	三
寺社	三
寺社領、住職、合力米・寄附米金、供	三
養料・祈禱料、勸化金、拝借米金、取	三
替金、長国寺、参詣、修復・普請、白	三
家中	四
鳥宮、祭礼、其他	四
分限・明細	四
家督、跡式、隠居、死亡、取立、家系	四
・履歴、女中奉公請狀、拝領屋敷、料	四
理下賜、家中一件書類、士族編入	四
勤方	五
建白、献上金、藩士書狀、家扶局	五
足輕	六
足輕一卷、人数差出、増詰、松原者、	六
押頭取	六
給禄・手充	六
知行・扶持	六
知行、切米、江戸詰高、浮扶持、扶持	六
渡方、米金切替渡、滯米金下付、女中	六
切米、請取書、宛行差引、詰金返上納	六
御尋物書類	七
糶方掛、御收納郡方、御勝手元	七
手充	一〇三
手充達書、役料、諸手充、出張手充、	一〇三
手充中借、御手充拝借、拝借金、手充	一〇三
等請取、抱薦給金、被下金、被下物、	二〇
仕着、其他	二〇
給禄方	二〇
適宜改正、職禄、給禄方、賞典渡方	二〇

信濃国
松代

真田家文書目録（その三）

（文書記号 26A）

藩政

法制

被仰出書

中渡状〔一色平八・石野庄七御勝手向可申談旨〕
（宝暦七年カ） 一一月朔日 一通き二〇六
真田幸教御書付〔保曆へ政事議ニ付可励忠勤〕水
道役宛 慶応二年三月 一通き 二
被仰出御趣意〔学校稽古精勵方〕 七月 一通き 三〇
側向一統心得御書附写〔文武出精、衣服細則〕九
月一三日 一通き 五三
真田幸民被仰出書〔大難之時、謹慎伺に及び家中
上下存念承度旨〕 明治四年 一通き 九
藩知事口論書取〔騷擾寛典後之藩治〕 真田幸民
明治四年五月一三日 一通き二〇四
真田幸民口論書〔廢藩及藩札取扱謝意〕 明治四年
八月一五日 一通き二〇三

御条目

御条目〔家中一般、七ヶ条〕 享和三年二月 一通き 一
儉約御条目写〔五ヶ条〕 寅四月一日 一通き 四
儉約御条目〔同前〕 四月 一通き 四
儉約御触調直シ評議書類（嘉永七年カ） 一通き 六
1家老回章 恩田頼母 鎌原石見・小山田老岐・河
原舎人宛 七月朔日 一通 六
2家老回章 同前 鎌原伊野右衛門他三人宛 閏月
六日 一通 六
3鎌原伊野右衛門書状 閏月一日 一通 六
4家老回章 恩田頼母 前四人宛 閏月八日 一通 六
5大目付存寄認取書 一通 六
6小山田采女評議用状 岩崎玄蕃宛 閏七月二三
日 一通 六
7小山田采女評議答書 閏七月 一通 六
8御目付御尋物答書〔衣服・刀剣・家作之儀〕 八
月 一通 六
9三奉行御尋物答書添状 九月一三日 一通 六
10家老回状〔評議依頼添状〕 恩田頼母 望月主水
・赤沢助之進宛 六月二日 一通 六
11家老回章 同前 同前宛 六月一三日 一通 六

12家老回章 同前 同前宛 六月一六日

一通

13望月主水書狀〔感応院様子年俵約被仰出御書下
シ披露〕 恩田頼母宛 六月一六日

一通

14心覚々条〔感応院御書下〕

一通

五ヶ年省略被仰出達書 御側御納戸宛

一通き二〇九

○役向条目

御条目〔大目付〕 文政六年九月

一通き 七

御条目〔表組徒目付〕 嘉永三年一月

一通き 七

御条目〔表組徒目付〕 安政二年一月

一通き 八

御条目〔側組徒目付〕 安政四年七月

一通き 二

御条目〔側組表組徒目付組頭〕 安政五年一〇月

一通き 三

御条目〔表組徒目付〕 安政五年一月

一通き 九

御条目〔表組徒目付〕 文久三年一〇月

一通き 一〇

御条目〔郡中横目役〕 安政七年一月

一通き 三

御条目〔目付方調役〕 万延元年一月

一通き 一四

御条目〔目付方調役〕 慶応二年九月

一通き 一五

御条目〔目付方調役〕 慶応四年七月

一通き 一六

御条目〔目付方調役〕 慶応四年八月

一通き 一七

御条目〔目付方調役〕 明治二年二月

一通き 一八

御条目〔太田陣屋御目付〕 文久三年二月

一通き 二

御条目〔御台場勤番御目付〕 元治二年

一通き 三

御条目〔同前〕 慶応元年一月

一通き 四

御条目〔御勝手方掛〕 慶応二年一月

一通き 三

御条目〔普請方〕 慶応二年四月

一通き 五

御条目〔普請方〕 慶応四年一月

一通き 六

○出役人・臨時

竿取御足輕掟〔関屋村有地改之節〕 嘉永四年

一通き 五

地改掟書 辰一〇月〔子二月貼紙〕

一通き 六

人別改出役人掟 職奉行宛 二月

一通き 六

人詰御用出役人御条目 人詰改小頭宛 二月

一通き 七

人別改出役人勤方吟味御条目 人詰改小頭江相渡
候書付写添 二月

二通き 六

和宮下向御道固定書 文久元年一〇月

一通き 三

御条目〔京都勤番〕 文久三年六月

一通き 三

御条目〔京都警衛〕 三月

一通き 三

御条目〔臨時出張陣中〕 二月

一通き 七

御条目〔同前文〕 二月

一通き 八

御条目〔同前文〕 四月

一通き 九

御条目〔臨時出張陣中〕 二月

一通き 八

御条目〔同前文〕 四月

一通き 五九

御条目〔同前文〕 八月

一通き 六

御条目〔当地警衛勤番〕 御側向宛 一〇月

一通き 元

道中法度 足輕奉行宛 十一月

一通き 三

教令〔上京御供向一統〕 慶応四年四月

一通き 五

○奥向

御奥掟書 子一〇月

張紙

花御丸御門番所定書 寅八月

花之丸御門番人人數定書

中御門番所定 寅八月

御門番定書〔出火之節通行役職名、貼紙にて午三月下座書〕 寅八月

御門番所定書 午三月

御門兩所御張紙写 午七月

新土藏掟書 午六月

御門通行定書 明治四年四月

奥向御条目 午六月

御触

被仰渡書〔正月行事制禁〕（前欠） 水道役宛 一月

家中触書〔人別書差出方〕 武具奉行宛

触書〔武家屋敷地商人へ貸間敷旨〕 七月

人別改出役人廻村御触 御郡中宛 二月

町奉行触廻狀 別紙名面共〔御曲輪木戸出入鑑札引替〕 紙屋町・紺屋町等七町 元治元年二月

一通き 一九

一通き 五五

一通き 五六

一通き 五七

一通き 五八

一通き 五九

一通き 六〇

一通き 六一

一通き 六二

一通き 六三

一通き 六四

一通き 六五

一通き 六六

一通き 六七

一通き 六八

饑饉之節解毒法触書 辰五月

布令・布告

行政官達書〔華族婦藩婦呂勝手次第〕 明治二年七月

太政官布達書〔金札小札発行引替、大村益次郎乱暴人召捕方〕 明治二年九月

太政官布告写申上書〔機四時着用〕 公用人 明治二年二月

布告廻達狀〔天長節之儀〕 少参事 新御殿家扶宛 明治三年九月

繼立村々改正布令写 監察宛

太政官布告写〔本年分家禄称呼金禄ニ改正之旨〕 明治八年九月

市政役所触廻狀及差紙

1〔太政官布告——伊那県設置、鴉片販売禁止〕 町外年番い組々組役人宛 明治三年一〇月

2〔文聴院一周忌法事執行心得〕 同前宛 一〇月

3〔公事訴訟及諸願届差出方〕 同前宛 明治三年一月

4〔巡察官逗留心得方〕 同前宛 一二月

5〔太政官布告——於神田鍋町英人暗殺犯人召捕方〕 同前宛 明治三年一二月

6〔難波者江融通米売捌公示〕 同前宛 一二月

7〔濟急手形商法手形所持員数書上〕 松代藩役所町外年番い組々組・その組・の組役人宛 明治四年一月

一通き 八

一通き 一〇三

一通き 一七三

一通き 一七六

一通き 一七九

一通き 一八二

一通き 一八五

一通き 一八八

一通き 一九一

一通き 一九四

一通き 一九七

一通き 二〇〇

一通き 二〇三

一通き 二〇六

8	〔太政官布告三件〕 い組こ組役人	明治四年一 月	一通き二七九三	郡奉行用状并勘返状〔御勘定吟味支配之是非〕 北 沢源次兵衛宛 七月一九日〔同二五日〕	一通き二七九三
9	〔太政官布告——売棄取締〕 同前宛	明治四年一 月	一通き二七九四	越石代官減員評議書類〔越石代官兩人を本納代官 へ繰入之儀〕	一通き二七九四
10	市政役所差紙〔清須町源蔵呼出〕 ふ組肝煎宛	六月	一通き二八〇二	1 金井左源太用状并勘返状 北沢源次兵衛宛 九 月二四日〔二〇月三日〕	一通
11	同前〔借入金支払通知〕 紺屋町外三町役人宛	八月	一通き二八〇三	2 用状別紙 金井左源太・岡嶋莊蔵・望月權之進 北沢源次兵衛宛 九月二四日	一通
12	同前〔町人町両役人申渡之儀〕 馬喰町外八町役 人宛	一〇月	一通き二八〇四	3 越石代官同手代役替内評覧 九月二四日	一通
13	同前〔申渡之儀〕 いこ組・よこ組役人宛	一〇月	二通き二八〇五	4 別紙内状〔役替後ニ再転役等見込〕	三通
14	同前〔肴町嘉吉呼出〕 肴町役人宛	一〇月	一通き二八〇六	御勝手御用役添役勤方申上書 町田善右衛門・小 林齊太他 一月	一通き二八〇六
15	同前〔佐十郎母ほか呼出〕 中町役人宛	一〇月	一通き二八〇六	御勘定所元ノ役俸勤方評議書類	
16	同前〔民之助相尋之儀〕 伊勢町役人	一〇月	一通き二八〇七	1 御勘定所元ノ役俸勤方申上書案	一通き二八〇七
17	同前〔米山弥右衛門相尋之儀〕 同前宛	一〇月	一通き二八〇八	2 御郡方御尋物答書	一通き二八〇八
18	同前〔依田新之助女房いち申渡之儀〕 中町役人 宛	一二月	一通き二八〇九	3 御尋之儀極密内評答書	一通き二八〇九
	松代庁達書〔免武庫司事其他〕 明治五年二月		一通き二七一	4 御尋物答書	一通き二七一
	松代庁廻状〔貫属土族卒取締ニ長谷川昭道申付〕 明治五年二月晦日		一通き二七五六	5 内々申上書案〔元ノ役勤向之儀〕	一通き二七五六
	御城地処分規定写		一通き二七六三	6 元ノ役御尋物答書認様素案	一通き二七六三
役職				7 御勘定所元ノ役之義申上書案 下書断簡共	一通き二七六三
職制				8 矢沢監物用状〔三輪村源蔵事評議回牒添状〕 岡 嶋莊蔵宛 一〇月二四日	一通き二七六三
				9 御尋物答書〔仁礼村煙草風損御手充被下方〕 矢 野倉惣之進・菊池孝助 一〇月	一通き二七六三
				御勘定役嫡子勤席順尋合書類	一通き二七六三

1 御尋之趣口上覚 矢野倉惣之進・菊池孝助 一 月	一通	3 御勘定吟味御尋物答書〔人数減少之上増人〕 三月二〇日	一通
2 御尋箇条答書案	一通	大御門番人助増人評議書類 一二月	き 二六三
3 御内々申上書 御郡方 一二月	一通	1 御城同心頭添伺書 御勘定吟味答書貼紙	一通
御尋物答書案〔岡本一郎兵衛御祐筆組頭任免延引 其他〕	一通 六六六	2 大御門番人願書	一通
御勘定役見習之内御徒士雇之儀赦免願書 巳一 二月	一綴 一六四 三通 一六四	計政副主事申上書〔御蔵向御人減〕 一月	一通 一六五
午年中在東京御役員 (明治三年)	横長半 仮一冊 一四四	役方仲間増人伺書類	き 八五
○		1 郡政副主事伺書 一二月	一通
官員并従者等格席配当御尋物答書 一二月	一通 三〇二	2 郡政副主事再伺書	一通
職制改正御尋物答書稿	き 五	3 郡政副主事再伺書	一通
1 〔職制表ニ無之旧職禄被下方〕 七月五日	一通	4 郡政副主事・計政副主事伺書 一二月	一通
2 〔一代御目見席同様被下之儀〕 七月五日	一通	用度司取調物人手之儀往復用状 鎌原溶水 草間 一路 九月二五日	一通 一四六
計政副主事申上書〔計政諸係被仰渡伺〕 一月	一通 一六四	任 免	
県庁規則案〔官員出退庁、休暇等〕 明治四年カ	一通 三	手代見習申付書写 宮本市兵衛 文政四年一二月	一通 一六三
官員出退庁規則写 明治四年カ	一通 三	道中人馬掛任命歎願書〔大殿様御遺骸送道中〕 嘉 永五年六月	き 六七
増 減 員		1 御目付添伺書 六月	一通
御坊主組頭内々申上書〔御側御納戸物書一人増 願〕 一月	一通 三	2 才領組小頭荒井弥平願書 案共〔池田俊蔵へ被 仰付度旨〕 六月	三通
下大工御人増評議書類	き 五九四	掛任免控	一通 一六四
1 普請奉行添伺書 三月	一通	高田幾太用状〔三井九郎右衛門御金奉行任命問合 返事〕 一一月	一通 一四三
2 棟梁申上願書 人別書共〔御用繁ニ付五人被仰 渡度旨〕 三月	二通		

達書 表御右筆組頭宛〔宮本國人当分之間大銃方專勤之旨〕

仲間大吉小触申付見合書

神社郡政局補任案

新職制補任案〔右筆・書役・坊主を書記・記録・給使に任命替〕

出張申渡

家老回状〔御帰城并日光御參詣御供〕 小山田沓岐・望月主水 三村大之助他五人宛 天保一四年四月

御供近習役助申付書〔同前〕 磯田小藤太宛

上京御供申付書 小野宗甫宛 真田志摩指圖書共 二月一日

出張申付書〔前島大属・玉井浅之進上京〕 會計懸宛 九月二五日

出張申付書〔中村小一郎上京〕 會計掛宛 一一月一二日

詰番上京申付書 久保成宛

泊日割

跡役任免

望月權之進等三人用状并勘返状〔菊池孝助役替後補充策〕 北沢源次兵衛宛 七月二一日〔九月二三日〕

御役方物書跡役内々申上書案〔高野新之丞組柳沢森太を推挙〕

伊藤環用状〔根来氏之処遇ニ付申送〕 三人宛 二月一〇日

横長半

仮一冊き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

一通き二六元

代官手代跡役取立申上書案〔田中理右衛門跡役〕 慶応四年三月

誓詞

大目付役起請文前書

御守役物書誓詞 中島連藏等二人 文化七年九月

御錠口上番御徒士誓詞 両角岩之進等五六人 文政一三年五月慶応二年一月

御錠口上番御徒士誓詞 柄沢市左衛門等三六人 天保七年一月安政六年九月

内密御用筋誓詞 菅沼九兵衛 天保一〇年二月

鍵番人誓詞 八郎兵衛等二九人 天保七年一月慶応元年一〇月

検地竿打足輕誓詞 二七〇人 宝曆六年二月文久四年二月

検見廻村附人誓詞 一八八人 宝曆一三年七月文政四年八月

検見附人誓詞 七八一人 明和五年明治二年

廻村役人世話役誓詞 五六ヶ村一三一人 明和二年八月文久四年二月

○

神文箱〔弘化四年二月〕〔きぎ器人〕

晴姫様御年寄誓詞 駒野 弘化三年一月

晴姫様御中老・若女中・御小姓誓詞 関野等 一三人 弘化三年一月万延元年二月

一通き二六元

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

一通き三

晴姫様表使誓詞 七年三月	沢野・松尾	嘉永六年二月	一通き	三	御目見人名面書 真田志摩	一二月一日	一通き	四四
御出生様乳持誓詞 月	りん・らく	万延元年一二	一通き	三	御目見人名面書〔家督御礼等〕 真田桜山	明治三年九月	一通き	五三
御出生様抱守誓詞	いわ	万延元年一二月	一通き	元	規 式			
若御前様御中老・若女中・御小姓誓詞 等三五人 天保七年一月文久三年一二月	瀬川		一通き	四〇				
御広式御台所帳附誓詞 保七年一月慶応三年四月	吉左衛門等一三人	天	継一通き	四	御省略中縁女及葬送之儀伺書稿 御尋物答書稿〔御省略中御祝式之内御流被下度旨〕 一二月一六日		一通き	一五
御広式御台所帳附誓詞 三年五月慶応元年九月	門治等一三人	文政一	継一通き	四	御改革ニ付月並節句御礼式之儀評議書類 明治三年		一通き	二五七
鍵番人誓詞 小山勇八等二九人 五月慶応元年九月	文政一三年五		継一通き	四	1 少参事評議答書 一月二四日		一通	き三五
御守役物書誓詞 大三郎等六人 月慶応元年九月	文政一三年五		継一通き	四	2 少参事尋書案〔出仕勤方等〕		一通	
晴姫様御次・御台子・御中居・御末誓詞 等二〇人 弘化三年一二月万延元年一二月	乙女		継一通か三七〇		3 監察御尋物答書 一月		一通	
奥向誓詞御渡方願 添書共 藤田為之丞・畑権兵衛			二通き	三五	4 議事御尋物答書 一月		一通	
御直御内条目拝見請書 東条清見 二月五日			一通き	三三	5 理事御尋物答書 一月二三日		一通	
御 目 見					6 大監察評議答書 彌津神平 一月二三日		一通	
家中江詞懸之節作法 文政六年八月			一通き	八四	月並御礼順案 明治三年六月	横長半	仮一冊き	三三
御目見人名面書〔御役成及着府御礼〕 御側役宛 文政一三年			一通き	五三	社寺年頭御礼献上物評議書類 一月		き	五三六
御目見人名面書〔家督御礼等〕 恩田頼母 天保二年一〇月			一通き	三九〇	1 監察伺書〔社寺・在町共献上物取調方以後司金取扱〕		一通	
					2 監察申上書〔前号ニ添〕		一通	
					3 別紙端書認落断り書 弥治郎 一月四日		一通	
					4 神社郡政副主事御尋物答書		一通	
					5 監察再申上書		一通	

無役席書翰相当〔書式案文〕

諸願伺届差出先凡例 (明治)

口留番所

口留鉄炮御免証文扣 矢嶋源右衛門・師岡十郎右衛門 田口村庄右衛門等宛 寛文二年一〇月

口留番所預り印鑑届書 吉田村役人 郡方手附宛 文化三年一月

口留番人扶持指繼願書 日名村儀左衛門 郡奉行所宛 文政一〇年七月

口留番所勤向心得規定連印請書 関屋村等一九村番人 天保一二年九月

口留番所之儀内々申上書 (寺内多宮カ) 七月

口留番所役人書上〔切米高、郡役人足高、跡式期日等〕 吉田村等二〇村役人 勘定所元ノ宛 天保一四年三月

口留番人苗字御免願添状 鼠宿村忠兵衛 安政五年一月

口留番人御切米御下願書 覆盆子沢村宮嶋碩右衛門 郡政役所宛 明治四年一〇月

口留役御切米郡役御下願 口留惣代有旅村宮原案右衛門 松代役所宛 明治五年一月

口留居屋敷住替願書〔去年御切米未済ニ付聖山住居引下〕 中牧村待井嘉左衛門 同前宛 明治五年二月

一通き 六四

一通き 五七

一通き 六三

一通き 三七

一通き 六三

一通き 八四

一通き 三六

二〇通き 一五三

一通き 三三

一通き 三六

一通き 三七

一通き 三九

勤方

勤方規定

被仰渡之趣御請留〔御用透之節在宅取計方通達〕 天明三年二月

大検見廻村之節村方賄改方書類〔文政四年申渡之処、村方賄粗末ニ過ギ差支ニ依リ以前之如ク可為〕 文政六年

1 家老用状 恩田鞆負 鹿野外守・岡嶋莊藏宛 七月六日

2 郡奉行返書扣 鹿野・岡嶋 七月九日

3 郡奉行返書稿

4 家老申付書 望月權之進宛 七月二日

5 申渡書案 七月

三井源吾用状〔同役差扣過勤之儀〕 野村左兵衛宛

表御用人伺書下案〔御近領ノ之使者会所へ供連之儀〕 五月

出火之節奥向手配覚 申一月

非常之節奥向手配覚

進達書〔在京行動慎方〕 御目付

勘定方懸案箇条書〔大銃払下其他〕 二月一五日

坂下門等警衛兵隊交代詰規則評議書類

1 望月帰一郎用状 鎌原溶水宛 二月一九日

2 御物頭伺書 一〇月

一通き 五七

き 一七六

一通

一通

一通

一通

一通

一通き 一五三

三通き 三三

一通き 一七三

一通き 三六

一通き 三九

一通き 一四

き 一〇三

一通

一通

3 御勘定吟味御尋物答書 添書共 十一月一八日 勤書之儀評議書類	一通	き 六
1 尋書箇条案〔公廨官員は日勤帳有之ニ付不用、 員外は可差出〕	一通	
2 監察御尋物答書 一月	一通	
3 監察御尋物答書添状 一月	一通	
4 少参事評議答書 一月一三日	一通	
鎌原溶水用状〔計政方算師、障子穴ノ書類金子等取 引禁止〕岡野敬一郎宛 二月一九日	一通き 一〇	
御城内并御曲輪諸御門御番所兵隊持被仰渡諸書 類 明治三年 禁入	一通 ぎ 六二	
1 被仰渡書 銃兵副隊長補・銃兵小隊長宛 三月四 日	一通	
2 諸門番所人数并勤方伺書	一通	
3 諸門番所人数并勤方伺書下書	一綴	
4 番人勤方其外改箇条	一通	
5 旧番人等総人数覚	一通	
6 大隊組立方案	二通	
7 小隊長試補職掌伺書	一通	
8 職掌改正申立箇条	一通	
9 諸門番所隊長配置案	一通	
10 御賞被下物先例書	一通	
藩印用方箇条 明治三年四月カ	一通き 二五	
御城諸門鍵目録稿	一通き 二〇	

奥向鍵引渡控	一通き 三九
鍵入包紙	二枚き 二九
○	
水道役申継箇条〔御厩方用水増設〕落合量蔵・竹 内小左衛門 文化三年ノ八年	一通き 二六
御奥坊主役勤方願書〔兼役赦免等三ヶ条〕	一通き 五九
司金方金錢取扱制限申上書案	一通き 五
表坊主日勤評議書類	き 五
1 書記長願書 理事宛 六月	一通
2 理事添願書 六月	一通
3 計政副主事御尋物答書 七月	一通
4 理事御尋物答書 七月四日	一通
願 届 書	
御在所御近習願書〔上京御供〕 一一月	一通き 三六
竹内晋平内用書状〔滯府延長依頼〕山寺源太夫・ 磯田音門宛 一月四日	一通き 四四
詰番引継滯府願書類	き 一三
1 水野芳之助伺書〔詰番交代〕 一二月	一通
2 柘植嘉兵衛伺書〔水野引統滯府〕 一月七日	一通
3 柘植嘉兵衛願書〔水野滯府之為休息暇願〕河原 左京・鎌原伊野右衛門宛 一月八日	一通
中村耕太夫取統方願書 同親類 一二月	一通き 三三
水道方仲間兼帯役赦免願書〔荷物会所小使兼帯御 免〕弥惣治・幸蔵 元ノ小沼民弥宛 文政一一年三 月	一通き 五八

吟味中老父看病御暇歎願書写

一通き 四七

1 親類歎願書写 八月五日

一通

2 北沢善三郎歎願書 親類宛 八月一六日

一通

丸山平左衛門俸出勤内願書 添願書共

一通き 三六

病氣全快ニ付再出仕願書 野中 (明治三年カ)
一〇月

一通き 一七

○

中村孝太夫御願筋御尋ニ付申上書 (借財返済迄
於大塚村筆算師範勤中日勤赦免願) 七月四日

一通き 二〇

佐藤三次門弟申立評議書類 (公廨出仕遅刻願)

一通き 二六

1 理事御尋物答書 二月八日

一通

2 監察御尋物答書 二月

一通

3 書記長御尋物答書 南沢喜久人 二月一〇日

一通

4 議事御尋物答書 二月

一通

5 少参事評議答書 二月一四日

一通

6 口達書取

一通

郷原力作親類歎願書 (医療ノ為上京願) 高田栄作
他二人 明治四年一〇月

一通き 三五

○

井堀勇右衛門産穢届書 案共 一〇月二日

一通き 五三

入湯療治御暇願書案文

一通き 三二

河原敬之進書状 (山田見龍加療ノ為歩行内願) 宮
下孫兵衛宛 八月二〇日

一通き 三三

柏崎県へ出仕之者下役拝借評議書類

き 四五

1 権少参事申上書 五月

一通

2 片岡半十郎添伺書 (中村欽蔵願出) 五月

一通

3 計監御尋物答書 五月

一通

4 計政副主事御尋物答書 五月

一通

印鑑

真田弾正大弼家老等印鑑届 四月

一通き 三五

差出印鑑 差出書共 水道役宛

六通き 一四

出欠勤

伊東千右衛門書状 (腹痛にて欠勤) 入弥左衛門宛
五月一〇日

一通き 五三

春山喜平次書状 (藩中名籍書上草案催促返事及欠
勤申訳) 一九日

一通き 五八

春山喜平次書状 (欠勤連絡) 八月二〇日

一通き 五七

御用詰足輕之内帰辻并居継名前差出書 割番
一〇月

一通き 二七

本詰婦着人別差出書 割番 一〇月

一通き 二五

御役別長滞府出府人調 (嘉永二年カ)

四通き 八三

出張日数書出 (慶応四年閏四月〜二月)

一通き 一五

出張日数書出 (明治元年二月〜二年四月)

一通き 一六

東寺尾村御取締所出役日数取調書 (同前)

一通き 一六

桑原関門出張日数書出 武田新右衛門

一通き 一三

出欠勤一紙申上覚

職事掛職員名届 明治三年〜四年

出仕人名書出 (明治五年)〔き一五、一六、一括〕

出仕人名書出 司金方 明治五年

人名書

官職別金額仕出

卯年中勤覚 小野宗甫、小出一郎、関吉十郎、仙田忠兵衛、平野玄喜、平野玄祐、宮岡宗清、山田久左衛門 慶応四年一月

巳年中勤覚 監察 一月

呼出状

呼出御用回状 南沢喜久人・矢野清智 稲葉茂十郎他四人宛 一一月四日

呼出御用回状 同前 小林圭三他二〇人宛 一一月四日

呼出御用回状 同前 高橋龍左衛門他一〇人宛 一一月四日

呼出御用回状 同前 宮入作兵衛他二〇人宛 一一月四日

呼出御用回状 同前 小幡茂義他一人宛 一一月六日

呼出御用回状 同前 倉田三之丞他四人宛 一一月六日

呼出御用回状 同前 宮本慎助他一人宛 一一月六日

一通き 一五

一通き 一六

一通き 一七

一通き 一八

一通き 一九

一通き 二〇

一〇通き 二六

一通き 二七

一通き 二八

一通き 二九

一通き 三〇

一通き 三一

一通き 三二

一通き 三三

一通き 三四

一通き 三五

呼出御用回状 同前 宮川国蔵他三人宛 一二月六日

呼出御用回状 同前 青柳増太郎他二人宛 一二月六日

呼出人名前書

勤方

○表御用人宛

御用番御達書 文久三年一月

竹内小左衛門書状〔人遣多ニ付吉岡喜惣治揚人〕 三月一七日

袋入

達書〔御参詣延引〕

達書〔池田宮代参〕

達書〔御不快ニ付御逢無之〕

達書〔明十四日長国寺棚経登城〕

普請方用状〔先月渡済之印紙入箱本証文回達〕 七月

達書〔舞鶴山御社参延引〕

達書〔城内鎮守等御参詣〕

家老差図書 赤沢助之進 山中鹿渡宛 二月一八日

達書〔貞松院様被進之鏡餅用意〕

家老差図書 赤沢助之進 寺内友右衛門宛 一〇月九日

達書〔御参府餞別品用意〕

一通き 二三

一通き 二四

一通き 二五

一通き 二六

一通き 二七

一通き 二八

一通き 二九

一通き 三〇

一通き 三一

一通き 三二

一通き 三三

一通き 三四

一通き 三五

一通き 三六

奉札廻達添狀 畑權兵衛 寺内友右衛門他三人宛 二月一三日	一通き 三三〇	1 〔年頭祝詞返礼〕 一月六日	
宇敷元之丞用狀〔附人揚人増依頼〕 七月一日	一通き 三三六	2 〔窪田藤吾長詰家内引越之儀、番方人数、奉公人村方高割差出〕 金井・岡嶋宛 一月一五日	一通
達書〔十住心院入院献上物〕	一通き 三三六	3 〔窪田出府見合ニ付代人被仰下度旨、勘定役せり方勤様之事〕 同前宛 一月一九日	一通
用狀回達添狀 望月帰一郎 寺内友右衛門宛 四月二三日	一通き 三三〇	4 〔御入料積調之内不審点問合〕 同前宛 一月二一日	一通
達書〔御参府餞別品用意〕	一通き 三三二	望月甚三郎用狀〔同姓権之進死去断り〕 金井・岡嶋宛 一月一〇日	一通き 一六六
達書〔碧松院三回忌生花御供〕	一通き 三三三	家老差図書 小山田采女 岡嶋莊藏宛	一通き 一六五
達書〔善光寺献上物使者進物〕	一通き 三三三	1 〔丁打場村方故障申立之趣穿鑿〕 一月二八日	一通
達書〔明四日長国寺登城〕	一通き 三三四	2 〔触書案文存念可申聞〕 一月一六日	一通
達書〔勢州御代参へ御初穂科渡方〕	一通き 三三三	3 〔真田内藏申立之儀取調〕	一通
宇敷元之丞書狀〔豊隆院一周忌修行御用揚人出頭依頼〕 六月二九日	一通き 三三六	4 〔別紙勘考〕 二月一六日	一通
普請方用狀〔先月中渡物本証文廻達〕 亥二月	一通き 三三七	5 〔別紙見込再上申〕 二月一八日	一通
○御郡方		6 〔職奉行何評議、佐右衛門之儀可申聞〕 二月二六日	一通
御郡方宛用狀類 文政七年〳九年〔き・ろ・ろ・ろ・ろ〕		7 〔御用紙受払帳通之為勘定役老人申渡方〕 二月二六日	一通
岡嶋莊藏用狀并勘返狀〔役所向無事、江戸世情報知〕 金井左源太宛 一月一八日〔二五五〕	一通き 一六八	8 〔大殿様御奥支配詰高書類差越方〕 二月二七日	一通
金井左源太用狀〔御金荷出し方變更等〕 鹿野外守・岡嶋莊藏・望月権之助宛 一月二四日	一通き 一六九	家老差図書 恩田靱負 岡嶋莊藏宛 二月	一通き 一六〇
金井左源太用狀〔吉原大八被下物、非人被下物其他〕 岡嶋莊藏宛 一月二八日	一通き 一七〇	家老差図書〔別紙穿鑿方〕 同前 同前宛 二月八日	一通き 一六三
金井左源太用狀〔神尾又左衛門示談之上趣意申含〕 同前宛 二月三日	一通き 一七一	恩田靱負添狀 同前宛 二月八日	一通き 一六五
北沢源次兵衛用狀	一通き 一六五		

3〔五十平村名主安兵衛吟味中町宿預通知〕 同前宛 二月九日	一通	4〔御奥支配詰高被仰渡控書拔受領〕 二月二七日	一通
4〔妻科村名主与兵衛同前〕 同前宛 二月一日	一通	出浦梅千人等用狀〔立歸出府道中本馬等何濟之件督促〕 金井・岡嶋宛 二月二三日	一通き二六三
5〔栃原村辺張札一件札書類及麦猪買ノ取調書一覽之札〕 岡嶋莊藏宛 二月一日	一通	金兒丈助用狀〔上徳間村亀吉柴代一件申出別紙請取〕 岡嶋莊藏宛 二月二六日	一通き二七三
6〔宮崎新田村一件申渡ニ付利左衛門等田畑借財引当ニ差出之旨通知〕 郡方宛 二月一三日	一通	十郎左衛門用狀〔先月中台所入料中借帳回付〕 郡方宛 二月二八日	一通き二七六
家財闕所ニ不及旨伺書案〔宮崎新田村百姓等非人手下申付一件〕 二月	一通き二六四	木内求喜用狀〔四ッ屋村一件和談書類返上〕 岡嶋莊藏宛 三月二日	一通き二九〇
甚右衛門用狀〔明八日善光寺役僧御賄用意依頼〕 岡嶋莊藏宛 二月七日	一通き二六六	岡野用狀〔別帳不審箇所下札添狀〕 同前宛 一日	一通き二七九
用狀〔被下物等年訳取調之儀被仰渡請〕 同前宛 二月七日	一通き二九四	勘定帳逼方依頼狀 郡方宛 一月六日他	三通き二七四
友之進用狀〔慶宝院一件片付之謝辭〕 同前宛 二月一日	一通き二六八	普請方用狀〔勘定帳類逼方依頼〕 同前宛 二月二日他	七通き二四七
武具方用狀 郡方宛	一通き二六〇	道橋方用狀〔同前〕 同前宛 二月六日他	三通き二四六
1〔刀鍛冶山口孝作御手充勅御聞濟通知〕 二月一八日	一通	御余慶方用狀〔同前〕 同前宛 二月八日	一通き二六三
2〔戊午諸色立合見届元帳逼方依頼〕 二月二一日	一通	御弘方用狀〔同前〕 同前宛 二月一三日	一通き二六二
3〔組平御扶持被下方差図返事〕 二月二二日	一通	御吟味方用狀〔同前〕 同前宛 二月二五日	一通き二六一
成本治左衛門用狀 岡嶋莊藏宛	き二六四	綿貫新兵衛等用狀・岡嶋莊藏用狀并勸返狀〔役付同心返上之儀〕 岡嶋宛 二月一〇日	二通き二六三
1〔別紙三袋差上及月割上納年季明村々被下目録承知〕 二月一〇日	一通	齊藤善九郎用狀〔友作外出ニ付代人差出掛合返答〕 同前宛 一月七日	一通き二六一
2〔納戸役詰高雜用額等問合〕 二月二四日	一通	杉田九八郎用狀 郡方宛	き二六七
3〔出府被下物掛合書面不明箇所問合〕 二月二五日	一通	1〔御厩飼御借人返上通知〕 一月晦日	一通
		2〔御扶持帳逼方依頼〕 二月四日	一通

大日方勸助用狀〔竹川吉右衛門返人申渡通知〕
岡嶋莊藏宛 二月五日
一通き二七二

書狀届方依頼添狀 同前宛 二月三日
一通き二六九

普請方用狀〔明後日飛脚出内報〕 郡方宛 六日
一通き二六八

岡嶋莊藏用狀并勘返狀〔北沢同役宛金子入用狀
差遣依頼、同承諾〕 普請方宛 二月七日
一通き二六五

彌津左盛用狀〔寺内殿書狀回送礼〕 岡嶋莊藏宛
二月八日
一通き二六五

畑權兵衛書狀〔年頭祝詞〕 同前宛 一月二八日
一通き二六六

小松義兵衛・同文治書狀〔同前〕 同前宛 一
月二九日
一通き二六七

與津權右衛門書狀〔同役就任挨拶〕 同前宛 二
月一日
一通き二六九

坂本書狀〔時候見舞品贈呈〕 同前宛 二月一九
日
一通き二六七

御郡方手分付帳〔村々組分付〕 文政七年八月
一通き二八〇

家老差函書〔詰番出府被下物〕 矢沢監物 岡嶋莊
藏宛 二月七日
一通き二六六

家老差函書〔御参府御供並方御賄被下〕 望月主水
同前宛 四月七日
一通き二六四

家老差函書〔御留守詰出府被下物〕 矢沢監物 金
児丈助宛 五月二六日
一通き二五五

家老差函書〔囚人差送ニ付賄等先規之通〕 恩田頼
母 岡嶋莊藏宛 九月一六日
一通き二五三

家老達書〔伊藤佐右衛門大崎御屋敷守御請意向聞
合〕 小山田采女 岡嶋莊藏宛 二月二〇日
一通き二五五

* 矢沢監物用狀〔三輪村源藏事評議回牒添狀〕 岡嶋
莊藏宛 一〇月二四日
一通き 九

違作米穀松底ニ付入上穀等融通差出伺書 小出
重三郎、伊藤一学 郡奉行所宛 一〇月
一通き三七二

岡嶋莊藏用狀〔松木氏書類回達、他〕 鹿野外守・
望月權之進宛 一月七日
一通き二四九

岡嶋莊藏添狀 別紙欠 同前宛 一月八日
一通き二四八

岡嶋莊藏用狀〔宮下善左衛門忌掛り相談〕 同前宛
一月二五日
一通き二四〇

岡嶋莊藏用狀并勘返狀〔大塚村伺申渡取調及東条
村一件書類回達〕 金井左源太宛 五月一〇日
一通き二四〇

岡嶋莊藏・北沢源次兵衛往復用狀
一通き二四六

1 岡嶋用狀并勘返狀〔所々御普請其他收納取計〕
一〇月二三日〔一八日〕
一通

2 岡嶋用狀并勘返狀〔左源太書狀送付〕 一〇月一
七日〔二八日〕
一通

3 金井左源太書狀写〔当暮收納凡積〕 岡嶋宛 一
〇月一三日
一通

4 北沢用狀〔用狀類九封受取、廻米申立書面了承〕
岡嶋宛 一〇月一八日
一通

○御勘定吟味宛
寅三月中品々被仰渡書 慶応二年
一通き二五五

1 家老通達書〔京都警衛之武器類船積差送仕法承
濟〕 玉川左門 柘植嘉兵衛宛 三月一日
一通

2 家老通達書〔雇組新吉飛脚路錢承濟〕 同前 同
前宛 三月三日
一通

3 家老通達書〔貞松院様御仕向不足分来卯年分内
借承濟〕 同前 同前宛 三月四日
一通

4 達書〔鹿野茂手木・石倉藤右衛門滞府増御手充〕 御勘定吟味宛	一通	家老差図書〔牛堀辺水溢箇所手当申付〕 恩田木工 水道役宛 六月一七日	一通き 三四
5 滞府増御手充役別覧 御勘定吟味宛	一通	達書〔水道方仲間へ酒代銀被下〕 同前宛 天保一 年一二月	一通き 三五
6 通達書〔足輕劍術稽古出精御手充承済〕 御勘定 吟味宛 三月	一通	達書〔湯治留守中諸番入念〕 同前宛	一通き 三六
7 通達書〔稽古所普請増入料、御台場疊替入料承 済〕 同前宛	一通	達書〔喰違御門内木戸錠前扱方〕 同前宛	一通き 三七
8 家老通達書〔南部坂組合辻番人給金増承済〕 玉 川左門 柘植嘉兵衛宛 三月一六日	一通	家老差図書〔支配御目見以下年代之留差出方〕 真 田志摩 三輪徳左衛門宛 九月一一日	一通き 三八
9 通達書〔献上馬代金承済〕 御勘定吟味宛	一通	家老差図書〔来ル四月九日十二日出役〕 同前 沢 元馬宛 一月三日	一通き 三九
10 通達書〔上京用意武器類買上代承済〕 同前宛	一通	家老差図書〔神田川筋川浚普請見分立合人差出方〕 望月主水 竹内小左衛門宛 一〇月二二日	一通き 三〇
11 通達書〔片岡鬼之丞他出立拝借金承済〕 同前宛	一通	達書〔佐藤正左衛門へ屋敷地被下〕 平林縫殿進宛 一〇月一〇日	一通き 三一
12 通達書〔京都へ持参武器類買上代承済〕 同前宛	一通	家老差図書〔寺内多宮木町小越町釘貫無挑灯通行〕 小山田采女 宮沢丹下宛 三月九日	一通き 三二
13 通達書〔清水一郎砲術別義ニ依リ拝借金承済〕 同前宛	一通	達書〔御目見以下極窮者取調〕 小林奥左衛門宛 文政八年一月	一通き 三三
14 通達書〔大御前様御賄料来卯年分前借承済〕 同 前宛	一通	家老差図書〔御城同心頭大御門番所詰番免除〕 恩 田靱負 佐藤三九郎宛 一二月二九日	一通き 三四
15 家老差図書〔月岡桂齊等上京御供御手充金〕 鎌 原伊野右衛門 柘植嘉兵衛宛 三月晦日	一通	達書〔御勘定役ニ町間測量御用申付〕 水道役宛 文化一三年二月	一通き 三五
16 家老通達書〔御台場御用船代金承済〕 玉川左門 同前宛 三月晦日	一通	達書〔来西年迄五ヶ年御定金省略〕 八月一一日	一通き 三六
17 達書〔岸太五之丞度々御供御手充拝借〕 三月晦 日	一通	家老差図書〔御船屋脇新道明日々通用〕 小山田竜 岐 水道役宛 一一月一一日	一通き 三七
○水道役宛		達書〔去五月御殿焼失之節出精御目見以下へ申渡〕 水道役宛 嘉永六年	一通き 三八

達書〔諏訪宮等御參詣〕 同前宛 (二四日)
 達書〔感応院様興與昇仲間御答〕 同前宛 二月四日
 内密申渡書 同前宛
 ○
 御尋留へ書入箇条〔江府廻リ既済伺之内御金掛へ廻ス分〕 子四月
 家老廻状〔大殿様発駕通知〕 鎌原伊野右衛門 齊
 藤友衛等一六人宛 四月二四日
 反古紙請取書 安政二年〳三年
 1 普請方請取書 弘方宛 三月二四日
 2 菅沼小弥太請取書〔窓障子入用〕 湯本十学他二人宛 卯一〇月
 3 禰津繁人請取書〔砲術角の入料〕 関山平治他四人宛 辰六月
 武鑑御名入箇所評議書類〔溝口主膳正拾方石高直しニ付真田家ノ前ニ入度旨溝口家及須原屋々内談之趣〕 文久二年五月 封入
 1 江戸留守届伺書写 津田転
 2 評議答書下案 御用所
 御升初被仰渡請書 三井清治 岡野敬一郎宛 一〇月七日
 岡野敬一郎用状并勘返状〔製造手形引換場廻之張幕借用〕 武庫司事宛 四月一〇日
 丸山竹阮用状〔奉書紙漉立之儀玉井繁之助へ被仰渡度旨〕 岡野敬一郎宛 九月二二日
 * 御尋物答書〔仁礼村煙草風損御手充被下方〕 矢野倉惣之進他 一〇月

一通き 三九
 一通き 三〇
 一通き 一宛
 一通き 一七四
 一通き 三六
 一通き 一六三
 一通
 一通
 一通
 一通
 一通
 一通
 一通き 三
 一通き 三三
 一通き 四六
 一通き 二〇

矢野唯美書状〔提出書類添削依頼〕 長谷川昭道宛 九月二二日
 理事通達写〔諸願伺書類認様、知事上京日程〕 五月一三日
 郡県御事件ニ付口論御書取按 添書共 明治四年一月
 新曆刊行變更ニ付民間頒布方伺往復書類 明治四年
 1 近藤権大属用状并勘返状 渡辺大属宛 一〇月二七日(一)月四日
 2 新曆民間頒布方伺書写 一一月
 3 文部省回答進達書 一一月三日
 用 状
 元方用状〔御帳取極立合有無問合〕 御金掛宛 七月一日
 伊藤盛太郎用状 金子受取書入〔受取書送付〕 酒井市治宛 三月二七日
 植木直衛用状〔入料金請取切手添状〕 宮下孫兵衛宛 八月九日
 春日用状〔小市村明鑾料其他〕 丸山宛 二月五日
 鹿野茂手木用状〔御前様向諸事連絡〕 宮下謙太夫宛 二月二六日
 久保極人等用状〔献備物同席中人数報知〕 中俣一平・宮下孫兵衛宛 五月二二日
 佐藤伊与之進用状〔石爐送届遅延返答〕 御奥元ノ宛 二月二六日
 佐藤伊与之進用状〔上ヶ壘之儀其他返答〕 中嶋渡浪宛 二月二五日

一通き 一六
 一通き 七〇
 一通き 一八
 き 八元
 一通
 一通
 一通
 一通き 二四九
 一通き 二四六
 一通き 二四三
 一通き 八〇
 一通き 四四
 一通き 二七
 一通き 四七
 一通き 四六

座間百人用狀〔助郷村方御礼出府之件〕 岡嶋莊藏宛 二月一三日	一通き二四一	1〔高井三九郎願出内借金依頼〕 三月二〇日	一通
柘植嘉兵衛用狀〔御徒目付片岡千吉出立御手充拝借連絡〕 鎌原伊野右衛門・大熊衛士宛 七月二八日	一通き四九三	2〔同前一部下付ノ請取書送付〕 三月二六日	一通
柘植嘉兵衛用狀別紙 御両所宛 二月一日	一通き二五四	御藏番用狀〔去亥年麻本証文回達依頼〕 北沢丈兵衛 山本權平宛 一月二五日	一通き四七
津田軫・畑權兵衛用狀 山中鹿渡他二人宛	き二五四	文藏用狀〔歳暮之砂糖送付、拝借入料金回付〕 片桐重之助・高野寛之進宛 二月一七日	二通き二五八
1〔御覽濟奉札返戻〕 一〇月一五日	一通	相沢龍太郎用狀 返書下案共〔笠提灯制寒施ニ付注文願、水原泉へ出動内命其他〕 明治三年一月二日	三通き三七
2〔宗門改証文印紙請取〕 一〇月一九日	一通	赤沢助之進用狀〔東京へ差送金依頼〕 鎌原伊野右衛門宛 四月二七日	一通き五五
徳田多膳用狀〔献上之大小差送通知〕 金児総左衛門他六人宛 三月四日	一通き五〇九	入弥左衛門用狀〔県庁差出之給禄帳修正依頼〕 春山喜平次・田沢廉助宛 二月七日	一通き二五〇
中沢義市用狀〔取調書類訂正添狀〕 片桐重之助・高野寛之進宛 一〇月八日	一通き二五〇	小野唯之進用狀〔生糸蚕種鑑札冥加金及降伏人入料為替請取通知〕 酒井市治・水野清右衛門宛 明治二年七月	一通き二四四
中沢義市用狀〔千曲川入料辻取調差出添狀〕 片桐重之助宛 一〇月一三日	一通き二五一	大塚谷平用狀〔千両送付方依頼〕 同前他一人宛 四月一四日	一通き二五〇
長谷川深美用狀〔替地并蓄穀之儀返答〕 山寺源太夫宛 七月一四日	一通き二五七	大塚谷平用狀〔御用金至急送付依頼〕 同前宛 八月一日	一通き二五九
幡場潤藏用狀〔伊勢町伝兵衛酒造冥加上納ニ付時借願〕 小野清右衛門宛 一〇月八日	一通き二四四	岡野敬一郎用狀〔西沢仁兵衛へ利糶支払一条〕 水野清右衛門宛 三月一八日	一通き二四四
藤井浅右衛門用狀〔信濃守横浜表外国官と面会打合〕 中俣一平宛 七月九日	二通き二四九	岡野敬一郎用狀〔役所小算筭書類遣され度旨〕 富永新平宛 三月二〇日	一通き二五九
堀内太一郎用狀〔月割金御廻シ依頼、植木直衛勢州代参賄代等証文送付〕 片桐重之助・高野寛之進宛 一月一四日	一通き二五二	岡野敬一郎用狀 同前宛	き八六
水井忠藏用狀〔領和目録御渡之旨通知〕 松本嘉十郎他二人宛 八月二〇日	一通き二五九	1〔大岡笹久組申立書類回達依頼〕 二月三〇日	一通
矢沢監物用狀〔江戸調金準備〕 岡嶋莊藏宛 七月二四日	一通き二六		
三沢刑部丞用狀 弥右衛門宛	き二四三		

2〔去六月司金方紛失金執成書面伝達〕 二月三〇日
 3別帳紛失尋方口上書
 岡野敬一郎用状〔奥村小文吾申立貸下金検討、大里忠一郎越後表生糸代金官札引換〕 同前宛 五月九日
 岡野敬一郎用状〔借入金相談〕 水野清右衛門宛 一四日
 草間一路用状〔岩鼻御普請一件延引〕 一場源七郎宛 二八日
 酒井市治用状〔塚田源吾酒造冥加時借依頼〕 水野清右衛門宛 九月一五日
 岡田莊助用状〔大坂表扶持方請取書送付添状〕 酒井市治・水野清右衛門宛 一月
 岡田恭藏用状〔於大坂白山・奥村両家扶持支給催促〕 同前宛 明治三年閏一〇月
 高田幾太用状〔文武方当年引当金其他受領〕 磯田音門宛 二月一七日
 竹花兵馬用状〔十日町辺借入金出張中報告〕 酒井市治・水野清右衛門宛 明治二年一〇月
 長谷川平次郎用状〔藩知事一条、大村等不慮之作〕 明治二年九月四日、五日
 京都留守官布告写〔弁官伝達所改称、大村一件〕（前号と一括） 長谷川平次郎 九月一六日
 南沢喜久人添状 一月二〇日
 宮本慎助用状〔答書取扱〕（堀内）莊作他宛 二五日
 宮本慎助用状案〔伊那県申越之国図一条〕 一一月二二日

一通
 一通
 き五三
 き五〇
 一通き二四一
 一通き二四三
 二通き二四七
 一通き二六二
 二通き二五五
 一通き二三五
 二通き二七五
 一通き二七四
 一通き二六六
 一通き二五三
 一通き二五三

望月掃一郎用状〔公議方内用金御下ケ依頼〕 高山純一郎宛 一一月二九日
 喜左衛門添状 水野清右衛門宛 一月
 ○京都用状
 京都御用状 明治二年
 1駒村佐十郎用状〔京都入料為替繰廻〕 酒井市治・水野清右衛門宛 一月一五日
 2駒村佐十郎用状〔岩村田藩土差送賄代、熊野三山借入金〕 同前宛 一月一八日
 3用状〔殿様参内報知〕（一月一五日）
 4前嶋友之進用状〔京都入料為替繰廻〕 送金受取書共 草間一路・岡野弥右衛門宛 一月二五日
 5前嶋友之進用状〔京都表借入金送状〕 入用金請取切手共 同前宛 一月二六日
 6駒村佐十郎用状〔送金受領、京都入料積、熊野借入金返済其他〕 別紙共 酒井・水野宛 二月八日
 西京御用状 明治二年
 1駒村佐十郎・茂市用状〔京都諸入料送金依頼〕 水野清右衛門宛 四月七日
 2久保極人用状〔在京中月割金送金依頼〕 佐藤為之進・岡野弥右衛門宛 四月二七日
 3宮本慎助用状〔京都長滞留入料増申入〕 水野宛 四月二七日
 4大塚谷平用状〔六日付用状返事、入用引当為替取計其他〕 酒井・水野宛 七月一四日

袋入
 袋入
 一通き二四六
 一通き二四七
 一通
 一通
 一通
 一通
 二通
 三通
 袋入
 き二四七
 一通
 三通
 一通
 一通
 一通

5 御借入金之儀代官評議之次第 手代申上書共 (5、10一括) 四月二五日	二通	9 紙屋忠兵衛書出し〔蠟燭代金〕 御茶部屋宛 一 一月一六日	一通
6 藤右衛門用狀〔借入金及用達金利息返済日通知〕 酒井・水野宛 四月二四日	一通	10 被下物御書付案〔宮岡宗宅へ帷子〕 (一〇月)	一通
7 山口久米太用狀〔酒井忠兵衛用達金御下ケ依頼〕 別紙共 同前宛 五月三日	二通	11 被下物之儀書留〔同前手統〕	一通
8 元方御金奉行用狀〔有合金札高取調届〕 御勝手 元宛 五月三日	二通	12 文久二年献上物目錄書拔	一通
9 弘方御金奉行用狀〔同前〕 御金掛宛 五月三日	一通	13 御側向人数書	一通
10 借入金利息書出〔佐藤様へ返済分〕	一通	14 河原敬之進書狀〔昨夕之儀故障断り〕 宮下孫兵 衛宛 二月二〇日	一通
用狀〔京堀川弥助子方吉牢死見分之手附出役依頼〕 一二月二一日	一通き二五六	家中用狀其他綴〔差出書、宛名破棄のものなど〕	一綴き二五八 (二通)
○用狀綴		○	
用狀其他綴合	き二五九	用狀等送狀 右門 兩所宛 四月一八日	一通き二八三
1 鹿野茂手木用狀〔殿様城着御歛〕 宮下孫兵衛宛 八月二一日	一通	用狀送狀及同添狀 玉川一学 畑権兵衛・津田転 宛 五月二二日、二三日	二通き二八三
2 伺書案〔中侯一平側頭取武具奉行兼帶申付之儀〕	一通	関田莊助・酒井市治用狀〔用狀回送〕 青柳丈左 衛門宛 三月八日	一通き二五五
3 用狀 後欠	一通	其他	
4 月岡万里被下物再伺書案	一通	御帳目錄〔酉年勘定帳類及御余計方上納帳類目錄〕 飯島五右衛門・中山兵助 戌一二月、六月	二通き二〇九
5 用狀案 前欠 一二月二一日	一通	岸殿へ伝言簡条〔御台所目付跡役、天扶持、御借 人仲間拝借等〕	一通き二〇五
6 高野広馬用狀〔道中献上物割合等取計之礼〕 宮 下孫兵衛宛 一〇月七日	一通	勘定調物之儀申上書	二通き二四四
7 三郎兵衛用狀〔拝借金上納添狀〕 同前宛 一一 月二五日	一通	荒井伴之助申上書〔京都表へ御藩用相勤候節経緯 報告〕 三月二六日	一通き二〇六
8 用狀案〔大殿様壮年にて隠居之儀〕	一通	簡条覚書〔春日庫治歎願之事、菊屋伝兵衛借入金内 尋之事、赤沢蘭溪一五〇両書面之事〕	一通き二一五

名札紙〔草間元、馬場広人名入〕	一三枚き三七	5 御勝手元ノ御尋物答書 六月二九日	一通
城内番所不締筋評議書類	き四九	6 中老評議答書 鈴木内蔵允 七月二日	一通
1 監使内々申上書〔城内ノ青竹等持出之儀、不締ニ付申立〕 二月五日	一通	7 公事方家老評議書 河原左京 真田志摩宛 八月六日	一通
2 監察御尋物答書 二月	一通	8 家老用状 真田志摩 玉川左門宛 八月一六日	一通
3 少参事評議答書 二月一四日	一通	9 家老用状 同前 河原左京宛 八月一六日	一通
4 計監御尋物答書 二月一八日	一通	出精被下物見合書〔御右筆役五人例〕	一通き二六三
5 被仰渡書案〔城内番所不締筋改方〕	一通	御賞申上書案〔元飯米掛春日榮作〕	一通き二六三
集議院達書〔金山二郎当院寄宿生申付旨〕 松代藩宛 四月	一通き二〇四	我妻竹内新左衛門御賞筋評議書類 明治二年	き二〇〇
○		1 我妻中歟願書 三月	一通
計政副主事御尋物答書案〔水原県御金出之儀〕 四月一三日	一通き一七	2 御城同心頭添伺書 三月	一通
		3 御城代添書 三月	一通
		4 御勘定吟味御尋物答書 三月	一通
賞 罰		5 御尋物答書 五月	一通
御 賞		勘定所元ノ役内々申上書下案〔御目見席春原仲太已御賞之儀〕 九月	二通き三六五
達書〔水道方仲間役料用立御賞〕 水道役宛 文政一三年一月	一通き八九	野村莊左衛門御賞筋願書写〔納叔拾俵被下方〕 窪田章之助他 一〇月	一通き三六
岩下権太夫御賞筋評議書類〔在坂中御貸馬乗責之件〕 慶応元年	き二〇六	丸山源五左衛門出精御賞評議書類	き二六
1 家老廻状 河原左京 家老四人宛 八月二四日	一通	1 表御用人願書写 四月	一通
2 山中小平次申上書 閏五月	一通	2 在職年数寛書	一通
3 御馬奉行伺書 閏五月	一通	3 監督御尋物答書 二月二二日	一通
4 御勘定吟味御尋物答書 六月二二日	一通	4 表御用人伺書写〔野村莊左衛門・丸山源五左衛門御賞〕 一〇月	一通

5 表御右筆組頭願書写 明治三年一〇月	一通	1 矢野唯見伺書 一一月八日	一通
丸山源五左衛門出精御賞願書 友吉 一一月	一通き一〇七	2 矢野唯見伺書 写共 明治一二年六月	二通
監察加役御賞被下評議書類	き一五三	3 献金願 松本芳之助 明治一一年二月	二通
1 監察伺書 二月一八日	一通	御酒被下ニ付御下ケ金伺書 一〇月	き一五三
2 計政副主事御尋物答書 二月	一通	1 御台所目付伺書	一通
3 監察申上書〔加役御賞振合見合書〕 二月	一通	2 御吟味役添伺書	一通
御賞之儀内々申上書案〔御勘定役渡辺承之助〕 明治四年九月	一通き三六	○御賞申立	
池村清御賞評議書類 明治四年	き三〇九	御膳番 御刀番 暮御賞申立扣 元治元年一〇月	き八四九
1 御賞筋伺書 金井清八郎・宮沢彦治 学校掛宛 一〇月二七日	一通	1 小宮山藏六内々申上書〔橋詰勘藏御賞〕	一通
2 中俣一平書状〔御賞取執依頼〕 金井・宮沢宛 一〇月二一日	一通	2 御膳立頭取内々申上書〔丸山改助、宮入伝治御賞〕	一通
3 監察御尋物答書 一一月	一通	3 久賀添書 一〇月五日	一通
伊藤良一郎御賞筋内願書〔合衆類献上〕 月岡万里 明治五年一月	二通き三七	4 御刀番問合状案〔差出方問合〕	一通
出精金被下書案〔御徒士席及御目見以下宛〕 明治五年一月	二通き一八三	5 長谷川藤左衛門申上書〔富三郎等四人御賞〕	一通
元坊主役御賞筋評議書類	き一五二	6 内々申立書案〔橋詰勘藏他五人御賞〕	一通
1 監督申上書 二月二日	一通	7 御料理方頭取申立書〔坂田忠太・中沢孝三郎御賞〕	一通
2 月岡万里伺書 明治六年一二月	一通	8 申立書〔堀内太一郎御賞〕	一通
御賞之儀内々申上書〔旧御城番組力石村合津善藏御借入金出精〕	一通き三六七	9 例書	一通
御賞筋御尋物答書〔山崎友吉他二四人〕 二月	一通き七五	10 内々申立書〔横田嘉一郎御賞〕	一通
松本芳之助御賞筋伺書	き七〇一	慶応三年十月御賞申立	き二三九

1 年数書 玉井慶太	一通	段等調	き 三六
2 内用状并勘返状 筆頭宛 一〇月一七日	一通	1~10〔御目付役、道橋方、御右筆、町方、御預所郡奉行、普請方、小荷駄方各支配、及び彈藥製頭取・製手〕	一〇枚
3 年数書 玉井慶太 卯九月	一通	11 去ル辰年大小銃彈藥製等級之内再調 武庫司事 科治四年一〇月	一冊
4 表御用人伺書扣〔玉井慶太御賞筋〕 一二月	一通	御賞被下物目錄〔武器・道具・書籍等〕	一五二通き二四三
5 表御用人内密伺書扣〔伊東嘉左衛門献上金并御賞筋〕 一〇月	一通	戊辰戦功御賞御書付 一二月二九日	
6 表御用人内密伺書写〔同前〕	一通	〔永給人格〕 入弥左衛門宛	一通き二四三
7 御賞申立下案扣〔玉井・伊東兩人〕 一〇月	一通	〔永給人格、金三千疋〕 坂西広見、同光雄宛	二通き二四四
8 伊東嘉左衛門年数書	一通	〔永給人格〕 堀内莊作宛	一通き二四五
9 表御用人添用状 山中鹿渡 弥右衛門宛 九月二十六日	一通	〔永給人格〕 堀内莊治宛	一通き二四六
10 用状 一〇月二二日	一通	〔永給人格、永給人・永世高拾五石〕 田中万作、同力馬宛	二通き二四六
○		〔永給人〕 山崎彦之進、同愛蔵、同久米宛	三通き二四九
出火之節出精褒詞御書付 弘方御金奉行宛 嘉永七年五月	一通き二五〇	〔永給人格〕 松崎栄三郎宛	一通き二四八〇
御褒被下物達書案〔杵野村山林境域之儀出精ニ付三沢清美他三人宛〕	一通き二五一	〔永給人格〕 松崎志真輔宛	一通き二四八一
維新褒賞		〔永給人〕 小泉浅右衛門宛	一通き二四八二
町田善五右衛門御賞評議書類〔笹崎関門取建并彈藥製造〕 明治三年	き二六四	〔永給人格〕 近藤権右衛門宛	一通き二四八三
1 町田善五右衛門歎願書	一通	〔永給人格〕 近藤鉄之助宛	一通き二四八四
2 監督御尋物答書 一月八日	一通	〔永給人格、金三千疋〕 宮本慎助、同壬子郎、同孟五郎宛	三通き二四八五
御褒被下物達書案〔戊辰之節病院、騷擾之節集会所申渡之褒〕 大英寺宛 明治四年九月	一通き二四三	〔金九百疋〕 大日方仁左衛門宛 一月一日	一通き二四七

戊辰役之節諸向功勞御賞筋書類〔き一五六一～一六〇〇〕

長谷川藤左衛門申上書〔辰三月総督府通行御供駕籠之者名前〕 明治二年六月

御金奉行御納戸役申上書〔辰四月人少之節御目見以下出精御賞人名前〕 七月

武具奉行申上書〔功勞人御賞〕 巳七月

吟味役申上書 取調別帳欠 七月

小荷駄所伺書〔仲間助勤之者御賞〕 巳七月

御目付御賞等級申上書〔支配手附辰年勤勞等級〕 七月

横田機心・樋口旗之助伺書〔烟樵兵衛等表御用人御賞〕 七月二二日

学校道具番御賞評議書類

1 学校懸り御目付申上書 七月

2 御勘定吟味御尋物答書 八月

浪人格河野久喜御賞評議書類 明治二年

1 磯田小藤太・小林清右衛門伺書 九月

2 御勘定吟味御尋物答書 一〇月六日

3 計政方御尋物答書 一〇月

仁和寺宮通行之節出役之者御賞筋伺書 明治二年

1 御料理方頭取申上書 八月

2 吟味役内々伺書 一〇月

辰年中臨時御用精勵之者御賞筋伺書 御勘定吟味申上貼紙 普請奉行 八月

一通き一五九〇

一通き一五九七

六通き一六〇二

一通き一六〇三

一通き一六〇四

一通き一六〇六

一通き一六二二

き一六〇五

一通

一通

き一五九五

一通

一通

一通

き一五九九

二通

一通

一通き一五一

監手等御賞評議書類 明治三年（前号と一括）

1 監察伺書 閏一〇月

2 監察伺書写〔笠井三郎治等四人分〕 鎌原溶水宛 二月八日

3 計監御尋物答書 閏一〇月二五日

森木一二三御賞申上書〔探索御用之節召連足輕へ御賞〕 八月

普請奉行伺書〔辰年中居守御賞〕 八月

宮島嘉織申上書〔辰年小頭并足輕御賞〕 八月

駒村佐十郎申上書〔京都御留守居方附佐藤恒蔵御賞〕 八月

辰四月関崎関門出張之向御賞伺書類

1 白川税伺書 八月

2 支配出張人名面申上書 御納戸役 八月

3 支配出張人名面申上書 御金奉行 八月

御納戸役伺書 御勘定吟味答書貼紙〔元々池田友十郎辰四月人少之節出精御賞〕 八月

辰三月功勞等級申立書 御勘定吟味申上貼紙 相沢龍太郎 明治二年八月（き一六〇一まで一括）

元道橋方元々松本喜文治御賞追贈願〔辰年出精之處同九月死去ノ為昨年調へ落二付〕 齊藤新蔵 理事宛 一月

辰春出張并残人別御賞被下物調 庶務 明治三年一月

御賞調落人別等級付〔小銃玉藥製出精足輕之内〕

き一五九三

一通

一通

一通

一通き一六〇七

一通き一六〇八

一通き一六〇九

一通き一六二〇

き一五九四

一通

一通

一通

一通き一五九六

一通き一五九六

一通き一五九六

一通き一五九六

一通き一六〇〇

一通き一六〇〇

一通き一六〇一

表御用人伺書〔役方物書兩人御賞〕 一二月	一通き二六二
三沢清美申上書〔御預所仲間政右衛門御賞筋調落之分〕 明治三年一月	一通き二六三
三井七左衛門御賞筋極密申上書 一月二日	一通き二六四
御雇組弥五作御手充筋伺書	き二五八
1 伊東賢治伺書 二月二五日	一通
2 郡政副主事添伺書 二月	一通
市政方申上書〔辰四月以後町方役人等段等調添状〕 別紙欠 佐藤美与喜・北沢冠岳 一〇月	一通き二六五
小荷駄方申上書〔下筋出夫仲間助御賞取調〕 明治三年一〇月	一通き二六六
御荷物会所掛申上書〔近藤権右衛門等九人下筋戦争御賞筋〕 明治三年一月	一通き二六七
荒井伴之助申上書〔辰年中才領組十三人勤方段等愚意上申〕 明治三年一月	一通き二六八
監手等御賞再伺書〔き二五三の再願〕 明治四年	き二五三
1 監察再伺書 六月七日	一通
2 監察伺書 鎌原溶水宛〔明治三年二月〕	一通
3 監察伺書 岩崎懋宛〔明治三年閏一〇月〕	一通
4 監察伺書 〔明治三年二月〕	一通
三沢清美申上書〔橋場熊治功勞御賞再願〕 明治四年八月	一通き二六九
向々御賞人別取調落之分名面書拔	一通き二七〇
仕 置	
手代中沢喜藤太御仕置伺書案〔難波村方取扱不正〕 三月	一通き二六六
御咎申付書写〔明治元年カ〕 一二月二七日	
1 〔奥州高田宿陣不始末御咎〕 赤沢染之助宛	一通き二六九
2 〔甲府出張中遊興御咎〕 加藤金五郎宛	
小宮山甲之助遊興御咎評議書類〔一二月二四日夜権堂村藤屋方にて乱暴〕	き二六五
1 風説穿鑿書 主簿 一二月	一通
2 監察御尋物答書 一月	一通
3 御咎申付書案	一通
4 書拔〔慶応二年二月申付書写〕	一通
5 少参事評議答書 一月二五日	一通
6 御咎申付書案	一通
監使不締筋御咎評議書類	き二六一
1 古岩権四郎内々歎願書〔学校足輕屯所出役中不締筋執成願〕 片岡金一郎・中村与三左衛門宛 五月	一通
2 親類願書 片岡・中村 五月	一通
3 監察添申上書 五月	一通
4 主簿穿鑿書〔行跡取調〕 五月	一通
5 監察御尋物答書 六月	一通
6 大監察評議答書 六月三日	一通
7 御咎申付書写〔文久三年十月御咎書拔〕	一通
8 御咎申付書案	一通
9 少参事評議答書 六月三日	一通

家中御咎人調 (明治二年) 一一月	一通き 八六六
家中御咎人調〔慎以下咎人の人名・申付年月日〕 金井麗水 (明治三年) 二月	一通き 八六六
家中御咎人調 九月	一枚き 八四七
切腹之図〔於松平長門守屋敷軼負切腹之節〕 天保九年九月	一枚き 三七〇
謹慎者心得	一通き 二九六
有免・赦免願	
小屋番出役刻限遅延有免願書 音三郎 円左衛門宛 文政三年八月	一通き 三七六
番人引替有免願書 永野長十郎組茂兵衛 円左衛門宛 文政六年一二月	一通き 五
山崎芳左衛門組円左衛門有免願書〔用水見分時期誤報〕 宮沢左伝治宛 文政一一年三月	一通き 三七七
飛脚才領組三左衛門有免願書〔御用釣荷棒江戸会所へ取落〕 御納戸松方役所宛 元治元年六月	一通き 二六三
御供押有免執成願書〔貞松院様月桂寺参詣行列不取締〕 磯治・茂左衛門 作兵衛他二人宛 四月五日	一通き 二六七
若林徳之助有免願書〔西庁門番無届代人依頼之儀〕 監察方役所宛 明治四年五月	一通き 二七九
○	
元足輕御咎赦免評議書類〔午十月栗木重蔵爭論之上三侯鶴三郎刃傷〕 明治四年	き 二六〇
1 職事掛御尋物答書 九月	一通
2 監察御尋物答書 八月	一通

3 副隊長補伺書 八月	一通
4 割番伺書〔鶴三郎歎願筋〕 八月	一通
5 割番伺書〔重蔵歎願筋〕 八月	一通
6 三侯鶴三郎親類歎願書 竹内龍之助宛 八月	一通
7 栗木重蔵親類歎願書 小林亀助宛 八月	一通
学監御尋物答書〔御咎之者赦免願〕 名面書共 九月二日	三通き 二七三
差 扣	
差扣伺書 小納戸窪田与十郎 八月七日	一通き 三三
吟 味	
村田覚兵衛打擲吟味一件書類 天保一五年	
水道方仲間返答口上書〔御既用水手入之節村田打擲にて疵受始末〕 平左衛門他三人 水道方役所宛 三月二一日	一通き 二七四
内々申上書〔事後取調及穩便取計方〕 堤右兵衛 三月	一通き 二六六
手負見舞金請書添状 平左衛門 水道方役所宛 四月一七日	一通き 五〇
見舞金請取切手 平左衛門 竹村金吾宛 四月一八日	一通き 九六
矢沢将監家来小林盛之丞吟味一件書類〔御咎中出奔之後、上野御門主家来養子入引渡掛合〕 文久二年	一通き 二六六
一件発端諸書類	き 二四三
1 盛之丞書類引渡方口上書 五月	一通

2 吉川円藏書狀 常照院宛 五月二八日	一通
3 大凡手順書 五月二日	一通
4 初発の経緯申述書 七月五日	一通
5 玉川一学伺書 七月五日	一通
6 玉川左門書狀 小山田老岐宛 七月六日	一通
7 矢沢将監申上書 七月	一通
8 磯田音門御尋物答書 七月二六日	一通
9 御目付御尋物答書 七月	一通
10 河原左京御尋物答書 七月二九日	一通
11 彌津神平御尋物答書 八月二日	一通
12 家老廻狀 小山田老岐 八月二日	一通
13 家老連署用狀 鎌原石見・小山田老岐他二人 玉川左門・望月婦一郎宛 八月二日	一通
14 御目付御尋物答書 八月	一通
番外書類	一通
1 玉川左門用狀 小山田老岐宛 七月二一日	一通
2 玉川一学申上書 七月二〇日	一通
3 常照院書狀 玉川左門宛 七月一九日	一通
4 磯田音門内探申上書 八月六日	一通
5 家老廻狀 小山田老岐 八月	一通
6 返上小札 磯田音門	一枚
7 矢沢将監書狀 小山田老岐宛 七月二四日	一通

き一四六三

8 家老廻狀 小山田老岐 七月二八日	一通
9 盛之丞之儀愚意申上書 猶右衛門他四人 七月二〇日	一通
矢沢将監申述書類	き一四六四
1 矢沢将監申述書 一〇月	一通
2 矢沢将監添狀 一一月	一通
3 家老廻狀 小山田采女 鎌原石見・赤沢助之進・望月婦一郎宛 一一月一〇日	一通
4 家老廻狀 同前 同前宛 一一月一〇日	一通
5 小山田采女用狀 磯田音門宛 一一月一二日	一通
磯田音門廻狀〔吟味経過及処置〕 山寺源太夫他五人宛 一一月一〇日	一通き一四六五
盛之丞一件品々書類写 文久二年七月一二日 〔矢沢将監申述書写、借財帳引合書拔、箱訴答書写、出奔届写〕	一冊き一四六六
出奔馬場忠吾藩内徘徊之儀評議書類 明治二三年	き一四六七
1 馬場忠吾親類歎願書 玉井慶太・寺沢十之進 一一月	一通
2 馬場忠吾歎願書 親類宛 一一月	一通
3 親類歎願書	一通
4 馬場忠吾歎願書	一通
5 監察御尋物答書 一月	一通
6 計政副主事御尋物答書 一月二三日	一通
7 少参事評議答書 二月四日	一通

立番遅延不行届評議書類 明治三年	き一五五	3 原村水之助吟味答書 同前宛 一二月	一通
1 割番願書 小幡柳兵衛 一月二日	一通	4 原村役人吟味答書 同前宛 一二月	一通
2 銃兵小隊長添伺書 牧野大右衛門 一月三日	一通	5 小森村喜伝治吟味答書 同前宛 一二月	一通
3 少参事評議答書 一月一日	一通	6 有旅村弁吉吟味答書 同前宛 一二月	一通
田中権之助禄制訴願取調書類 明治四〇五年	き三七三	7 布施高田村寅藏吟味答書 同前宛 一二月	一通
1 閉門申付状案	一通	8 布施高田村役人吟味答書 同前宛 一二月	一通
2 数馬用状 樋口旗之助宛 一月八日	一通	9 吟味中他行差留御請一札 岩野村幸五郎 同前宛 一二月	一通
3 田中権之助返答書 申一月	一通	10 祭礼之節行列并附練聞書写 千本柳村竹内弥平 治 一二月	一通
4 野中格申上書 一二月二三日	一通	11 菅沼弥惣右衛門用状 竹村金吾宛 一二月五日	一通
5 野中格申上書写 一二月二五日	一通	12 竹村金吾用状并勘返状 菅沼宛 一二月晦日	一通
6 野中格返書状 田中権之助宛 一二月二五日	一通	13 菅沼弥惣右衛門用状 竹内宛 一二月七日	一通
前島好謙書状〔中沢保孝暴言一条〕 六月一日	一通き三七三	14 菅沼弥惣右衛門用状 同前宛 一二月八日	一通
関山平治書状〔松原者要作於江戸出奔〕 一場茂右衛門宛 八月二三日	一通き三三三	15 御咎被仰付請書 岩野村他四ヶ村 職奉行所・郡奉行所宛 一二月	一通
上田藩桜井純藏書状〔海沼源之進上田藩大参事へ面会申込一条〕 北沢冠岳宛 七月一八日	一通き八六		
東京出張所達書〔預人森時之助吟味中揚屋入口達之旨〕 松代県庁宛 明治四年八月一三日	一通き三三〇		
○		箱 訴	
八幡村八幡宮祭礼之節附練事立吟味御咎書類 天保二二年	き一六三	下田町同心丁忠右衛門箱訴状〔梓養子先と扶持米等出入一件吟味取上願〕 文政九年	二通き一四三
1 職奉行・郡奉行伺書并付札 菅沼弥惣右衛門・竹村金吾他三人 一二月	一通	忠右衛門訴状 願書写共 殿様宛 六月四日	四通き一四四
2 岩野村幸五郎吟味答書 職奉行所・郡奉行所宛 一二月	一通	忠右衛門願書 上様宛 六月四日	一通き一四六
		忠右衛門訴状 願書写共 上様宛 七月	四通き一四五

忠右衛門訴狀	願書共	七月	二通き一四六
忠右衛門願書	七月		一通き一四六
忠右衛門訴狀	願書写共	上様宛 七月	三通き一四六
忠右衛門追訴狀	七月一七日		一通き一四六
忠右衛門訴狀	請合一札写共	上様宛 七月	二通き一四六
江戸京橋金六町醫師中条道庵出訴評議書類〔困窮ニ付先年御用達金御救筋願立後日駕籠訴一件〕			
中条道庵出訴評議書類	文政九年一二月		き一四七
1 訴狀返却添狀	鎌原伯耆	岡嶋莊藏宛	一通
2 中条道庵訴狀写			一通
3 郡奉行申上書			一通
中条道庵訴狀写	文政一〇年	上包書入	飯一冊 一枚き一四六
中条道庵駕籠訴評議書類	文政一〇年		き一四六
1 家老用狀	鎌原伯耆	御用番宛	五月二二日 一通
2 幸貫御書下	鎌原伯耆宛	五月二二日	一通
3 望月主水口上書取	五月二二日		一通
4 道庵訴狀不取用之趣書取	金井左源太	五月	一通
5 岡野弥右衛門用狀	岡嶋莊藏宛	五月二四日	一通
6 郡奉行申上書	五月		一通
7 家老廻狀	小山田采女	五月二四日	一通
8 郡奉行伺書	五月		一通
9 訴狀受取一札	中条道庵	伴榮作宛	五月二五日 一通

10 御郡方申上書	五月	一通
11 家老用狀	小山田采女他二人 御用番宛 五月二六日	一通
12 家老用狀	同前 同前宛 五月二六日	一通
13 家老用狀	大熊長門 小山田采女宛 六月二日	一通
14 家老用狀	小山田采女 御用番宛 六月八日	一通
15 御郡方添狀	六月八日	一通
16 竹村權左衛門指出書類目錄		一通
17 家老用狀	大熊長門・鎌原伯耆 望月監物他二人宛 閏六月一六日	一通
18 御留守居申上書	竹村權左衛門・座間百人 閏六月	一通
19 家老用狀并勘返狀	小山田采女 鎌原伯耆宛 八月一八日	一通
20 郡奉行申上書	八月	一通
21 家老用狀	小山田采女他二人 鎌原伯耆・大熊長門宛 一一月一日	一通
22 岡嶋莊藏申上書	八月一八日	一通
23 差越書類目錄		一通
一件書類写物綴		二綴き一四七
江戸金六町道安村預り赦免願写	新地村親類・組頭 文政一二年一二月	一通き一四七
落文		
後町村役人訴狀〔深美甚十郎居宅前落文屈〕	郡奉行所宛 天保九年三月	一通き一五七

盜難・紛失

元方御役所江盜賊忍入御預之金子紛失一件 天保七年二月〜九年八月

御金紛失ニ付差扣伺書雛形

被盜金高申上書案 一〇月

申印内預金調書

有金辻書拔

窪田与十郎申立書下書

土藏締向同役申談之趣申上書案 御金方 六
月

土藏戸前錠前其外入料払向伺書案 九月

大坂錠其外入料積書写 三侯藤吉他 武具奉行
所宛 九月

御金方取調申上書 写共 三井源吾他六人 一
〇月

探索極密申上書 閏四月一二日

過勤達書 御金奉行・御納戸役宛 八月七日

窪田与十郎勤方取計申付書 同前宛

過勤之勤方心得

御城同心頭用狀 竹内小左衛門・小熊平太夫
三井源吾宛 八月七日

御金方御預り之金箱紛失吟味届書

1 玉川左門用狀 小山田老岐・赤沢助之進宛 九
月二九日

2 齊田虎尾・矢野茂添届書 八月晦日

3 池田莊右衛門・野中弥右衛門届書〔紛失事情〕
齊田・矢野宛 八月晦日

4 紛失金引訳書〔前号別紙〕 野中 八月晦日

5 引訳書添書〔前号添〕 齊田・矢野 八月晦日

6 御勘定吟味等届書〔御買物役所前ニ金子取落有
之旨〕 八月晦日

7 御買物役届書 八月六日

8 吟味役添届書〔前号添〕 八月六日

9 家老用狀 玉川左門 真田志摩宛 八月晦日

10 御勘定吟味等内々申上書 八月晦日

小野肇在府中紛失之大小有所相知候一件書類
元治元年 宮下主鈴掛り

1 宮下主鈴申上書 四月

2 紛失品書上 小野肇 一月一五日

3 脇差吟味中封印御預り請書 新小越町三藏、伊
勢町儀兵衛他 同心塚原健三郎・岸田繁左衛門宛
文久三年二月

4 宮下主鈴伺書并付札〔中野陣屋宛掛合書狀提出
方〕 三月七日

5 中野陣屋役人宛書狀案 成沢勘左衛門・宮下主
鈴 三月

6 中野陣屋詰役人返書狀 宮下・成沢宛 三月一
三日

7 柴田善一郎様役所御払物買請品書写

8 宮下主鈴伺書并付札〔中野陣屋宛再報之旨〕
三月一六日

一通

一通

一通

一通

一通

一通

一通

一通

袋入
き 八三

一通

一通

二通

一通

一通

一通

仮一冊

一通

<p>9 中野陣屋役人宛書状案 宮下 東福寺泰作組善十郎中之口番所ニ而夜具等紛失 之儀評議書類 明治三年</p>	一通	<p>2 會計掛御尋物答書 八月 積高御下金勘弁願添書〔有宿者入牢賄費〕 癸酉 一月</p>	一通
銃兵小隊長申上書	き 四〇〇	学芸・学校	一通き 一六六
1 銃兵小隊長添申上書 一月二七日	一通		一通き 一五八
2 善十郎御届申上書	一通		一通き 一七四
3 中之口本番良吉御尋口上書 一月	一通		一通き 一五三
監察御尋物答書 人替名前書共 二月	一通き 四二二		一通き 一五七
議事御尋物答書 二月	一通き 四三三	学 校	一通き 一五三
理事御尋物答書 二月九日	一通き 四三三		一通き 一五七
少参事評議答書 二月一〇日	一通き 四四四		一通き 一五九
善十郎届出遅延申上書類	き 四四五		一通き 一六三
1 割番添申上書 小幡柳兵衛 一月	一通		一通き 一六三
2 善十郎御縄申上書 泰作宛 一月	一通	学校入館願 嶋田藤右衛門 学政副主事宛 明治三年九月	一通き 一五七
割番御届申上書 小幡柳兵衛 一月	一通き 四四六	旧学校番人使丁等名面書	一通き 一五九
牢 扶 持	き 三七五	学校記録等江筆墨料被下評議御尋物答書〔辛未七〇九月分渡し物〕	き 一六三
		1 監督御尋物答書 三月	一通
		2 御尋物答書〔人員単価可差出旨〕 三月	一通
		学校記録等江筆墨料被下方評議御尋物答書 向々渡方振合調書共 監督 四月	一通き 一六三
		学校役員筆墨料被下方評議御尋物答書 名面并見合書共 監督 四月	三通き 一六三
3 郡政副主事再伺書 一〇月一四日	一通	南文学所模様替大工入札伺書 注文仕様及入札書共 庶務 明治三年一〇月	六通き 一五三
無宿者牢扶持評議書類 明治四年	き 二五四		
1 民事懸伺書 八月二日	一通		

学校所々障子入札伺書 注文仕様及入札書共 營繕庶務 明治三年八月	四通き一五三	郷覺設立願書〔教官派遣及規則制定〕 原村有志 松代役所宛 明治五年	一通き一五元
学校普請関係伺書類 明治三年	き一五四	書籍・道具	
1 營繕司伺書〔劍術所模様替大工手間〕 六月	一通	○書籍	
2 營繕司伺書〔同前普請取計方〕 七月	一通	書物仮目錄	仮一冊き二〇九
3 營繕司伺書〔同前量刺賃金中借〕 八月	一通	御持書物目錄	一綴き二〇〇
4 營繕司伺書〔所々模様替入料中借〕 八月	一通	書物目錄綴	一綴き二〇一
5 營繕庶務伺書〔洋学所模様替増賃中借〕 營繕司添伺貼紙 六月	一通	書物目錄	四通き二〇三
6 学政庶務掌再伺書〔南文学寮雪隠井下駄棚工事取掛り方〕 学政副主事貼添 明治三年閏一〇月	一通	不見書物目錄	二通き二〇六
学校諸入料評議書類 明治四年	き一五五	書物引合書抜	一綴き二〇七
1 学政庶務伺書〔去午諸色買上私金中借〕 学監貼添 六月	一通	書物引合書抜	一通き二〇二
2 学政庶務掌伺書〔去月中入費払残御下金〕 一〇月	一通	御書物有無取調書類	二綴き一五五
3 竹内新七伺書〔去巳土官学校買上物代御下金〕 八月	一通	貸出書物書抜 返上無之分	一通き二〇九
4 監督御尋物答書〔次号答書〕 八月	一通	御書物拝借書 植木直衛・小山田勝之進他二名宛 慶応元年閏五月〜一二月	七通き一五四
5 学校庶務掌伺書〔教授等筆墨渡シ方〕 八月	一通	御書物拝借書 御書物掛扣 慶応二年一〇月〜明治三年七月	一冊き一五八
6 学校庶務掌伺書〔上小蠟燭請取方〕 八月	一通	御書物拝借書 植木・小山他二人宛 慶応二年一〇月	一通き一五四
学校費用問答書留 明治五年	一通き一五六	御書物拝借書 慶応三年二月〜四月	三通き一五八
○		御書物拝借書 小山田勝之進宛 慶応四年四月	一通き一五七
大学種痘館免状写 館三郎宛 明治三年一二月	一通き一五三	御書物拝借書 同前他宛 明治二年二月、五月、一月	三通き一五八
松代藩伺書〔大学南校員進退退塾代り人差出方〕 弁官指令付札 明治四年六月	一通き一五〇		

御書物拝借書 御書物掛宛他 明治三年二月～一月	七通き一五九	児玉九郎右衛門書狀〔御書物拝借返答〕 沢角南宛 五月	一通き一五二
御書物拝借覚 堀田与一郎 明治三年三月	一冊き一五九	蟻川功書狀〔御書物取調東京問合方〕 五郎左衛門宛 二月	一通き一五三
御書物拝借覚 岸左太郎 前島権兵衛宛 明治四年二月	一冊き一五九	書籍拝借書 明治三年～五年	五通き一五五
御書物拝借書 成本治左衛門宛他 明治四年四月～二月	一二通き一五〇	富沢勇之進書狀〔所蔵本有無問合〕 水野清右衛門宛	一通き一五六
御書籍拝借日記 三邨定遠 明治四年	一冊き一五〇	拝借書物返上猶予願 拝借書共 島田舜雄・倉田高順 明治四年二月	二通き一五七
御書物拝借覚 成沢莊蔵	一冊き一五三	御書物及諸書類返納書狀 七月	一通き一五四
御書物拝借書 師岡源兵衛・小山田久米宛他 明治五年一月～七月	五通き一五一	高田幾太用狀〔森村の医師柏原玄琳献上書物披露〕 河原舎人宛 四月	一通き一〇四
藏記書並雜書拝借簿 塩野自謙・高井栄司 明治六年四月	一冊き一五三	書籍請取書 酒井金太郎 職事掛宛 明治四年一月	一通き一五八
御書物拝借書 御書物掛宛他 明治八年四月、六月	二通き一五三	皇典解説人書上案 明治四年一月	一通き一五三
御書物拝借書 佐藤則通 明治一五年一〇月	一通き一五三	中俣一平用狀〔韓非子筆写料問合回答并小本七書内献上取計依頼〕 石川新八書狀共 宮下謙太夫宛 一月	二通き一五四
御書物拝借書	一綴き一五四		
拝借御書物返上添狀 一〇月	八通き一五五		
岡野弥右衛門書狀 拝借書共 一二月	二通き一五六		
拝借書物返上添狀 岩崎懋 御家扶宛 八月	一通き一五七	書籍代請取書 和泉屋吉兵衛 恩田様用人宛 六月	一通き一五二
返上書物覚〔岩崎懋返上分〕	一通き一五八	書籍買上書出寄	一通き一五〇
岩崎玄蕃書狀〔書物拝借依頼〕 児玉九郎右衛門宛 三月	一通き一五九	かくあるへし開板入料取調伺書〔分量用達金上納入へ被下本〕 入札書添 郡方 寅年	五通き一五三
成沢莊蔵書狀〔拝借書物焼失ニ付取揃迄拝借延期願〕 友野直樹宛 六月	一通き一六〇	○道具	
		印籠買上依頼用狀 四人 兩人宛 二月	一通き一五八

御弘道具入札回状 庶務掛 伊勢町小島茂七郎他
七人宛 一〇月

一通き一五六

桐小簞筒仕様積書 刺物屋又五郎

二枚き一五七

寺 社

寺 社 領

栃原村大昌寺御朱印焼失書替願出一件書類

封紙入

き一三三

1 大昌寺願書〔御朱印書替頂戴〕 寺社奉行所
天明四年二月

一通

2 大昌寺願書〔出府添簡願〕 長井四郎右衛門・師岡十郎右衛門宛 天明七年四月

一通

3 職奉行伺書 長井・師岡 四月

一通

4 御代々御朱印状写 (慶安二年)宝暦(二年)

美 飯一冊

一通

5 寺社御朱印頂戴願覚

横長美 袋入

一通

御朱印書替御触請書 天明七年三月

袋入

き一三五

1 31 寺社請書 職奉行(長井・師岡)宛

三一通

32 職奉行口上書〔請書差出添書〕

一通

33 請書目録

一通

岩野村正源寺除地引替地高附一紙 明和三年

袋入

き一三五

1 除地引替地明細改一紙

一通

2 正源寺願書 郡奉行所宛 明和二年二月

一通

3 正源寺答書〔除地高申上〕 郡奉行所宛 明和三年一月

一通

4 今寺地絵図 佐藤伝五郎

一枚

5 本寺地絵図 同前

一枚

境新田村薬王寺除地高掛り銀用立願 同村役人
郡奉行所宛 天保四年一〇月

一通き一四三

開善寺表門前新御馬場絵図

袋入

き一四三

1 開善寺差出絵図〔朱印地・境内除地御借入差出〕
上原友右衛門宛 文化一一年一月

一通

2 普請方請取絵図 馬場介作・堀田寛兵衛他二人
菅沼九左衛門宛 文化一二年一〇月

一通

○

福徳寺差出一札〔同寺持分御高引御裏書年季明返
上延期願〕 郡奉行所宛 文政七年五月

一通き一四〇

大鋒寺住職差出一札〔所有地地券名義人は住職な
がら勝手ニ赤松間敷旨〕 芝村役人宛 明治七年

一通き一三七

長国寺上知地所松下井分与書類〔き一三六〕

き一三六

社寺境内取扱規程并分与願

き一三六

1 長国寺境内分地取調違訂正願書 明治六年

一通

2 社寺境内外松下規程布告 明治九年三月

一通

3 境内居住地永住願 宮沢角治 長国寺世話方
明治七年六月

一通

4・5 長野県指令書写 第三課地方掛 一三六
区区长宛 明治九年四月

二通

6 境内分与願写 宮沢角司 明治九年三月

一通

世話役諸書類

き一三三

1 矢野唯見書状 三沢清美宛 一一月二四日

一通

2 矢野唯見書狀 長国寺世話方宛 一月二八日	一通
3 矢野唯見書狀 三沢清美宛 二月一九日	一通
4 矢野唯見書狀 同前宛 二月二八日	一通
5 矢野唯見書狀 三沢・樋口宛 四月一日	一通
6 矢野唯見書狀 三沢宛 四月一四日	一通
7 長国寺副寺書狀〔地所私下通達謝絶〕 田中村御用掛宛 一月二八日	一通
8 長国寺世話人伺控 十三大区四小区戸長宛 明治八年一月二八日	一通
9 長国寺世話人伺案 同前宛 一月一七日	一通
境内上知地所私下願案 長国寺住職・檀中惣代他 長野県知事宛 明治八年三月	二通き二六三
旧朱印地取調書類	き二六四
1 長野県達〔一社寺限社寺録取調差出方〕 長国寺宛 明治九年一月	一通
2 旧朱印高差出書控 住職鶴沢古鏡 長野県権令宛 明治九年二月	一通
3 長国寺役僧口演記控〔所有者名相違〕 田中村用掛宛 明治九年二月	一通
長国寺住職差入証書〔境内屋敷地内無税居住許可〕 宮沢角治宛 明治九年四月、六月	三通き二六五
差出書案文并控 明治八年	二綴き二六六
住職	き二六七
長国寺社奉行御用中隠居願取扱方伺書類	一通
1 鈴木弥左衛門伺書控 一月一七日	一通

2 評定所留役用狀 久須美六郎左衛門 一月一七日	一通
3 評定所留役書取	一通
惣持寺書狀〔長国寺月皎和尚本山輪住職勤仕交代婦寺挨拶〕 真田信濃守宛 八月一五日	一通き二六二
合力米・寄附米金	
追善寄附金請取繼証文〔盛徳寺常燈明料請取証文、高野山蓮花定院日牌料飯請取書〕 小川多次・瀬津要左衛門 天明元年七月	一通き二五三
寄附金頂戴盛徳寺請書 組合両寺添請書共 鈴木弥左衛門・池村八太夫宛 寛政二年二月	二通き二四六
去申年滞御扶持下付願 御宮番人 御宮奉行所宛 一〇月	四通き二三〇
滞合力米請取一札〔江府淨運院拝借願出ニ滞米代金として下付〕 常照院・天陽院 寛政九年六月	一通き二四九
寄附金請取証文 落合村泰雲寺 享和二年五月	一通き二三四
寄附金請取証文〔後欠〕 淨運院〔増上寺宿坊〕窪田三良左衛門・徳田多膳宛 文化二年十二月	一通き二三三
日光山宿坊恵乗院類焼寄附一件書類 文化二〇年	き二四六
1 恵乗院願書 留守居宛 五月	一通
2 恵乗院書狀 留守居〔石川新八他〕宛 八月三日	一通
尾州栗田豊前大紋拝領請書〔受取切手及礼書狀〕 文政七年二月、三月	二通き二四八
芝淨運院助力金願出評議書類并請書 天保六年 封紙入	き二三〇
1 探索書取〔淨運院当住身辺〕 松井惣吾 八月一六日	一通

2 淨運院法類惣代歎願書 良源院・雲晴院 座間百人・石川新八宛 未八月	一通
3 上杉家留守居書狀〔御下ケ金遲滞問合〕 龍口次郎左衛門 座間百人宛 八月一日	一通
4 座間百人申上書〔当看主身持詮議濟御下ケ金願〕 八月二二日	一通
5 家老廻狀 小山田采女 矢沢監物他宛 八月二二日	一通
6 御勘定吟味申上書〔淨運院法類請書之事〕	一通
7 御留守居伺書 座間・石川 六月	一通
8 家老廻狀 矢沢監物 閏七月二二日	一通
9 家老廻狀 同前 閏七月二二日	一通
10 淨運院請書〔以後助力願出間敷旨〕 座間・石川他宛 天保六年九月	一通
合力糴代金請取書 泰雲寺 文久三年一二月	一通き三六
合力糴并別段寄附糴請取書 盛徳寺 文久三年一二月	一通き三七
寄附米請取書 蓮花定院 文久四年一月	一通き三八
長国寺御靈屋別当五院滞御扶持御下ケ評議伺書 願書共 計政副主事 明治三年一月	二通き三六九
社寺被下物減廃評議書類 明治三年〜四年	
社寺御寄附米御尋物答書 一月	き一四三
1 議事御尋物答書〔御寄附米減少取扱〕	一通
2 社社由緒并被下物取調	半 一冊
社寺被下物適宜取調評議書類	き一四四

1 計政副主事伺書〔被下御扶持糴等減少〕 二月	一通
2 議事御尋物答書 三月	一通
3 計政副主事再伺書〔社寺院適宜被下方御差図願〕 三月	一通
4 郡政副主事御尋物答書 三月	一通
5 計政副主事申上書〔前号補足〕 四月	一通
6 郡政副主事再御尋物答書 五月	一通
7 計政副主事尚申上書 五月	一通
8 監察御尋物答書 五月	一通
9 監察御尋物答書 五月	一通
10 神社郡政副主事添申上書〔恵明寺稻荷社進退〕 七月	一通
11 理事御尋物答書 七月二九日	一通
12 権大参事用狀 鎌原溶水 真田桜山・赤沢蘭溪他二人宛 八月八日	一通
計政副主事伺書〔社寺適宜伺濟取調〕 計監答書 貼紙 八月	一通き一四五
鎌原溶水用狀〔伺濟之趣再考依頼〕 大熊薫宛 九月四日	一通き一四六
社寺適宜減廃取調書	半 一冊き一四七
社寺院給禄適宜調	半 一冊き一四八
藩治変革取調伺書写 弁官宛 一二月	半 一冊き一四九
太政官布令写〔寺社禄制〕 明治四年七月	半 一冊き一五〇
祭祀料寄附狀 武靖社宛 明治	半 一通き一五九

供養料・祈禱料

供養料代金請取書 芳泉寺 元治元年一二月	一通き二三九
供養料代金請取書 添状共 真田山長谷寺 元治元年一二月	二通き二三〇
祈禱御初穂金請取証文綴〔五穀成就、雨乞、御城大般若、殿様・御前様・貞松院様御星供、殿様・若殿様厄除、御前様懷妊、出生子成長、秋葉御初穂〕開善寺知事 天保九年二月〜慶応四年八月	一九通き二六六
開善寺江雨乞祈禱被仰付書類	き二三三
1家老差函書 望月帰一郎 弘方御金奉行宛 六月二〇日	一通
2家老達書〔旱魃ニ付雨乞祈念御初穂可遣〕 同前宛	一通
3家老達書〔同前〕 同前宛	一通
4家老達書〔祈禱日延引申渡〕 同前宛	一通
5家老達書〔祈禱日限申渡通知〕 同前宛	一通
6祈禱料被下高例書〔天保三年八月中被下高〕	一通
達書〔出生女子様成長祈禱料可遣〕 弘方御金奉行宛	一通き二三四
達書〔出生男子様成長祈禱料可遣〕 同前宛	一通き二三五
達書〔大鋒院様年回追善江湖興行寄附金可遣〕 同前宛	一通き二三六
祈禱御初穂金請取渡証文案	一通き二三七
祈請文〔嫡男息災延命祈禱〕 尊韶法師 文久元年七月	一通き二三三
供養料代金請取書 長谷寺 宮本慎助他三人宛 慶応三年一二月	一通き二三三

法如庵祈禱料請取書 回付書状共 法如庵 岸田宛〔書状は玉川一学宮下孫兵衛他二人宛〕 辰六月	二通き二三三
赤沢角場八幡宮祭礼御初穂渡証文 御台所元ノ原田久弥 辰三月	一通き三七五
御両社祭礼入料諸書類 用度局〔き二四五〜二四三〕 袋入	仮一冊き二四五
御両社祭礼入料御達并評議書留 明治三年	き二四六
御両社祭礼入料御達并評議書類	一通
1達書〔次号通達〕 用度司宛	一通
2祭礼入料規定	一通
3用度司伺書 一一月一七日	一通
4差函書 用度司宛	一通
祭礼入料請取書案 堀内大隅 一一月一六日	一通き二四七
買上物代書出申付書 用度局 唐沢祖吉・袋屋惣兵衛宛 一一月	二通き二四八
初穂料請取書 堀内寿美雄 宮入半之丞宛 明治四年四月	一通き二四九
去年十一月中両社祭礼入料御下ケ金伺書 用度司〔計監承認〕 四月	一通き二四〇
買上物代請取書 用度方役所宛 明治四年四月、五月	四通き二四二
両社祭礼入料勘定書写 明治三年〜四年	仮二冊き二四三
御燈明油請取切手 長国寺副寺、大英寺役寺 用度属宛 明治四年六月、七月	四通き二六九
清野村高源寺歎願書〔御手当被下方〕 住職北山貫秀 御家令宛 明治一一年一一月	一通き三七〇

勸化金

所々御免勸化寄附銀請取書

包入

京都誓願寺請取書 役寺法雲寺・自休院 真田役人宛 寛政五年三月

一通き二六九

京都梅宮請取書 橋本大和守 真田役人宛 寛政八年七月

一通き二九〇

出雲国大社勸物納入申上書〔土井大炊頭取次日暮源五兵衛へ渡〕 岡本伝八郎 寛政一〇年六月

一通き二九一

嵯峨法輪寺請取書 坂田左近・不動院 真田役人宛 寛政一〇年一二月

一通き二四三

三州六所大明神勸化状并請取書 大竹主膳 真田役人宛 享和元年四月

二通き二九三

山王勸理院請取書 院代修成院 享和元年一月

一通き二九三

摂州住吉社請取書 梅園直藏・沼間左内 真田役人宛 享和二年七月

一通き二九四

三州伊賀宮請取書 役人 真田使者宛 享和三年五月

一通き二九五

日御崎社請取書 神西左門 真田役人宛 文化六年二月

一通き二九六

愛宕山請取書 円福寺役僧 真田役人宛 文化八年二月

一通き二九七

紀州熊野新宮請取書 紀州勘定所 文化九年二月

一通き二九八

三州法蔵寺請取書 石川新八他宛 文化一二年二月

一通き二九九

伊豆般若院請取書 中村主水・遍照院 森長左衛門宛 文化一二年一月

一通き二四〇〇

芝愛宕本地堂請取書 別当金剛院 文政三年一二月
三州妙源寺請取書 宝桑寺 石川新八他宛 文政四年九月

一通き二四〇一
一通き二四〇二

拝借米金

借用米証文 本願役人・大勧進役人 菊池孝助・水井忠蔵宛 弘化四年四月

一通き二六二

変災ニ而寺領拝借米返上延期評議書類 弘化四年

き二五六

1 郡奉行伺書并附札 岡嶋莊蔵他三人 一〇月七日

一通

2 善光寺役人口上書 山極亦兵衛・今井磯右衛門 菊池孝助・水井忠蔵宛 一〇月

一通

善光寺本願上人拝借金評議書類 弘化四年

き二四六

1 本願上人役人口上書〔千両貸下ケ願〕 山極亦兵衛・吉沢十助宛 未一〇月

一通

2 御勝手元々伺書并附札 八月八日

一通

3 借用金証文案 本願上人役人 吉沢十助他二人宛

一通

4 拝借金引当差出一札案〔七瀬村高之内差入〕 本願上人役人 竹村金吾・磯田音門宛

一通

5 引当請一札 七瀬村役人 本願上人役人宛

一通

6 家老差図書 恩田頼母 磯田音門宛 八月九日

一通

善光寺本願上人拝借金延期書類〔天保三年・弘化四年拝借分〕 申〔嘉永元年〕

き二四四

1 御金掛内々申上書 一二月

一通

2 本願上人役人願書 延納見込書共 一〇月二九日

二通

法成院口上書〔去未拝借米返上再延納願〕 菊池孝助・水井忠藏宛 嘉永元年一〇月	一通き二三七
善光寺役人口上書〔拝借米返納猶予願〕 山極亦兵衛・今井磯右衛門 同前宛 申一〇月	一通き二三九
善光寺大勸進口上書〔拝借米返上半金再延納願〕 今井磯右衛門 同前宛 酉三月	一通き二三六
本願上人役人口上書〔拝借米返納方願〕 吉田兵左衛門 三月	一通き二三〇
借用金証文 本願上人役人 菊池・水井宛 嘉永二年三月	二通き二三二
善光寺本願上人拝借米代年賦返納金内預ヶ証文 綴 嘉永二年四月、安政元年一二月	八通き二三三
善光寺大勸進并寺領町方人別拝借金返納方書類 大仏頂院権僧上書狀〔返納高減額依頼〕 竹村金吾宛 一二月二二日	一通き三四〇
大勸進役人口上書〔僧上書狀受納依頼〕 中野治兵衛 竹村金吾宛 一二月二九日	一通き三四四
大勸進役人口上書取〔拝借金返上延納仕法願出〕 別紙共 同前 丑三月	二通き三四二
大勸進役人口上書取 添書状共〔返納金一部延納願〕 同前 竹村金吾宛 寅一二月	一通き三三九
大勸進役人書狀〔寺領町方拝借金返納帶挨拶〕 中野治兵衛・今井磯右衛門 酒井市治他二人宛 五月一八日	一通き三四三
大勸進役人書狀〔返納滞分来月七八日迄猶予依頼〕 同前 同前宛 五月二九日	一通き三四三
勘定役用状控〔寺領町方人別拝借金取立出張通知〕 水野唯之進他四人 今井・中野宛 七月六日	一通き三四五

善光寺大勸進拝借金返納仕法口上書取〔千二百兩返納を以払切願出〕 中野・今井 片桐重之助・高野覚之進宛 六月	一通き三三五
田中村浄福寺再建内借金赦免願書写 内借金元利調覚共 慶応二年九月	二通き四五一
金子拝借証文 長国寺副寺 計政副主事宛 四月五日	一通き三三九
取 替 金	
善光寺御取替金指引証文	包紙
当分取替金証文 木内清八・馬場与惣右衛門 矢沢将監・大熊四郎左衛門裏書 宝永七年四月	一通き三三五
当分取替金証文 同前 同前裏書 宝永七年五月	一通き三三六
当分取替金証文 木内清八・上村治右衛門 正徳元年一二月	一通き三三七
取替金返済弘方証文 藤田右仲他郡奉行三人 飯嶋五右衛門・入十助宛 宝暦一〇年五月	一通き三三六
善光寺年賦金預り証文 恩田木工民清 御金奉行宛 丑二月一八日	一通き三三一
寺社無尽懸戻残金受取切手納一紙〔受取切手一八〇通共〕 矢野齋弥太夫他二人 安永三年一二月	一一綴き四四三
善光寺勸化金預り証文 野村吉太夫他四人 靈山院宛 安永七年一〇月 同八年一月	二通き三三三
金子預り証文 入安兵衛・大嶋磯右衛門 乾徳寺宛 文政一〇年一二月	一通き三三七
長国寺修復引当金郡奉行受取証文 岡嶋莊藏・與津権右衛門 矢沢監物宛 文政一二年一一月	一通き三三七
長国寺祠堂金公債之儀勘弁願書〔旧藩へ預置金御下ヶ御救願〕 世話方 明治七年九月	一通き三四〇

○借入金

日光恵乗院へ借入金一条書類 安政二年～三年

1 竹村金吾伺書〔借入金受入方〕 一月

一通

2 竹村金吾廻状 山寺源太夫・高田幾太他一人宛
一月二〇日

一通

3 家老回章 恩田頼母 鎌原石見他三人宛 一月二
二日

一通

4 家老差図書 同前 竹村金吾宛 一月二九日

一通

5 恵乗院書状〔貸付金条件〕 竹村金吾宛 二月一
二日

一通

6 大川繁右衛門用状〔借入金報知〕 二月一二日

一通

7 恵乗院書状〔大川氏代替承諾他〕 佐藤長左衛門
宛 三月二七日

一通

8 有覽書状 佐藤長左衛門宛 三月二八日

一通

9 大川繁右衛門書状別紙

一通

10 大川繁右衛門書状〔仮証文引替佐藤氏出張承諾〕
竹村金吾宛 四月二日

一通

11 贈物添状 大川繁右衛門 同前宛

一通

12 借用金証文案 添証文案共 真田信濃守内役人
清淨坊三法印宛 安政二年二月

二通

13 借用金証文案 添証文案共 用人他 教城院他
三法印宛 安政三年一月

二通

長 国 寺

(↓寺社領)

書状案〔来年感心院十回忌ニ付御靈屋横敷石内献上
之儀〕 (万延元年)

一通き二三二

御法事執行刻限付 長国寺 一〇月二七日

一通き二三一

大日方正司用状〔長国寺智光院御牌前御納物〕 片
岡弘人宛 七月八日

一通き二五三

参 詣

善光寺御参詣先例振合取調書

き三五四

1 下乗所掛合申上書 山寺源太夫 (天保一五年)

一通一枚

2 御前様御参詣之節被下物覚

一通

善光寺御参詣一件 安政四年閏五月～九月

袋入 二綴き三七六

〔御野掛途次之参詣ニ付伺書、用状、書留等一件書
類〕

○ (↓勤方)

御参詣通達 水道役宛

〔長国寺御参詣〕 (四月二一日)

一通き二〇四

〔長国寺御参詣〕 (五月一七日)

一通き二〇五

〔長国寺御参詣〕 (七月四日)

一通き二〇一

〔長国寺御参詣〕 (七月四日)

一通き一九六

〔長国寺御参詣〕 (八月二二日)

一通き二〇〇

〔長国寺御参詣〕 (九月五日)

一通き一九九

〔長国寺御参詣〕 (一七日)

一通き二〇〇

〔長国寺御参詣〕 (二二日)

一通き二〇三

〔舞鶴山両宮并開善寺御参詣〕 三月二九日

一通き一九六

〔舞鶴山両宮等御参詣〕 (一五日)

一通き一九五

〔舞鶴山両宮御参詣〕 (一五日)

一通き一九七

〔舞鶴山兩宮御參詣〕 (一五五) 一通き二〇〇
 〔舞鶴山兩宮御參詣〕 (一五五) 一通き二〇三
 〔舞鶴山并開善寺御參詣〕 (一九九) 一通き一七〇
 〔諏訪宮并長国寺等御參詣〕 (四日) 一通き二〇六
 〔御城内鎮守等御參詣〕 (二二日) 一通き二〇九
 御參詣御道筋差支有無聞合書〔舞鶴山其他〕 水道役 一通き二〇七
 道宛 一通き二〇八
 御參詣御道筋差支有無聞合書〔池田宮〕 水道役 一通き二〇八
 修復・普請
 石碑等修復入料請取証文 高野山蓮花定院 禰津 一通き二六四
 要左衛門宛 天明三年六月
 高野山御靈屋修復寄附金請取証文 蓮花定院 繼一通き二六五
 文化元年二月同二年六月
 高野山御靈屋御普請一式入料請取勘定書 文化 通き二七一
 一四年文政元年
 注文品積書 三通
 買上物代并手間代請取書 二六通
 石塔直し代書出 梅中坊 一通
 祝儀酒代等請取渡書 三通
 旅籠代賃錢請取書 一〇通
 旅籠代賃錢勘定書 七通
 酒代内金指引勘定書 大貫屋伝兵衛 蓮花定院 一通
 納所宛 四月一八日

。一式入料請取勘定書 一月 二通
 。品々御入料金御取切証文 菅沼九左衛門 金児 一通
 総左衛門他宛 文政元年二月
 長国寺普請入料書類 明治二年 通き二二三
 御壁品物共積書 安川富治 九月 飯一冊
 板・材木積書 三通
 戸障子注文書写、同積書 九通
 疊積書 五通
 本堂普請請負書 青木助治郎・荒井森太 長国 一通
 寺普請掛宛 一〇月 一通
 大工手間人数書出し 同前 一二月二日 一通
 開善寺願書 同評議貼紙〔自普請修復料として除地 杉木伐採同済之處同金高寄附願出人有之ニ付立木其儘差置方何〕 郡政副主事宛 明治三年一月 一通き二七四
 白鳥宮
 奉納太刀請取証文 堀内大隅 金児惣左衛門他宛 一通き二二三
 文化二年二月
 白鳥大明神御遠忌被下米勘定一紙 文政六年 通き二四五
 1七拾歳以上難渋者被下米請取渡印形帳 横長半 一冊
 2施行米請取一札 証蓮寺中しん 御賄所宛 一通
 3施行米請取一札 東荒町村りせ 同前宛 一通
 4被下米相渡勘定一紙 竹内孝右衛門 一〇月 一通
 四宮大明神神官礼状〔御供料受納札〕 別紙欠 星 二通き二六六
 合和泉 大嶋磯右衛門他宛 一二月二日 通き二六七
 舞鶴山兩宮諸入料勘定書綴 通き二四一

1 舞鶴山神領御蔵入元立証文 野池弥右衛門・伊東賢治 入久左衛門他二人宛 嘉永七年九月	一通
2 開善寺門前借入地年貢代金請取渡証文 開善寺役僧 嘉永六年十二月	一通
3 開善寺前馬場叙代郡役小役請取証文 西条村役人 内借掛宛 嘉永六年十二月	一通
4 御宮入料請取勘定一紙 請取書一九通添 松本八十左衛門 入久左衛門他二人宛 嘉永七年四月	二〇通
5 祭礼品々入料請取渡証文 近藤權内 同前宛 嘉永六年十二月	一通
6 御初穂其他品々入料請取渡証文 同前 嘉永六年十二月	一通
7 買上物代請取書 御買物役所宛 一二月	三通
10 神入舞奉納料請取渡証文 近藤權内 入久左衛門他二人宛 嘉永七年一月	一通
11 新規道具買上入料請取渡証文 請取書一通添 同前 同前宛 嘉永六年十二月	二通
12 所々修復入料請取勘定一紙 請取書一通添 中村富太郎 嘉永七年三月	一二通
13 修復入料御納戸上納書 中村富太郎 嘉永七年三月	一通
14 品々御用人足代金請取渡証文 春日安治・中沢茂市 入久左衛門他二人宛 嘉永七年三月	一通
15 当丑年分御供料代金請取書 星和泉 一二月	一通
16 当丑御供料代金請取書 石和安芸 嘉永六年二月	一通
西条村役人申上書 (舞鶴山両宮御參詣之節村役人案内先規御尋之儀) 御勘定所元宛 文久元年四月	一通き二六三

白鳥大明神臨時祭礼ニ御附人老人揚人依頼狀 源之進 三月二十五日	一通き二四六
白鳥神社社金勘定書類	
白鳥神社御社金預り証書 真田家家扶 白鳥社惣代宛 明治一六年二月〜二九年三月	袋入 二〇通き二四三
白鳥神社祭典費受取書 殿町祭典係 家扶宛 明治一八年四月〜二二年八月	八通き二四三
社費受取書 (用度金、祭典費、神官給分) 小山田之安 同前宛 明治二二年二月〜二三年一月	八通き二四四
社費中借金受取書 神社惣代 家扶宛 明治二七年九月〜三〇年二月	二七通き二四五
基本金利子受取精算証 氏子総代 家扶宛 明治二四年一月	一通き二四六
白鳥神社中借帳 宮下秀夫 明治二四年	横半半折 一冊き二四七
白鳥神社御社用ニ付御中借金受取帳 會計掛 長谷川甲之進 家扶宛 明治二五年二月	横半半折 一冊き二四八
白鳥社金預り証書 宮下秀夫 竹内新七宛 明治二三年六月	一通き二四九
御手段金利金計算書 明治二二年〜二八年	二綴き二五〇
祭 礼	
祭礼之節歌舞伎狂言其外催物は非同書 (於在々芝居等制禁御蝕ニ付領内事例問合) 寛政一一年	袋入 き二六〇
1 石川新八内伺書并附札 八月	一通
2 職奉行伺書 (善光寺・八幡宮・皆神山祭礼行事) 竹内藤馬・白川寛蔵 七月	一通
3 町奉行伺書 (城下祭事) 金井甚五左衛門・前嶋作左衛門 七月	一通

4 石川新八口上書留〔松代城下祭礼模様大概〕	一通	被下物目録認方伺書 河原舎人	一通き一四七
5 御留役返書狀 西田金次郎 石川新八宛 八月 一三日	一通	勢州御師繼目御礼之次第	半 仮一冊き一四六
山王神事県庁前執行ニ付申渡簡条（明治四年）	一通き三七六	先例日記書拔〔寛政十二年繼目之節日記〕	半 仮一冊き一四九
舞鶴山相撲入料被下評議書類 明治四年	き三八〇	善光寺本願上人上京差添人評議書類	き三三〇
1 西条村相撲世話方願書 松代県庁 九月	一通	1 聖護院宮御口上手控〔上京之節付添人申入〕 富井藏人 二月	一通
2 神社方伺書 九月	一通	2 長谷川三郎兵衛申上書	一通
其他		3 家老用狀 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門他二人宛 二月四日	一通
皆神山富士浅間大神楽寄進御尋之儀答書 平林 村役人 海沼与兵衛・町田源左衛門宛 文政五年五 月	一通き一四五	4 家老用狀并勘返狀 鎌原伊野右衛門他二人 真 田志摩・望月婦一郎宛 二月一三日（一七日）	一通
神事延刻之儀答書〔雨天延刻之段御尋ニ付答〕雨 宮村山王神主・組合村役人 代官所宛 天保一四年 五月	一通き一六三	5 御備取調掛申上書〔警固人数案〕 三月	一通
切支丹宗門取締差上証文 八幡宮神主・別当寺役 僧 安政二年九月	一通き一六六	6 家老用狀 鎌原伊野右衛門 高野広馬宛 三月四 日	一通
勢州御師広田筑後繼目御礼書類	一通き一六六	7 高野広馬御尋物答書 三月四日	一通
御礼御目見評議書類	き一四六	8 御勘定吟味御尋物答書 三月六日	一通
。供連増人評議伺書及答書并回章	一通	9 御目付御尋物答書 三月	一通
。参着申上書	一通	10 山口左馬介御尋物答書 三月一〇日	一通
。登城心得申渡書	一通	11 金井美濃輔御尋物答書 三月一〇日	一通
。繼目御礼式次第評議書類	七通	12 護送役人名面書	一通
。御目見日程伺回章	一通	13 護送被仰付御書付案 三月	一通
。家督願添伺書	一通	14 小野喜平太御尋物答書 三月一二日	一通
。御礼献上伺書	一通	15 高野広馬御尋物答書 三月一三日	一通
		16 御勘定吟味再御尋物答書 三月一三日	一通

17 御勝手元ノ御尋物答書〔付添人被下物〕 三月一三日	一通	7 従前神職取扱書	一通
18 金井美濃輔再御尋物答書 三月一四日	一通	8 並方社家名面書上	一通
19 高野広馬御尋物答書 三月	一通	租税方御尋物答書〔招魂場番人再任〕 九月四日	一通き二四二
20 山口左馬介御尋物答書 三月一五日	一通	新嘗祭ニ 県幣使下向願 武水別神社八幡宮 松代 県役所宛 明治四年一〇月	一通き二四四
21 家老廻状 鎌原伊野右衛門 真田志摩・望月帰一郎宛 三月一五日	一通		
22 磯田音門御尋物答書 三月一六日	一通		
23 日光山五献備之節披露状案 大業院宛	一通		
24 口上書使者手扣〔日光門主宛年頭祝詞〕	一通		
25 磯田音門伺書〔差添人数名前〕 三月一二日	一通		
26 善光寺役人内書状〔警衛人名前問合〕 柄沢彦太夫 磯田音門宛 三月一二日	一通		
家老達書〔岩野村正源寺菓子折献上〕 御膳番宛 八月二八日	一通か三六五		
差図書〔月並・四節其外祈禱御札守差出先〕 御家従宛	一通き 七		
管下各区郷村社御定メ方評議伺書類 明治四年	き二四元		
1 社寺方伺書 別紙添 九月二四日	二通		
2 規定事項伺箇条	一通		
3 県社名書抜	一通		
4 祠官身分取扱箇条	一通		
5 祠官名面	一通		
6 神社総数書出〔二三八社〕	一通		

家中

分限明細

○

五ヶ村支配代官名割書

支配方名面〔計政局職員〕 明治二年二月

横半半

一通き 一四三

一冊き 五

平野玄祐明細書

家人内別届書〔中島有平等四家族〕 二月

三枚き 六二

一通き 二〇三

水道方仲間家族書上書 駒沢鶴治他二人 水道方奉行所宛 明治二年六月

三通き 六三

渡辺泰藏親類届書扣〔家内混雜ニ付別居〕 松代庁宛 明治五年二月

一通き 二〇三

東京出張大属用状〔戸籍之内妾名称及士族従者取扱問合回答〕 八月二八日

一通き 二四〇

家督

家督讓願書 関山源右衛門 金井左源太・岡嶋莊藏宛 文政九年二月

一通き 四六

小松栂三郎書状〔家督礼挨拶〕 宮下主鈴・一場茂右衛門宛 文久三年九月

一通き 七六

家督願案文 県庁宛

一通き 七六

家督申付状 大久保喜代治宛

一通き 四一

家督申付状写 長野県 西村良太郎宛 明治九年四月

一通き 五八

書状〔文久年中御答ニ付相統取執方依頼〕 教政宛 四月二〇日

一通き 三五

○

松木民左衛門改姓願出書類 岡嶋莊藏宛 弘化二年三月

一通き 六七

改姓願書〔高坂と改姓〕 松木民左衛門

一通き 六七

苗字改願書例書〔天保一四年宮尾久吾願出〕

一通き 六三

宮下孫兵衛末期願添伺書 赤沢助之進 一月

一通き 七九

○

町奉行御書替書附〔岡本四郎兵衛仲不行跡にて久離御願之通〕 文政八年四月一二日

一通き 八三

奥坊主婦俗願書案〔北島要專病中養子不能ニ付〕

一通き 三三

跡式

水道方仲間跡式願書類〔き四九ノ五三〕

幸藏跡式願書類 文政三年二月

き 四九

1 水道役伺書〔幸藏病氣ニ付俸熊藏見習取立方〕

一通

2 水道方元ノ添願書 小沼民弥・宮沢喜左衛門

一通

3 幸藏願書 水道方元ノ宛

一通

佐平跡式願書 元ノ小林良治宛 弘化二年二月

一通き 五〇

弥惣治跡式願書 元ノ荒井弥平宛 嘉永五年一月

一通き 五二

安治跡式願書	同前宛	安政二年一月	一通き 五三
孝藏跡式願書	同前宛	万延二年一月	一通き 五三
中奥使廻り徳治跡式伺書	願書共	御奥支配添役 慶応元年閏五月	二通き 五二
大塚広三郎跡式添伺書	鈴木内藏允	一二月一五日	一通き 五二
養子跡式願案文			一通き 七三
伊東栄治跡式願評議書類			き 九五
伊東栄治跡式願書	三月八日		一通
1 伊東栄治願書	親類中宛		一通
2 伊東栄治親類添願書			一通き 九三
組頭内密答書			一通き 九六
御目付申上書	三月		一通き 九六
御尋物答書	山口左馬介	三月八日	一通き 九六
御尋物答書	山口左馬介	三月八日	一通き 九七
御尋物答書	金井美濃輔	三月八日	一通き 九六
御尋物答書	金井美濃輔	三月八日	一通き 九六
家老回状	鎌原伊野右衛門	河原左京他三人宛 三月九日	一通き 九三
家老用状	御用番宛	三月九日	一通き 九三
隱居			
岩下左源太口上書取〔七二歳隱居願依頼〕	岡嶋		一通き 四八
莊藏宛 (文政)	一月二八日		き 六四
小頭足輕隱居願評議書類			
1 従前隱願申付振〔願書及申付書雛型〕			一通
2 銃兵小隊長伺書〔御一新後書式伺〕	一月		一通
3 理事御尋物答書	一月一〇日		一通
4 監察御尋物答書	一月		一通
5 少参事評議答書	一月一三日		一通
6 銃兵小隊長伺書	認様別紙共	二月一五日	三通
死亡			
大銃方小頭北沢徳五郎於甲府病死書類			
春原織右衛門書状〔死亡通知、葬式料被下方〕			二通き 六五
富永新平宛	一〇月一六日		二通き 六六
春原織右衛門伺書〔葬式料被下方〕	一〇月		二通き 六六
取立			
足輕組入願書案〔御用夫安之助奥筋ニて戦死ニ付 幼子兵助足輕取立願〕	清野村兵助祖父・親類	明治 二年九月	一通き 六〇
元御雇組松本元五郎取立伺書類		明治四年	き 五三
1 副隊長補伺書	六月		一通
2 副隊長補申立書写〔昨年申立之写〕			一通
3 表御用人御賞筋内々願書写			一通
家系・履歴			
御目見以下之者苗字詮議願書			一通き 一四
旧藩士族系図編集趣意覚			二通き 一五

勘定所元ノ役年歴調

伊東嘉左衛門略歴

勤仕年歴書 (明治二年)

勤仕年数調〔宮人伝治、市川七郎治、関愛山〕
明治四年三月

勘定役勤中年歴書〔井堀又七他〕 明治四年

女中奉公請状

御附女中請状入箱 御守役所〔き〇五ノ三言入〕

木箱

一通き二六八

御側女中奉公請状 親類書共〔渡辺三左衛門娘のふ〕 天保九年三月

一通き二六九

御末奉公請状〔高浜久次郎娘徳〕 天保十一年七月

一通き二七〇

奉公人親類書〔酢し屋平六娘さだ〕 天保十四年九月

一通き二七一

御末奉公請状 親類書共〔豊田屋久兵衛娘たつ〕
天保十五年九月

一通き二七二

御側女中奉公請状 親類書・宗旨書共〔宮村孫左衛門娘鶴〕 弘化二年八月

一通き二七三

御末奉公請状 親類書共〔川崎市市場村三郎兵衛娘花〕 弘化四年三月

一通き二七四

御側女中奉公請状 親類書共〔三河屋忠七妹まぢ〕
弘化四年二月

一通き二七五

御中老奉公請状 親類書共〔井上直之丞母多瀬〕
嘉永三年二月

一通き二七六

御末奉公請状 親類書共〔平山治兵衛娘美地〕 嘉永四年九月

一通き二七七

奉公人親類書〔松村太右衛門娘調〕 嘉永六年九月

一通き二七八

御末奉公請状 親類書共〔大井原村長五郎娘はな〕
嘉永七年七月

一通き二七九

奉公人親類書 支度金請取一札共〔山本要左衛門娘たき〕 安政三年三月

一通き二八〇

奉公人親類書〔藤田惣左衛門娘らく〕 安政四年二月

一通き二八一

御次奉公請状 親類書共〔日高屋八十八娘てる〕
安政四年九月

一通き二八二

小姓奉公請状 親類書共〔深和良寛娘うた〕 安政五年八月

一通き二八三

御末奉公請状 親類書共〔星野紋治郎娘わき〕 安政五年八月

一通き二八四

御末奉公請状〔大井原村長五郎娘とく〕 安政六年二月

一通き二八五

奉公人親類書〔矢野沢治郎吉妹茂登〕 安政六年三月

一通き二八六

小姓奉公請状 親類書共〔大木日哲娘きの〕 万延元年閏三月

一通き二八七

小姓奉公請状〔喜多村六蔵娘たけ〕 万延元年閏三月

一通き二八八

奉公人親類書〔高瀬辰蔵請人娘満寿〕 万延元年九月

一通き二八九

御末奉公請状〔表組安蔵母若菜〕 元治元年四月

一通き二九〇

奉公人親類書〔荻野屋亀次郎娘かね〕 慶応元年八月

一通き二九一

奉公人親類書〔山脇弥六娘ふじ〕 後欠 慶応二年五月

一通き二九二

御次奉公請狀 親類書共〔滝川久次娘つる〕 慶応三年二月	二通き 二九	同心屋敷讓渡ニ付絵図面附替願 同前 同前宛 天保四年四月	一通き 二〇六
御末奉公請狀〔南原村大泉寺娘こみじ〕 慶応四年三月	一通き 二〇	同心屋敷讓渡ニ付絵図面附替願 同前 同前宛 天保五年九月	一通き 二〇六
御末奉公請狀〔紺屋町平三姪津多〕 慶応四年五月	一通き 二三	同心屋敷附替願等閑赦免願 同前 同前宛 天保五年九月	一通き 二〇〇
御仲居奉公請狀〔同前姪千代〕 慶応四年六月	一通き 二三	家老用狀〔居宅焼失之家中取調〕 恩田頼母 竹村金吾宛 四月一二日	一通き 七三
御末奉公請狀案	一枚き 二五	桜井六郎左衛門・佐藤軍治用狀〔桜井屋敷之内貸借同済通知〕 金井彦右衛門・坂口利左衛門宛 七月二三日、二四日	二通き 二七〇
奉公請狀包紙〔御次花〕	一通き 二五	中沢村分地内改取調申上書〔紺屋町彦兵衛持地和田隼之助拜領屋敷ニ可成分〕 小野左金吾・堀内莊治 八月	一通き 二七九
御暇之御末女中引取願 芝口二丁目林屋豊吉 慶応二年八月	一通き 二五	中嶋三右衛門口上書〔居宅窓造、地続拝借地讓渡依頼〕 一〇月一三日	一通き 二七四
成沢奎之進書狀〔植木幸藏門口建造之差障有無返答〕 佐藤三九郎・水野房五郎宛 文政九年六月	一通き 一六	水野房五郎用狀扣〔隣家境杭際江溝之儀〕 森木唱宛 一〇月二五日	一通き 二六二
北沢源次兵衛差上屋敷長屋住居人願出書類 文政一〇年五月	き 四〇元	差図書〔中沢源藏へ拝借地引渡〕 水道役宛	一通き 二七六
1郡奉行伺書并附札〔安兵衛儀番人兼家賃赦免伺〕 五月	一通	屋敷替差引増坪数調書	二通き 二六二
2御藏番伺書〔先例ニヨリ年貢上納之上ニて拝借住居〕 五月	一通	計政副主事申上書〔彌津千里屋敷地差上御手充金差図依頼〕 二月二〇日	一通き 二七三
3居住人安兵衛願書 御藏役所宛 五月	一通	城内順操院殿住居払下評議書類	き 二七七
4居住人りの他願書 同前宛 五月	一通	1細田久作願書 郡政副主事宛 二月	一通
関山治兵衛書狀〔分水引入承諾之礼〕 佐藤・水野宛 天保三年七月	一通き 三〇	2民事掛御尋物答書 三月	一通
岩下革書狀〔内水之表出口移動届〕 同前宛 天保四年八月	一通き 四六	順操院殿御物見拝借之儀申上書〔村上覺次郎家内引移之是非〕 三月	一通き 二六八
同心屋敷讓渡ニ付絵図面附替願 同心町肝煎・組頭 水道役所宛 天保三年七月	一通き 二〇七		

寺内多宮書狀 屋敷地御引上達書寫添〔増田助之進返上屋敷地改出役〕 水野房五郎宛 二月二〇日
勘定役用狀〔中沢源藏拝領屋敷改立会依頼〕 半田龜作・吉野芳馬 山本権平宛 一〇月二二日
差図書〔百舩小頭宮原治右衛門物置増築伺之通〕御目付宛

帰郷者仮住用ニ城郭内建家地拝借願書案

高木玄齊居宅買取積書 略図共

料理下賜

宮下兵馬書狀〔御重之内送狀〕 宮本慎助・高野寛之進宛 八月一八日

御台所目付用狀〔被下之御料理残分送付〕 同前他宛 八月二二日

家中一件書類

○原権右衛門一件

原権右衛門御借入金一条不審評議書類 文久三年

1 原権右衛門書狀写 親類中宛 八月九日

2 親類金児忠兵衛添願書 九月九日

3 中山善右衛門書狀 玉川一学宛 六月二八日

4 御目付評議申上書 九月

5 郡奉行廻狀 齊藤友衛 磯田音門・成沢勘左衛門宛 一〇月四日

一通き 三六

一通き 一七六

一通き 二四四

一通き 三六七

一通き 三三三

一通き 三三

一通き 三三

き 三六〇

6 原権右衛門歎願之儀御尋物答書案 九月

7 成沢勘左衛門申上書 一〇月七日

8 郡奉行廻章 齊藤友衛 磯田・成沢宛 一〇月八日

9 御目付御尋物答書 一〇月

10 長谷川三郎兵衛御尋物答書 一〇月二二日

11 家老廻狀 赤沢助之進 矢沢將監他四人宛 一〇月二二日

12 家老用狀案 同前 草間一路宛 一〇月一五日

13 草間一路返書狀 一〇月二四日

原権右衛門帰坂延引関係書類 文久三年〜元治元年〔き三三〇〜三三二〕

原権右衛門書狀 矢沢將監他五人宛 一〇月二四日

原新之丞書狀 親類中宛 一一月九日

原新之丞内密歎願書 一一月二二日

原新之丞書狀 親類中宛 一一月二三日

草間一路書狀 赤沢助之進宛 一一月一三日

原氏容鉢書 玉井駿吉 一一月

原氏容鉢書写 同前〔原新之丞写〕

容鉢書 成瀬三栄 一一月

容鉢書 石村友徳

原権右衛門親類願書 高田幾太 一二月五日

一通

一通

二通

一通

一通

一通

一通

一通

一通き 五七

一通き 五五

一通き 五三

一通き 五六

一通き 五〇

一通き 五二

一通き 五一

一通き 五二

一通き 五四

一通き 五二

家老廻狀 赤沢助之進 矢沢將監他三人宛 一二月六日	一通き 四三
原新之丞書狀 草間一路宛 一二月四日	一通 五九
原新之丞書狀 親類中宛 一二月二日	一通 五九
原氏容躰書 玉井駿吉 一二月	一通 五九
原新之丞書狀 親類中宛 一月七日	一通 五九
高田幾太申上書 一月	一通 五九
家老用狀 赤沢助之進 矢沢他三人宛 一月四日	一通 五〇
御勝手元ノ御尋物答書 一月二七日	一通 五三
原新之丞書狀 親類中 二月二八日	一通 五五
高田幾太申上書 三月	一通 五三
家老用狀 赤沢助之進 矢沢但馬他二人宛 三月四日	一通 五七
原権右衛門親類申上願書 高田幾太 四月一〇日	一通き 五〇
原権右衛門親類御答書 承付貼紙 五月	一通き 五九
原権右衛門養子願評議書類 明治三年	一通き 四六
1 原権右衛門親類歎願書 理事宛 三月八日	一通
2 議事御尋物答書〔家督と不可分ニ付取調有度〕	一通
3 監察御尋物答書〔大赦之上養子可認〕 三月	一通
4 計政副主事御尋物答書 三月八日	一通
5 計監御尋物答書 権少参事・少参事答書貼紙 三月一〇日、一二日	一通
6 大熊董廻狀 真田桜山他四人宛 三月二日	一通き 二六
原権右衛門親類内願書 明治二年六月	一通き 四七
原権右衛門養子願出書類 明治三年	一通
1 原権右衛門親類願書〔卯十月申立亨〕	一通
2 原権右衛門親類歎願書〔大病之上妻子無之故〕 原忠次郎他三人 理事宛 三月一四日	一通
3 原権右衛門親類歎願書〔同前亨〕	一通
4 原権右衛門養子願〔高田貫之輔弟梯次郎為養子〕 理事宛 三月一四日	二通
5 原権右衛門養子願書〔同前亨〕	一通
6 高田貫之輔養子届書 理事宛 三月四日	一通
7 高田貫之輔養子届書〔同前亨〕	一通
8 原権右衛門死亡届書 原忠次郎他二人 理事宛 三月一四日	一通
9 原権右衛門死亡届書〔同前亨〕	一通
原権右衛門拝借金取扱評議書類 明治三年カ	一通き 四六
1 計政副主事御尋物答書〔親類等へ申付案〕 五月	一通
2 計監御尋物答書 五月	一通
3 議事御尋物答書 五月	一通
4 監察御尋物答書 五月	一通
○北山安世一件書類	
士族北山安世逆行処刑一件書類 明治四年	

北山安世親類届書案 和田教雄 県庁宛 八月一二日	一通き一六四
北山安世親類届書案〔母死去之旨〕 同前宛 八月一三日	一通 一六五
北山安世親類内々申上書案	一通 一六六
北山安世親類申上書〔当人糾問之儀〕 関口隼太 八月一四日	一通 一六七
渡辺大属用状	一通 一六八
1 渡辺大属用状〔処刑仕方并家名取立方〕 九月一日	一通
2 県庁内密書状〔家名存続仕法〕 渡辺大属宛 八月一八日	一通
3 民事懸申上書〔伺書様式指示〕 八月	一通
松代県伺書并附札	一通 一六九
元士族北山安世断家再建伺一件書類	一通 一七〇
1 松代県伺書写〔家名再建之儀(2)6添付〕 史官宛 明治四年一〇月	一通 一七一
2 松代県伺書扣 司法省宛 明治四年八月二四日	一通 一七二
3 北山安世親類届書写 松代県宛 八月一二日	一通 一七三
4 北山安世親類届書写 同前宛 八月一三日	一通 一七四
5 創所書 監察掛 八月一三日	一通 一七五
6 北山安世親類歎願書写 荒井伴之助他六人 松代県宛 九月二九日	一通 一七六
7 歎願書添書 一〇月四日	一通 一七七
8 東京出張所報知状 一〇月一七日	一通 一七八

9 松代庁伺書〔北山藤三郎御救筋〕 本県宛	一通
10 手続書添書案〔北山藤三郎御救筋手続書ニ添〕	一通
士族編入	
佐藤八十郎士族編入歎願評議書類 明治四年	一通 一七九
1 磯田小藤太歎願申上書 八月	一通
2 奥坊主役歎願書 月岡万里他七人 興津権右衛門・磯田小藤太宛 八月	一通
3 磯田小藤太内々申上書〔北島要三之事例〕 八月	一通
4 佐藤八十郎親類歎願書 町田磯之助・小山藤左衛門 県庁宛 九月	一通
5 磯田小藤太再申上書 九月三日	一通
6 佐藤八十郎親類歎願書 別紙米沢藩取扱写共 町田・小山 磯田小藤太宛 八月	一通
7 奥坊主役歎願書 月岡・平野他 九月	一通
8 職事掛大属申上書	一通
9 職事掛少参事御尋物答書〔士族取立〕 九月一日	一通
10 監督御尋物答書〔以出格一生士族〕 八月二〇日	一通
11 会計掛御尋物答書 八月二三日	一通
勤方	
建白	
* 郡県御事件ニ付御口諭御書取案 明治四年一月	一通き一八〇

御口諭之趣ニ愚意申上書 明治四年三月	四通き二八〇	1 小幡全一郎 明治五年二月一〇日	一通
恩田新六、三沢清美、池村良太郎、竹村子習		2 沢角南〔六十人分〕 明治五年一月七日	一通
藩情御内尋簡条答書 明治四年五月	き二六四	3 野中喜左衛門〔二四人分〕 明治四年十二月	一通
1 謙一郎答書 同職宛 五月五日	一通	4 富永新平 明治四年十二月	一通
2 副隊長補送状〔書類送付〕 武庫司事宛	一通	5 三井清治 明治四年十二月	一通
3 武庫司事答書 五月	一通	6 飯島与作〔四人分〕 明治四年十二月	一通
献上金		7 飯島与作〔七人分〕 明治四年十二月	一通
足輕献上金六ヶ年元利仕出 文化一三年	一通き三三九	8 献上金人別名寄	一通
家督御札献上金覚書	一通か三三五	長谷川昭道書状〔議員献金一条不調ニ付長野県出張依頼〕 富永新平宛 十一月一九日	一通き五六
献上物勘定書〔真田志摩御加恩御請献上料理代金〕七月晦日	一通か三〇六	落士書状	
献上金高試算覚〔町方手附塚原健三郎分〕	一通き一七	佐藤小左衛門書状〔年頭祝詞〕 片桐十之助・同惣左衛門宛 一月二日	一通き三〇六
大災ニ付献上金願書綴 明治三年十二月	三九通き二四三	佐川彦之丞書状〔同前〕 岡嶋莊藏宛 一月三日	一通き四八四
元武庫方雇職人山本与五郎献上金御下ヶ評議書類 明治四ヶ五年	き二五	河原敬之進書状〔同前〕 宮下謙太夫宛 一月一六日	一通き四〇
1 武庫司事申上書 一二月七日	一通	谷口弥右衛門・小野摩書状〔年頭祝詞貞松院へ取次返札〕 山寺源太夫・高山内藏進宛 一月八日	一通き二五
2 山本与五郎内献上高調	一通	海沼龍助書状〔暑中見舞〕 水井忠藏宛 六月一五日	一通き四三
3 職事掛伺書 三月	一通	諏訪部守之進書状〔同前〕 宮下孫兵衛宛 六月二一日	一通き五八
4 山本与五郎歎願書 三月	一通	春日儀左衛門書状〔要用金利下承引之礼物添状〕 伊藤源左衛門宛 一二月	一通き八六
5 山本与五郎内献上調書 三月二八日	一通	久保極人書状〔役替挨拶〕 慶応二年三月一四日	一通き九
6 監督御尋物答書 四月一五日	一通		
7 献上金之内御扶持其外差引残高積書	一通		
卒献上金御下ヶ請取証文并請取渡証文	き二四四		

植木直衛書狀〔御側御納戸就任挨拶〕 宮下孫兵衛宛 慶応三年七月一六日 一通き 八七

長谷川三郎兵衛書狀〔詰残り御料理配付謝礼〕 師岡源兵衛宛 一月晦日 一通き 五元

宮本慎助母堂危篤報知書狀 四月二日 き 四九二

1 水井忠治書狀 一通

2 田中増治書狀 良意他二人病狀通知狀共 二通

大野左平治書狀〔用意金被下取計方依頼〕 弥左衛門宛 四月一五日 一通き 一五六

宮下謙太夫書狀并勘返狀〔雄若様卒去見舞として矢野求馬献上取次、切手廻送〕 河原敬之進宛 五月二〇日〔六月四日〕 一通き 七〇四

座間百人書狀〔娘縁組通知〕 菅沢九兵衛他五人宛 六月一八日 一通き 四八五

河原敬之進書狀〔全快出勤悦〕 宮下謙太夫宛 八月七日 一通き 四三三

倉島小右衛門書狀〔内願之返答〕 弥左衛門宛 四日 一通き 一五五

弥右衛門書狀〔半蔵儀御礼参上依頼〕 幡湯潤蔵宛 一二月二七日 一通き 一五八

孝助書狀〔寛典之処置遵守ニて謝罪方〕 七月二五日 一通き 五三二

弥左衛門宛 弥左衛門宛 八月二〇日 一通き 五三四

半之丞書狀〔祭礼ニ付兵隊以外へ酒飯不被下苦情〕 一通き 五五

半之丞書狀〔依頼之件延引詫〕 弥左衛門宛 七日 一通き 五五

三村大之助書狀〔感応院様一件帳借用取次〕 河原敬之進宛 一〇月一九日 一通き 五九

直太郎書狀〔内願之儀訪問伺〕 弥左衛門宛 一〇日 一通き 一五三

書狀〔御目付差出之別紙取扱方依頼〕 八月七日 一通き 一五

吉村左織書狀〔物頭足輕奉行役替礼〕 久保極人・榎田弥惣兵衛宛 明治二年五月二六日 一通き 五八四

青柳増太郎・八田五十司連署狀〔引替事務礼及通帳届〕 水野清右衛門宛 三日 一通き 一〇一七

長谷川三郎兵衛書狀〔會計官権判事へ転出挨拶〕 宮下孫兵衛宛 明治四年一二月一日 一通き 四九五

長谷川三郎兵衛書狀〔從五位下叙任挨拶〕 宮下孫兵衛・榎田弥惣兵衛宛 明治四年一二月五日 一通き 五三

富永新平書狀 父宛 七月二二日 一通き 五三

高山純一郎母書狀 純一郎宛 二月一日他 四通き 八五

家 扶 局

御家従并同附属人撰及申付書案 三通き 一六六

家扶用狀〔手充金為換送付依頼等〕 六月三〇日 一通き 二六七

家扶用狀 七月二日 一通き 二六

家扶用狀〔能衣裳拝借、盃注文等〕 七月二二日 一通き 二七

家扶用狀〔給仕交代打合等〕 九月七日 一通き 二七

家扶用狀〔真綿買上〕 一一月六日 一通き 二七

御藩邸奥向等御払入札伺書 佐藤美与喜 一〇月二〇日 一通き 三〇一

家令・家扶手充金調 五通き 二六

土族雇入願書并指令書〔南沢喜久人家扶ニ雇入〕 久保成 長野県権令宛 明治八年 一通き 五〇

御殿下掃除願書 小森村宮沢小右衛門 明治三年一〇月 一通き 五八

華族會館資本金納入調 (明治九月)

一通き二六

御家祿之内収支凡積 金円出入覚書共 明治九年三月

一通き二七

家扶用状〔雇人月給之件〕 明治一二年一二月一〇日

一通き二七

足 輕

足 輕 一 卷

御足輕一卷〔き三七～三四〕

袋入

当前渡頂戴物請書 小頭惣連印 文政七年一二月

横長半

一冊き三七

糶米御藏御戸前沢積入覚

横長半

足輕頂戴物取調帳 考・式

横長小半

一冊き三六

割番書上覚〔江戸御在所足輕惣人数〕 申二月

一通き三〇

糶方掛聞合書〔小頭外惣人数〕 一〇月二七日

一通き三三

足輕御扶持渡方書類

き三三

1 御扶持渡方申渡書写

一通

2 御扶持渡方申渡書案

一通

3 小頭一同歎願書

一通

4 申上書案

一通

5 伺書御差図方願書稿

一通

6 申渡書写〔足輕御扶持代金渡〕

一通

7 申渡書写〔代金渡之内難渋筋へ糶渡之儀〕

一通

御借人被下物伺書

き三三

1 割番伺書 糶方掛答書貼紙〔原織部滞府中御借人被下物之内返上割合〕 一〇月

一通

2 割番伺書 糶方掛答書貼紙〔岩崎勝介御借人被下物差継方〕 一〇月

一通

宮下三郎治用状〔清左衛門拜借上納滞処理〕 唯右衛門・茂左衛門宛 一二月三日

一通き二三

普請方添書〔切米不足分足俵之儀別帳ニ添〕

一通き二三

御尋学答書貼紙稿〔御供手充高〕

一通き二六

差引頂戴方取調書類

き三七

1 糶方掛伺書 三月

一通

2 割番申上書〔江戸詰御扶持方頂戴辻取調〕 二月

二通

4 割番差出書〔未御切米品々引方凡高〕 申一月

一通

5 取調書案〔差引頂戴辻〕

一通

6 取調書下案

二通

赤池友左衛門願書〔御供江戸詰御立延ニ付一年詰被下方〕 午二月

一通き二六

兩寺供養料糶相場立方評議書類〔真田村長谷寺・上田芳泉寺供養料〕

き三三

1 糶方掛伺書 御郡方添伺貼紙 一二月

一通

2 家老差図書 鎌原伯耆 望月權之進宛 一二月五日

一通

詰番出府問合返書綴 入安兵衛宛 文政六年

き二四〇

1 間庭平左衛門書状〔木村縫殿助詰番御免〕 一月一五日

一通

割番伺書〔来已松原者抱入給金中借御下ケ願〕 辰二月	一通き 七三	御勝手元ノ御尋物答書〔松原者御減鍋錢被下之儀〕 八月二三日	一通き 七六
御勘定吟味御尋物答書 一二月二日	一通き 七六	松原者給金中借証文 高橋龍左衛門 水野清右衛門宛 明治二年三月	二通き 八五
割番伺書〔松原者給金一条申立〕 巳二月十九日	一通き 七三	割番伺書〔松原抱元頂戴癸午未兩年滯分御下ケ〕 明治五年二月	一通き 六六
割番伺書〔松原抱元差出願書并添伺書并〕 二月十九日	一通き 七三	押頭取	
足輕奉行添伺書 二月十九日	一通き 七六	押頭取願書 小坂忠兵衛 元治元年二月	き 六五
御城御守役用狀〔貞松院様奥御台所使廻り渡切願〕 足輕奉行宛 二月一八日	一通き 七九	1 定押清兵衛苗字上下御免願書	一通
松原召抱取扱評議書類写 巳二月一五日	一通き 七六	2 定押乙治御賞筋願書	一通
郡政副主事御尋物答書〔以後役方取扱〕 一月六日	一通き 七七	3 押役等勤続年数書上書	一通
当年松原者給金半減御下ケ金伺書 午一月一五日	二通き 七六		
割番伺書〔新抱松原者給金殘金御下ケ願〕 副隊長補添伺貼紙 午三月一二日	一通き 七〇		
割番再伺書〔同前〕 同前 四月二日	一通き 七二		
松原詰奉公人給金御下ケ願書 抱元惣代清右衛門・弥左衛門 松原懸役所 午八月	一通き 七四		
割番伺書〔松原者給金中借願〕 副隊長補添伺貼紙 午八月一八日	一通き 七三		
割番申上書〔前号見合書〕 午八月	一通き 七三		
割番伺書〔松原者婦東京賄代被下方〕 副隊長補貼添 九月一七日	一通き 七四		
割番再伺書〔松原者給金御下ケ〕 銃兵副隊長補貼添 午一〇月一二日	一通き 七五		

給禄・手充

知行・扶持

知行

知行所引渡状并知行人付状写 星野五兵衛宛
(明暦三年、万治元年)

半

仮一冊き 五三

知行渡・御蔵前渡差引調

一通き 八三

御宛行御手充扶持加増調出 安政三年

横長半

仮一冊き 一五

切米

小頭増切米割引評議再尋差上書扣 寅(安政元年カ)

き 七五

1 御收納郡方御尋物答書写 亥六月

一通

2 粃方掛御尋物答書 六月

一通

3 御收納郡方御尋物答書案 六月

一通

4 御勝手元へ差出書控 寅一二月

一通

5 御見渡穿鑿下調

横小半

仮一冊

宮本慎助書状〔谷口殿切米渡方依頼〕 春山喜平次宛 二三日

一通き 五二

春山喜平次書状〔多田謙三郎切米渡方依頼〕 入弥左衛門宛 一四日

一通き 五三

山口孝助・西沢甚七郎用状〔切米渡方〕 粃方掛宛 七月二日

一通き 五三

小納戸東京詰切米請取方伺書

き 五三

1 小納戸伺書 切米請取方覚共 巳二月

二通

2 御金奉行御納戸役添伺書 二月六日

一通

江戸詰高

御家中上下江戸往来并詰金改正評議書類

き 六三

1 家老達書 赤沢助之進 長谷川三郎兵衛宛 一〇月二〇日

一通

2 御收納郡方伺書 見合書共 一〇月

四通

3 御收納郡方内々添書 一〇月一八日

一通

詰高詰給改正ニ付渡方伺書

き 七三

1 赤沢助之進添状 鎌原伊野右衛門宛 一月二八日

一通

2 前島友之進伺書 一月

一通

御勝手元へ御尋物答書〔御徒士当春急出府詰高被下願難聞済〕 一〇月

一通き 七四

普請方元へ小頭玉井恒之助東京詰居延詰高被下方評議書類 明治元年一二月

き 六〇

1 割番伺書

一通

2 足輕奉行添伺書 御勘定吟味答書貼紙

一通

滞府中詰高割合伺書 鹿野茂手木 明治元年二月

一通き 六二

入弥左衛門書狀并勘返狀〔遠国出張詰給改正調帳返却〕堀内莊作宛 六月五日

一通き 五三

浮 扶 持

寅八月家中浮御扶持勘定一紙 請取渡証文添 酒井渡七・増沢理介他 慶応二年一〇月

一綴き 五四
(三通)

寅九月家中浮御扶持勘定一紙 酒井渡七・窪田利左衛門 慶応二年一月

一通き 五五

家老用狀 差函書共〔東京詰足輕及松原者浮扶持代内借承済〕 鎌原伊野右衛門 佐藤為之進宛 一二月一七日

二通き 七六

扶 持 渡 方

御用詰足輕御扶持下渡伺書 割番小沼孝太夫 天保二年一〇月

一通き 四五

御扶持渡方御差函願〔三村養益分〕

一通き 九六

御賄役御尋物答書〔江戸抱御目見以下之者へ三人扶持先例〕 二月

一通き 四九

御扶持払捨評議書類 五月

き 三三

1 御賄役伺書

一通

2 御郡方伺書并附札

一通

御徒目付附人治兵衛御扶持被下評議書類

き 二四

1 御賄役伺書案

一通

2 御賄役伺書案〔前号ノ修正稿〕 三月

一通

3 御收納郡方伺書案 三月五日

一通

4 御收納郡方伺書案 三月五日

一通

5 家老差函書 望月主水 高田幾太宛 三月七日

一通

御扶持渡方評議書類〔跡式・勤続加恩等〕

窪田慎六御扶持渡方伺書

一通き 三三

野沢彦七之儀僉議書類〔天明九年以降同姓名取調〕

一通き 三三

見合書 下書共〔三井九郎左衛門他加恩・御賞〕

二通き 三五

見合書〔保崎庄助他御扶持渡方〕

一通き 三五

瀬津左盛扶持切米渡方内調書 戊九月二〇日

二通き 三七

見合書〔三井寿一郎他就役年月及御扶持高〕

一通き 三七

木挽長治切米割引御免申立書

一通き 三七

御尋物答書案 前欠

一通き 三九

御尋物答書案〔奥向御賞筋〕

一通き 三〇

見合書〔木内三平他被下物〕

四通き 六一

足輕扶持米繼合申上書

一通き 四四

十二月中扶持方代金渡高覚 玉井清太夫 戊十二月

一通き 九五

御勝手元々御尋物答書〔当春御供出府我妻見習御扶持被下方〕 一〇月一五日

一通き 三〇

御扶持繰合出兼候名面并俵数覚

一通き 二九

計政副主事御尋物答書〔藤田専蔵等扶持米被下方〕 一〇月二三日

一通き 九四

郡政副主事御尋物答書〔水原泉出張足輕繼合被下方〕 一二月

一綴き 四三

御宛行毎月渡方願書 橋詰専太郎 宮膳司宛 明治三年四月

一通き 七〇

○

伊藤莊吉書狀〔寺沢慎之丞へ繰合方〕 入弥左衛門宛 二二日 一通き 五三〇

已御切米手形払方積 一通き 二五〇

御扶持前借伺書〔職御役并御手木使丁等〕 一通き 二五〇

1 宮繕属伺書 一〇月 一通 一綴

2 別紙名面書 一〇月 一通 一綴

3 差図書 計政副主事宛 一通 一綴

米金切替渡

足輕切米御金払願書〔諸組人別掛差引ニ差支ノ為〕 一通き 八五一

野村重四郎他九人 大瀬登他二人宛 酉一二月

御宛行御役料等之内代金渡品々取調書類 慶応二年仲冬⁶ 袋入 一通き 三五五

1 知行宛行中以上之向本人嫡子御役料等仮調 一通 一冊

2 小頭以下向々御切米渡積調 一通 一冊

3 御扶持代金渡試扣 一通 一通

4 寺院扶持品渡差引増減調 一通 一通

5 向々御切米渡積調〔前出2号ノ下調〕 一通 一通

6 御役料其外減少俵数調 一通 一通

7 代金渡高相場直段試 一通 一通

8 向々渡俵凡積〔切米、足輕、扶持方等ノ各寄高〕 一通 一通

9 品被下之内今年切代金渡御試 甲乙 一通 一綴(二通)

10 口上認取申上書稿 一通 一通

11 粗米操合積 一通 一通

12 藏入米請払積 一通

13 知行添切米調 一通

14 御扶持并御役料其他渡高調 一通

15 向々品渡試調 一通

16 向々渡俵寄積 一通

料理人等御宛行渡方伺書〔金切米ヲ糶子ニて被下度旨〕 寅七月 一通 一綴

1 御膳番伺書 一通

2 料理人願書 大谷津又藏他二人 一通

3 御膳立願書 丸山治三郎 岩下半兵衛他宛 一通

4 御酒番等願書 坂田忠太他二人・温鈍師中沢孝三郎他二人・漬物師喜惣太他三人 一通

惡作ニ付家中其外品渡減少伺書案 寅一月 一通 一通

寅暮品渡之内代金渡書類入 袋入 一通 一通

1 御城附・御城番其外被下高覚 一通

2 御駕籠御手廻被下高覚 鈴木慶一郎 一通

3 御城同心頭不審之旨御尋物答書案 一通

扶持代金粗渡高覚 一通 一通

足輕扶持代金渡之分品物被下度願書 午一月 一通 一通

1 割番願書并普請方添狀写 一通 一通

2 普請方添狀 御郡方宛 一一月一日 一通

粗切米之向代金渡評議書類〔去暮渡分違作ニ付代金渡之処現金調達方〕 明治三年二月 一通 一通

1 出納掛伺書	一通	2 割番伺書 一二月二八日	一通
2 計政副主事申上書	一通	監手内願書〔切米滯分下渡〕二月	一通き 七五
3 議長御尋物答書	一通	辰巳年八重勤并本詰足輕被下糶払残評議書類 明治四年	き 八六
糶切米代金渡伺書案 出納懸 二月七日	一通き 六六	1 副隊長補添伺書 七月	一通
小頭等代金渡り糶高 未七月分	一通き 四七	2 割番伺書 七月	一通
給米現金渡願書 御金番唐沢庄十他六人 明治五年六月	一通き 三六	3 割番伺書 七月	一通
新規組除人前渡米金断書 割番	二四通き 七〇	4 計監御尋物答書 七月二二日	一通
滯米金下付		御扶持米御下ヶ願書 宮沢徳太郎 松代庁宛 明治五年一月	一通き 九七
金兒総左衛門滯御扶持渡方取調覚	三通き 五〇	女中切米	
滯御扶持拝借願連署状 竹内新左衛門他九人 安藤右膳他三人宛 三月一日	一通き 八五	御收納郡方御尋物答書〔南部坂奥女中御切米被下切〕二月一二日	一通き 八五
滯御扶持拝借願連署状 我妻大久保喜太郎・山西清左衛門 同前宛 三月二日	一通き 八六	女中等渡物覚 (明治)	一通き 一〇〇
家老差図書 赤沢助之進 草間一路宛 三月一二日	一通き 八七	請取書	
*滯御扶持拝借願連署状 倉田友太郎他一〇人 平林縫殿進他二名宛 三月二日	一通き 九六	御切米御手充糶請取渡証文 元治元年	二〇通き 八五
御役料等下渡願書 三村大之助 理事宛 三月二日	一通き 九六	。先立人御切米	
足輕已御切米滯分御下ヶ伺書 明治三年	き 三九	。元ヶ詰御切米	
1 割番内々伺書 一月	一通	。松原者御切米	
2 銃兵小隊長添伺書 一月二八日	一通	。御借人詰御切米	
小頭足輕末御切米代御下ヶ伺書 未一二月	き 三六	。本割番詰御切米	
1 足輕奉行添伺書 一二月二九日	一通	。増本詰御切米	
		。御供小頭定押等御切米	

- 。飛脚才領組御扶持方・御切米
- 。足輕御切米
- 。奥番組御扶持方・御切米
- 足輕八重勤御手充取請取渡証文〔子五月ノ十一月分〕 元治元年
- 御切米請取渡証文綴
- 1〔御口之者詰番出府三人分〕 文久四年二月
- 2〔御厩小頭等拾貳人分〕 元治元年二月
- 3〔御厩小頭等四人分〕 元治元年六月
- 4〔御供手廻八人分〕 文久四年三月
- 5〔詰番出府小納戸二人分〕 文久四年一月
- 6〔交代小納戸二人分〕 文久四年一月
- 7〔御駕籠之者拾二人分〕 元治元年二月
- 8〔御手廻之者八人分〕 元治元年二月
- 9〔御駕籠之者五人分〕 元治元年二月
- 10〔御手廻之者貳人分〕 元治元年二月
- 11〔御手廻之者拾五人分〕 元治元年二月
- 12〔御口之者貳人分〕 元治元年七月
- 13〔御駕籠之者五人分〕 文久二年二月
- 14〔御手廻之者九人分〕 文久二年二月
- 15〔御駕籠之者拾貳人分〕 文久二年二月
- 16〔御手廻之者〕 文久二年二月

一通 七通き 九〇
き 九一
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通
一通

- 17〔御手廻之者拾四人分〕 文久二年二月
- 18〔御厩小頭等三人分〕 元治元年四月
- 19〔御駕籠之者拾貳人分〕 文久四年三月
- 20〔江戸詰御厩小頭三人分〕 慶応三年二月
- 21〔詰番出府御厩小頭三人分〕 慶応三年二月
- 御口之者御切米請取渡証文 元治二年二月
- 御口之者御切米請取渡証文 元治二年二月
- 御口之者御切米請取渡証文 元治二年二月
- 御厩小頭・御口之者御切米請取渡証文 元治二年三月
- 御口之者御手充請取渡証文〔上京御留守中〕 慶応元年五月
- 御厩小頭・御口之者御切米請取渡証文 慶応元年六月
- 御厩小頭・御口之者御切米請取渡証文 慶応元年二月
- 中沢源藏扶持雜用代請取書 山田権之介 片桐重之助宛 丑二月
- 御切米御扶持方請取渡証文綴 慶応元年一月ノ二年一月
- 。本詰先立御切米
- 。松原者百人分御切米
- 。御用詰足輕御切米
- 。奥番組御扶持方
- 。小納戸詰番御切米

一通
一通
一通
一通
一通
一通き 九四
一通き 九三
一通き 九六
一通き 九五
一通き 九七
一通き 九八
一通き 九三
一通き 九九
三六通き 八六

。御借人御切米	
。普請方人足手附出役中賄糶	
。元ノ詰御切米	
。小納戸御切米	
。御雇組并後見之者御手充	
。御駕籠之者御切米	
。挾箱之者御切米	
。本割詰番御切米	
。足輕御切米	
。足輕御扶持方増人数御手充	
。飛脚才領組御扶持方	
。小頭并足輕御供拝借御切米差繼渡	
御手充金并御賄代請取渡証文（去々子年御帰城御供其他）慶応二年二月	一通き 八六
出火駈付御手充請取渡証文 慶応二年二月	一通き 九元
出火駈付御手充請取書綴 慶応二年	き 九〇
1 請取渡証文 割番伊東善右衛門 一二月	一通
2 請取証文 村上英俊 一一月二二日	一通
3 請取証文 久保喜代馬 一一月	一通
御切米御扶持方請取渡証文綴 慶応三年	二四通き 八七
。松原者百人分御切米	
。本詰先立御切米	

。奥番組御切米	
。御用詰足輕御切米	
。御借人御切米	
。小納戸御切米	
。普請方元ノ詰小頭御切米	
。本割詰番御切米	
。飛脚才領組御切米	
。足輕御切米	
。足輕御扶持方増人御手充	
。永雇御切米	
。役中増御手充	
御口之者御切米請取渡証文 慶応三年三月	繼一通き 九三
御口之者御切米請取渡証文 慶応三年三月	一通き 九四
御駕籠之者御切米請取渡証文 慶応三年六月	一通き 九二
御手廻御切米請取渡証文 慶応三年六月	一通き 九三
御口之者御切米請取渡証文 慶応三年八月	一通き 九〇
普請方元ノ御切米請取渡証文 慶応三年九月	一通き 八九
御切米請取渡証文綴 慶応三年二月	七通き 九元
。御手廻・御挾箱御切米	
。御駕籠之者御切米	
。御厩小頭御口之者御切米	

宛行差引

家中拝借金之者御宛行引上方評議書類 嘉永元年(二年)

き 六七

御尋物書類

枳方掛

御尋物答書稿 枳方掛 嘉永二年

袋入

き 六三

1〔片岡十郎兵衛詰番被仰付方〕御收納郡方 一月

一八日

一通

2〔表坊主之儀〕御勘定吟味 一月二一日

一通

3〔松本表江飛脚御手充〕御收納郡方 三月

一通

4〔長滞府之向御暇後御扶持被下方〕同前 三月

一通

5〔同前〕同前 三月

一通

6〔同前〕枳方掛 三月

一通

7〔御徒士目付等羽織代〕御收納郡方 三月

一通

8〔同前〕枳方掛 三月

一通

9〔同前〕御收納郡方 三月

一通

10〔奥村良左衛門・宮沢丹下詰高〕竹村金吾 三月

一通

11御收納郡方伺書并附札〔同前〕 三月

一通

12〔御徒士目付等羽織代之儀再申上〕御收納郡方

一通

閏四月

13役夫調役伺書〔郷夫之者給金被下〕 四月

一通

14〔同前〕枳方掛 四月

一通

15御收納郡方伺書并附札〔同前〕 四月

一通

16〔御医師下役〕枳方掛 四月

一通

17家老差図書 恩田頼母 磯田音門宛 四月二三日

一通

10御趣意拝借元利取調書

一綴

9齊藤善藏書狀〔口入金名面削除〕 山本権平宛
一二月二五日

一通

8宮坂平藏願書〔今井友之進口合金殘金御下ケ〕
枳方掛宛 二月一日

一通

7差図書〔同前引上金被下方〕 御收納方郡奉行宛

一通

6酒井市治用狀〔増田助之丞取替金返済〕 青山磯
治宛 二月一日

一通

5枳方掛伺書 一月

一通

4御收納郡方伺書并附札 一月

一通

3金主江掛合書狀案文 枳方掛 一月

一通

2枳方掛伺書〔御下金渡方〕 一月

一通

1御收納郡方伺書并附札 一月

一通

詰金返上納

詰番御切米上納方願書稿

一通き二七二

出府御免詰金上納方評議書類 卯三月

き 五九

1枳方掛御尋物答書 三月二三日

一通

2申上書 三月二三日

一通

中村義一郎出府御免詰金上納方御尋物答書

一通き 六二

18	〔奥坊主参府御供御手充〕 枳方掛 四月	一通
19	〔同前〕 御收納郡方 四月	一通
20	〔上村瀬兵衛御当用勤〕 御勝手元 四月	一通
21	〔御医師御供御借人代〕 御收納郡方 五月	一通
22	御勘定役伺書〔銅山職人賄方枳拝借〕 関田慶左衛門・野中喜左衛門 五月	一通
23	〔別家御徒士羽織代被下〕 六月	一通
24	〔同居御料理人御手充〕 枳方掛 六月	一通
25	〔同前〕 同前 六月	一通
26	〔高橋喜左衛門立帰出府在府中昼御扶持〕 御收納郡方 六月	一通
27	〔竹内六郎兵衛御扶持〕 同前 八月一八日	一通
28	〔竹内六郎兵衛御暇後御扶持〕 枳方掛 八月	一通
29	〔桜井忠作長滞府願〕 同前 八月	一通
30	〔同前〕 御收納郡方	一通
31	〔料理人手先之者御手充〕 同前 九月	一通
32	〔町方火消人足御賄被下〕 同前 九月	一通
33	〔紙屋町出火消人足御賄被下願〕 宮島守人 九月一五日	一通
34	〔竹内六郎兵衛御扶持再伺〕 御收納郡方 一〇月一六日	一通
35	〔同前〕 枳方掛 一〇月	一通
36	〔御吟味方物書見習居延御手充〕 御收納郡方 一〇月一七日	一通
37	〔道橋方御仲間元吉類焼御手充〕 同前 一〇月二十九日	一通
38	〔小山東弥太等滞府〕 同前 一〇月	一通
39	〔町火消焚出賄〕 同前 一〇月	一通
40	松沢文右衛門書狀〔同前〕 宮本慎助宛 一〇月七日	一通
41	宮島守人書狀写〔同前〕 宮本慎助宛 一〇月六日	一通
42	焚出入用仕出 一〇月	一通
43	〔西寺尾村長藏後家枳被下方〕 一〇月	一通
44	〔同前〕 枳方掛 一〇月	一通
45	〔宮坂滝五郎居延御手充〕 同前 一〇月	一通
46	〔折返詰番御手充〕 同前 一一月	一通
47	〔折返出府御手充〕 御收納郡方 一一月	一通
48	見合書案〔同前〕 一一月	一通
49	〔恩田頼母江戸割返高取調〕 枳方掛	一通
50	〔料理人・四役之者御手充等〕 御勝手元 一二月	一通
51	〔表坊主大沢弥左衛門御賞〕 御勘定吟味 一二月二二日	一通
52	〔御徒目付等羽織代再伺〕 御收納郡方	一通
53	五明新左衛門用狀〔五反田組出火之節出人足賄料受取証文書式〕 宮本慎助宛	一通
54	〔竹内六郎兵衛御暇後御扶持〕	一通
55		

56	〔小山久晴俸詰金再伺〕	一通
57	〔御医師御借人〕 御收納郡方	一通
58・59	〔同居御料理人御手充〕	二通
60	御料理人・御膳立・四役之者人数調	
	粃方懸御尋物書類 嘉永四年〔き・ち・し・へい〕	袋入
	山岸助藏詰中御手充金渡方評議書類	き・七〇
1	御收納郡方御尋物答書 正月	一通
2	山中鹿渡用状 御郡方宛 正月一日	一通
3	山中鹿渡宛返書案 正月一日	一通
	奥番組市郎治御扶持渡方減問合書類	き・九一
1	書状〔竹内カ〕 茂 礖田音門宛 二月一八日	一通
2	礖田音門返書案 二月二日	一通
	竹村金吾立婦出府御手充筋評議書類	き・九二
1	礖田音門伺書 二月	一通
2	詰並被下物取調書	一通
	御手廻小頭宮原専八少給御手充拝借評議書類	き・九三
1	御尋物答書 二月晦日	一通
2	御收納郡方御尋物答書 六月二九日	一通
3	御收納郡方御尋物答書〔下案〕 六月	一通
4	見合書〔宮原専八頂戴物差引取調〕	一通
5	拝借分差引勘定積書案	一通

	御收納郡方御尋物答書 〔駒沢市兵衛長滞府御手充〕 三月、五月二七日	二通
	御收納郡方御尋物答書 〔小宮山又七江戸送御扶持御足給〕 六月	き・九四
	御尋物答書	き・九六
1・3	御收納郡方御尋物答書 〔片山半之輔内歎願〕 六月	三通
4	粃方掛御尋物答書 〔小頭峯村七右衛門外増御切米御国割引〕 六月	一通
5	見合書案〔切米差引〕	一通
	成本丹治詰月過御手充評議書類	き・九七
1	御收納郡方御尋物答書 七月二七日	一通
2	粃方掛御尋物答書 七月	一通
	宮本彦之進夫給夫扶持評議御尋物答書 御收納郡方 七月	二通
	御收納郡方御尋物答書 〔堀井泉蔵立婦出府評議〕 見合書共 一二月	き・九八
	御收納郡方御尋物答書	き・一〇〇
1	〔丸山改助夫扶持等被下方〕 一月	一通
2	〔中村辰右衛門元給御復〕 一月	一通
3	〔御役場下座見御手充〕 一月八日	一通
4	〔大銃試打之節御手木等御贈〕 二月	一通
5	〔坂本齋助折返詰御手充〕 二月一六日	一通
6	〔松本表江之飛脚御手充〕 二月	一通
7	〔御手廻之者御手充并御賞〕 二月	一通

8	〔料理人一人詰御手充〕 三月	一通
9	〔清野新之助御手充〕 三月	一通
10	〔大谷津榮治御手充〕 五月	一通
11	御勘定吟味御尋物答書〔土屋助九郎・内川小六滞府〕 五月	一通
12	〔御手廻之者御切米繰上〕 六月二九日	一通
13	〔大銃御送之節才領之者御手充〕 七月五日	一通
14	〔清野源之助願滞府〕 七月二二日	一通
15	〔兩組之者御切米繰上願之儀再申上〕 七月	一通
16	〔島田全隆出府賄〕 七月二二日	一通
17	〔御徒目付・御徒士去戌居延之節拝借金〕 八月一七日	一通
18	〔友野俊藏喰捨御扶持渡方〕 八月一七日	一通
19	〔小池周兵衛長滞府願〕 一二月	一通
20	〔御徒士長滞府年延歎願〕	一通
率領組小頭御尋申上書	〔天保八年御城米送之節御手充高書上〕 荒井弥平 七月	一冊き〇二
御尋物御答稿	〔安政五年〕〔内容摘記のみの分は御取納方の御尋物答書〕	袋入 き〇三
1	〔御勘定吟味出立日限〕 一月二一日	一通
2	〔大川才兵衛秋中迄考人勤〕 一月二二日	一通
3	〔前沢善之助勤中拝借金〕 一月	一通
4	〔小林喜太夫江府御内借金〕 二月四日	一通
5	小林喜太夫辰巳兩年立歸出府日程書	一通

6	辰巳兩年拝借金勘定書	一通
7	〔奥女中御貸長屋引移之節賄〕 二月三日	一通
8	〔買物役人数減〕 二月一四日	一通
9	〔御取次詰高〕 二月一四日	一通
10	〔足輕等去辰風災御手充拝借金〕 二月一九日	一通
11	〔江戸出荷物才領雪途差支被下物〕 二月一九日	一通
12	〔河原岩右衛門滞府〕 二月二七日	一通
13	〔竹内六郎兵衛滞府〕 二月二七日	一通
14	〔御發駕即刻立飛脚先蝕〕 二月二九日	一通
15	〔宮本已喜之進へ小僧役被仰渡内願〕 三月五日	一通
16	〔篠原玄淳修業御手充〕 三月七日	一通
17	〔野村莊左衛門滞府〕 三月二七日	一通
18	〔宮沢丹下長滞府御手充歎願〕 三月二八日	一通
19	〔中村辰右衛門居延歎願〕 二月九日	一通
20	〔北島半兵衛返上物歎願〕 四月	一通
21	〔町打御内覧之節御休息所等〕 四月二五日	一通
22	〔同前御賄被下方再答書〕 四月	一通
23	〔原田糺并杖突居延御手充〕 五月四日	一通
24	〔御帰城御供御手廻拝借〕 五月一一日	一通
25	〔御發駕即刻立飛脚輕尻馬〕 五月二二日	一通
26	〔長詰御陣屋敷御留守居等被下物〕 五月二九日	一通
27	〔橋本茂左衛門今年御扶持渡方〕 六月四日	一通

- 28 〔斎藤友衛御台所賄〕 六月二日 一通
- 29 〔御駕籠之者看板代金〕 六月二日 一通
- 30 各節季看板仕入并代料覚書 一通
- 31 〔中俣俊平御番士御雇〕 七月二五日 一通
- 32 〔御番士老人出府〕 七月二六日 一通
- 33 〔牧野大右衛門折返詰被下物〕 七月二八日 一通
- 34 〔御駕籠之者看板代再答〕 八月一三日 一通
- 35 〔元才領組源左衛門一件ニ付小諸宿迄罷越候者馬代等〕 八月一六日 一通
- 36 〔大川才兵衛滯府〕 八月二一日 一通
- 37 〔御吟味役詰番出府〕 八月晦日 一通
- 38 〔金児与助立婦出府在府中御手充〕 九月五日 一通
- 39 〔飛脚川支御手充筋〕 九月六日 一通
- 40 〔江府詰辻之者飛脚御手充〕 九月一七日 一通
- 41 〔両角玄修御借人御手充〕 九月一七日 一通
- 42 〔御帰城之節道中飛脚御手充〕 九月一七日 一通
- 43 〔詰辻之者飛脚勤御手充〕 一〇月二日 一通
- 44 〔江府詰辻之者飛脚御手充追答〕 一〇月二一日 一通
- 45 〔泰雲寺へ罷越候者弁当錢〕 一〇月一四日 一通
- 46 〔飛脚早着御賞〕 一〇月一七日 一通
- 47 〔亡橋本茂左衛門今年被下御扶持〕 一〇月一七日 一通
- 48 〔割番詰小頭御手充〕 一一月一二日 一通

- 49 御勝手元々御尋物答書〔兩御役方調役御手充〕 一一月二日 一通
- 50 〔富岡啓藏夫給代〕 一一月二日 一通
- 51 〔奥坊主役入御扶持〕 一一月二九日 一通
- 52 御勘定吟味御尋物答書〔御入部御供御番士江府内借金〕 一二月三日 一通
- 53 〔小池周兵衛長滯府年延歎願〕 一二月九日 一通
- 54 〔日光表へ之飛脚御手充〕 一二月一三日 一通
- 55 〔辰年風災之節足輕等拜借金御払切〕 一二月一五日 一通
- 56 〔所々御林伐出ニ付道橋方手附出役賄〕 一二月一五日 一通
- 57 添伺書〔奥坊主役入御扶持渡方〕 一二月二九日 一通
- 58 榎方掛御尋物答書〔窪田慎六詰中御手充契〕 一二月 一通
- 59 〔同前〕 一二月 一通
- 60 窪田富之助書狀〔窪田慎六詰高之依頼〕 市治宛 二月三日 一通
- 61 窪田慎六内願書 宮本彦之進宛 一一月 一通
- 62 〔竹花其右衛門他申立之儀〕 一通
- 63 〔長滯府御取次被下物渡方〕 一二月 一通
- 64 〔御取次長滯府御手充〕 一二月 一通
- 65 〔給人格御徒目付夫給代詰中御手充〕 一二月 一通
- 66 〔窪田慎六詰高〕 一二月一〇日 一通
- 67 〔寺沢収蔵江府御徒士勤御手充〕 一二月 一通

68 御達書案〔長詰府詰高〕	一通	
69 〔御発駕即刻立飛脚輕尻馬〕 二月	一通	
70 〔普請方支配之向立帰出府之節拝借金〕 未二月二五日	一通	
御尋物御答稿 粗方掛 安政七年	袋入	
御尋物答書稿并伺書 御收納郡方	き〇九	
1 〔茂菅御竹藪へ出役賄糶〕 一月	一通	
2 〔加藤金五郎御物頭調役助勤中夫給〕 一月一六日	一通	
3 〔諸所御林伐出之節出役賄糶〕 一月一九日	一通	
4 〔御台所元ノ在府願〕 一月二二日	一通	
5 〔他所寺院并御出入御扶持等減方〕 一月二五日	一通	
6 〔上村治右衛門宿割御手充〕 二月一日	一通	
7 〔表御用人物書五ヶ年詰切替〕 二月四日	一通	
8 〔長国寺在府中拝借米〕 三月一六日	一通	
9 〔坂西為之助他出府〕 閏三月二一日	一通	
10 〔順操院殿善光寺参詣附添之者夕弁当〕 四月六日	一通	
11 〔雄若様御伽之向へ賄等〕 四月二五日	一通	
12 〔武具奉行等丹波島へ出役村賄〕 六月一日	一通	
13 〔定水汲等御借人賄〕 六月二七日	一通	
14 〔三輪徳左衛門倅へ長詰末期内願〕 六月二八日	一通	
15 〔定水汲等賄〕 六月二八日	一通	
16 伺書〔他所御出入御扶持省略中御断〕 六月晦日	一通	
17 〔慧雲院様御雇女中賄〕 七月二三日	一通	
18 〔滝川八兵衛様御借人〕 八月一五日	一通	
19 〔順操院殿等出府御用意物并御借人〕 八月二五日	一通	
20 〔江府足輕砲術世話助〕 九月一九日	一通	
21 〔同前再答書〕 一〇月三日	一通	
22 〔長国寺在府中拝借米御払切〕 一〇月三日	一通	
23 〔一場茂右衛門等交代〕 一〇月二四日	一通	
24 〔御番士御人減御賞〕 一一月九日	一通	
25 〔松原者本居継〕 一二月一日	一通	
26 伺書〔山田見龍出府取止〕 一二月九日	一通	
27 伺書〔望月主水一生被下高返上分渡方〕 一一月	一通	
28 伺書并附札〔大検見御用懸御手充〕 八月	一通	
29 見合書〔御合力等減方天保四年振合〕	一通	
30 見合書〔安政四年御殿普請御賞〕	一通	
31 取調申上書〔他所寺院等御省略中減方〕 五月八日	一通	
32 郡奉行回章〔前号回付〕 高田幾太 山寺源太 夫・磯田音門他宛 五月七日	一通	
33 見合書〔御手木立帰出府御手充〕	一通	
34 見合書〔御手廻被下物〕	一通	

35 見合書〔御殿普請用懸立掃出府被下物〕
御收納郡方御尋物答書稿

1 〔御口之者御手充〕 一月一三日

2 〔大里忠之進老入詰御手充〕 二月五日

3 〔玉井進一郎詰順替頂戴物〕 二月一六日

4 〔料理人御膳立御人減御手充〕 二月一〇日

5 〔御右筆御人減御手充再答〕 二月一六日

6 〔同前〕 九月

7 〔山崎友吉御人減御手充再答〕 二月一六日

8 〔同前〕 一〇月二四日

9 〔大川才兵衛巳年老入詰中御手充〕 二月二四日

10 〔御口之者等立掃出府被下物〕 三月二八日

11 〔御召馬江府へ差遣御入料等〕 三月二九日

12 〔元ノ詰小頭居延御手充〕 閏三月六日

13 〔御城番組彦三郎焼失御手充〕 四月一七日

14 〔吉原慎吾・水野芳之助羽織合羽代〕 四月二五日

15 〔松本賢吾御人減御手充〕 二月

16 〔江府割番小頭并足輕御人減御手充〕 七月九日

17 〔竹村熊三郎留守御扶持等御手充〕 八月九日

18 〔御目付方調役御人減御手充〕 八月一〇日

19 〔御目付役御人減〕 八月一〇日

一通
き八〇

20 〔関口勝馬・鎮目実之助風災御手充拝借金〕 八月二三日

21 〔中俣俊平藤田為太郎御番士屋中御手充〕 九月二日

22 〔伊藤良三半途帰返上物〕 一〇月一五日

23 〔順操院殿等附添勤御手充〕 一〇月二〇日

24 〔南部坂御奥支配御人減御手充〕 一〇月二一日

25 〔御右筆御人減御手充〕 一〇月二三日

26 〔両御広式上番御人減御手充〕 一一月六日

27 窪田富之助書狀〔竹村熊三郎留守御扶持〕 宮本慎助宛 八月九日

28 先例書拔〔前号添〕

29 〔御徒目付等御人減御手充〕 八月

御收納郡方御尋物答書稿其他

1 〔北沢善三郎御切米歎願再答〕 三月九日

2 〔同前修正〕 三月一〇日

3 〔同前享〕 二月

4 〔同前〕 一二月

5 御勝手元ノ御尋物答書〔長谷川徳右衛門御藏前高品渡願出〕 六月一五日

6 〔長谷川平次郎御答中親類歎願〕 七月一三日

7 〔鎌原龍太郎差扣中親類歎願〕 一二月

8 〔御坊主竹内宗伝御扶持歎願〕 四月二四日

9 〔順操院殿附添御徒士被下物〕 九月四日

一通
き八二

10	〔長国寺御長屋拝借〕 二月五日	一通
11	〔長国寺へ御貸長屋〕 三月一四日	一通
12	家老差図書 河原舎人 高田幾太宛 三月一四日	一通
13	被仰渡御書付写〔次号ノ添〕	一通
14	申送状〔一代御目見席小頭組除人別申送〕 小左衛門 御収納郡方宛 二月二五日	一通
15	家老差図書〔同前切米渡方〕 恩田頼母 竹村金吾宛 二月二六日	一通
16	御収納郡方伺書〔御目見席小頭被下廻渡方〕 二月	一通
御収納郡方御尋物答書稿并伺書		
1	御収納郡方添伺書并附札〔次号添〕 一二月	一通
2	廻方掛伺書〔湯本源助・牧野大右衛門折返出府御手充〕 二月	一通
3	〔馬場弥三郎・吉村左織江府時拝借金上納方〕 一月二二日	一通
4	〔御徒目付御徒士江府時拝金上納方〕 一月二二日	一通
5	〔御供立婦足輕不足人内借金〕 一二月一〇日	一通
6	〔坂本斎助立婦出府之節拝借金御払切〕 二月一六日	一通
7	〔御手木立婦出府之節拝借金〕 二月一六日	一通
8	〔御番士四人立婦出府御手充〕 四月二七日	一通
9	〔奥坊主兩人立婦御供御借人〕 五月二九日	一通
10	〔奥坊主兩人立婦出府被下物〕 五月二九日	一通

き 八三

11	〔烟鬼毛立婦御供被下物〕 六月二〇日	一通
12	〔御手廻立婦出府御手充拝借〕 六月九日	一通
13	御奥支配添役返書状〔奥女中立婦出府被下物仕来〕 桜井与平 宮本慎助宛 八月一〇日	一通
14	〔順操院殿初立婦出府被下物〕 八月一日	一通
15	〔御徒士立婦拝借物等〕 八月二八日	一通
16	道中賄代等心得書	一通
17	〔橋詰嘉六御扶持江戸送再願之儀〕 一月二七日	一通
18	〔同前〕 一二月	一通
19	廻方掛伺書稿〔坂本昇於江府御答ニ付江戸割返〕 三月	一通
20	御収納郡方添伺書〔前号ニ添〕 三月	一通
21	廻方掛伺書稿〔樋口旗之助御答ニ而出府取止返上高〕 三月	一通
22	御収納郡方添伺書〔前号ニ添〕 三月	一通
23	伺書〔御入部御供番士江府内借金〕 二月二日	一通
24	〔依田又兵衛江府時拝借金振替〕	一通
25	〔高橋云治・堀田伴右衛門江府拝借金取延願再答〕 一〇月三日	一通
26	〔同前初答〕 九月二日	一通
27	〔望月頭藤出府無之御手充高〕 五月二二日	一通
28	望月頭威勤方書拔	一通
29	〔前々号再答〕	一通
30	見合書〔前号見合〕	一通

御收納郡方御尋物答書稿

き八三

- 1 〔飛脚川支逗留賄〕 六月晦日 一通
- 2 〔松本表へ飛脚旅籠料増銭〕 一月 一通
- 3 〔長国寺江府逗留中賄〕 二月六日 一通
- 4 御賄役御尋物答書〔同前〕 二月 一通
- 5 〔押井御側御納戸物書御在城年給金上納〕 三月二八日 一通
- 6 〔定押看板方給金上納〕 六月二八日 一通
- 7 〔大谷津又蔵等詰金返上〕 二月一日 一通
- 8 〔料理人等半途帰詰金返上〕 二月二四日 一通
- 9 詰金返上心得書〔前号見合〕 一通
- 10 〔料理人等詰金返上〕 四月二七日 一通
- 11 〔同前再答〕 九月 一通
- 12 〔御奥支配御人増〕 八月四日 一通
- 13 〔御奥支配御借人〕 八月二七日 一通
- 14 〔御奥支配下役等再答〕 九月一日 一通
- 15 〔馬場先木戸番人再答〕 一月一日 一通
- 16 〔馬場先木戸番立人〕 二月六日 一通
- 17 〔順操院殿附添御徒士立帰被下物〕 八月二一日 一通
- 18 〔順操院殿立帰在府中御賄〕 八月二一日 一通
- 19 在府中御徒士惣人数内調 一通
- 20 〔勤番御番士三筆頭へ被下御手充金〕 一〇月二九日 一通

- 21 見合書〔天保十四年御役中御人減御手充〕 一通
- 22 見合書〔弘化四年同前〕 一通
- 23 御徒士詰番人数調 一通

〔収方掛御尋物答書稿〕〔内容摘記のみの分は御收納郡方の御尋物答書〕 万延二年

- 〔順操院殿附添御徒士御借人〕 一月二五日、二月九日、二月二二日 三通き二三
- 〔御番士時御雇中御手充〕 二月一八日 二通き二三
- 御勝手元々・御收納郡方御尋物答書〔順操院殿附添鍵番助御手充〕 二月二八日、三月四日 二通き二四
- 〔御抱薦之者御減ニ付酒代被下〕 三月二日 一通き二五
- 〔中村義一郎三男御徒士雇中御手充〕 四月八日 一通き二六
- 御勝手元々・中上書〔江戸詰足輕家内持差戻之儀〕 四月一〇日 一通き二七
- 〔御右筆詰高収御直、同再答〕 四月一九日、五月二二日 二通き二八
- 〔料理人等詰中御手充〕 四月二三日 一通き二九
- 〔伊藤良三立帰御供拝借金并御側物書御手充〕 五月 一通き三〇
- 〔奥坊主役拝借〕 五月二二日 一通き三一
- 御收納郡方答書貼紙〔竹内六郎兵衛御手充〕 四月 一枚き二三
- 齊藤友衛同書 見合書共〔長谷川三郎兵衛立帰出府御手充〕 五月一七日 二通き二三
- 〔奥坊主役御人減御手充〕 五月一七日 一通き二四
- 〔道具番茂之助五ヶ年詰〕 五月二二日 一通き二五

〔恵明寺鑑司中之合力被下〕 六月一七日	一通き二三
〔奥女中はま御暇後出立迄御賄被下方〕 六月一八日	一通き二七
〔江府下目付御人減御手充〕 七月二日	一通き二六
〔長詰三筆頭御番士御手充〕 七月四日	一通き二九
〔片岡十郎兵衛居延御手充〕 七月	一通き二三〇
〔御駕籠茂三郎居宅類焼御手充〕 八月一四日	一通き二三
〔福田小平太居延御手充、同再答〕 八月一六日、九月二日	二通き二三
草間元司伺書并附札〔大検見御用懸御手充〕 八月	一通き二三
〔御警衛人数出之節宿々穿鑿才領組御手充金〕 九月二七日	一通き二五
〔春山吉治江府居延御手充〕 一〇月一六日	一通き二五
〔御物頭調役助等夫給夫扶持被下〕 一〇月一六日	一通き二五
〔御目見医師井上玄岱御台場詰御雇御手充〕 一〇月一六日	一通き二七
〔御警衛人数才領組宿札持参之者御手充〕 一〇月一九日	一通き二六
御收納郡方伺書〔高野広馬御役料渡方、再伺共〕 一一月六日、一二月二八日	二通き二九
〔坂本常之丞居延御手充〕 一一月六日	一通き二四〇
〔差送御馬添口相勤候松原者御手充〕 一一月二八日	一通き二四
御勝手元ノ御尋物答書〔津田転逗留中御賄〕 一一月	一通き二三
〔大里忠之進居延御手充〕 一二月二八日	一通き二三
〔西村孝三郎等御手充拝借〕 一二月晦日	一通き二四
御收納郡方伺書并附札〔御蔵奉行御手充〕 一二月	一通き二四
見合書〔長滞府長詰御奥支配等被下物〕	一通き二四
家老差図書 小山田孝岐 宮下三馬宛 二月九日	一通き二四
御道固人数取調書類〔鼠宿・矢代宿各代官取調人数不一致ニ付取調〕	き二四
1 草間一路用状 瀬津繁人宛 三月二日	一通
2 両宿人数調書〔前号ニ添〕	一通
3 草間一路用状 瀬津繁人宛 三月二五日	一通
御答書類 枳方掛 文久二年ノ三年〔内容摘記のみの分は御收納郡方の御尋物答書〕	き八四
1 〔御番方江府迄立帰御供并御番医同断御手充、下案共〕 一月一四日	二通
2 〔島田全隆・中村周徹立帰出府御借人及拝借金、見合書共〕 二月一日、二月九日	五通
3 草間元司伺書并附札〔齊藤友衛詰並御手充〕 二月四日	四通
4 〔御帰城御供足輕前借金〕 二月一五日	一通
5 御收納郡方伺書并附札〔和宮通行筋出役御手充、再伺共〕	二通
6 〔同前御預所支配向〕 二月一日、二五日	二通
7 御收納郡方・御勝手元ノ御尋物答書〔加藤文八郎并御口之者和宮通行警衛御手充〕 五月	二通

- 8 御收納郡方伺書〔赤沢助之進立婦出府御手充〕 三月 一通
- 9 〔座間茂庵寺社御朱印持參婦府之節御贈〕 三月二〇日 一通
- 10 〔御駕籠之者立婦出府拝借金〕 一〇月 一通
- 11 御勝手元ノ尋物答書〔横山玄庵立婦出府御借人〕 一〇月一七日 一通
- 12 御勝手元ノ御尋物答書〔御奥支配立婦出府御手充〕 一〇月一三日 一通
- 13 御勝手元ノ御尋物答書〔御駕籠小頭等立婦被下物、御刀番伺書写共〕 二通
- 14 御勝手元ノ・拝借掛御尋物答書〔御徒目付・御徒士立婦出府御手充〕 一〇月一四日 一通
- 15 〔御供定押立婦出府〕 一〇月一八日 一通
- 16 〔割番雇立婦足輕被下物〕 八月一六日 一通
- 17 〔御番士宿割御手充〕 一〇月一三日 一通
- 18 御勝手元ノ御尋物答書〔御迎立婦割番雇足輕御手充〕 一〇月一七日 一通
- 19 〔立婦御供御番士御手充〕 一月 一通
- 20 齊藤友衛伺書并附札〔長谷川三郎兵衛等出府御手充〕 一二月 一通
- 21 御勝手元ノ御尋物答書〔飯島楠藏拝借金流〕 一二月一日 一通
- 22 〔下目付御扶持〕 一二月 一通
- 23 〔飛脚川支逗留仕切賄代、再答共〕 二月二〇日、四月八日、七月一二日 三通

- 24 御勝手元ノ御尋物答書〔普請方細工道具焼失御手充〕 四月八日 三通
- 25 御收納郡方・御勝手元ノ御尋物答書〔太田陣屋詰諸向申立之儀〕 三月一日、二月一日 一五通
- 26 拝借掛・御收納郡方・御勝手元ノ御尋物答書〔料理人等立婦出府拝借等〕 一〇月 四通
- 27 御勝手元ノ御尋物答書〔川崎源吾御扶持米拝借〕 一二月二二日 一通
- 28 御勝手元ノ御尋物答書〔物頭拝借金上納方〕 一通
- 29 榎方掛伺書 御收納郡方添伺書・家老差図書共〔下目付拝借金〕 一二月 三通
- 30 〔御台所仲間等拝借金〕 二月六日 一通
- 31 御勝手元ノ御尋物答書〔御台所仲間御借人賄〕 三月一日 一通
- 32 〔大草玄樹立婦出府取止ニ付御手充拝借上納方〕 八月 一通
- 33 〔大日方通滞府内願、別紙積書共〕 一月一五日 二通
- 34 〔江府御番士御人調并御手充〕 一月二九日 一通
- 35 〔西村孝三郎等四人夫給被下物、見合書共〕 一月二九日 二通
- 36 御勝手元ノ・御收納郡方御尋物答書〔御廐小頭江府御減御手充、草間元司用状共〕 二月二二日、三月七日 三通
- 37 〔江戸往来切米代金渡〕 三月一日 一通
- 38 御收納郡方・御勝手元ノ御尋物答書〔諸向屋御扶持被下方〕 三月二一日、一〇月八日 四通
- 39 御勝手元ノ御尋物答書〔小山帆藏御扶持方〕 三月一九日 一通

40 御勝手元ノ御尋物答書〔鈴木栄慎逗留内願〕三月一九日	一通
41 〔御口之者詰番等〕五月一日	一通
42 御勝手元ノ御尋物答書〔山本左太夫居延御手充〕五月二日	一通
43 〔牧野大右衛門出府御借人〕五月一日	一通
44 〔中村小一郎御預所懸御手充〕六月一日	一通
45 長谷川三郎兵衛伺書并附札〔大検見御用掛御手充〕八月	一通
46 〔小納戸北沢林左衛門出府被下物〕八月	一通
47 〔神奈川辺警衛足輕給金上納〕閏八月	一通
48 御勝手元ノ御尋物答書〔御陣屋敷江罷越候鉄砲師等被下方〕一〇月三日	一通
49 〔西洋流砲術行司世話役江府逗留〕一〇月八日	一通
50 〔御口之者線上交代〕一〇月一日	一通
51 出府順替之御扶持被下方調書	一通
52 見合書〔江戸割返高安政六年小山田老岐分〕	一通
53 見合書〔家中居宅焼失御手充〕	一通
54 被下親代金渡証文案〔長谷川平次郎分〕五月	一通
55 御勝手元ノ御尋物答書〔詰辻足輕等江府立婦御手充〕亥一月一八日	三通
56 御勝手元ノ御尋物答書〔佐竹周蔵立婦出府拝借金〕一月一八日	二通
57 被下辻利割積書	一通

御答書類入 榎方掛 文久三年〔内容摘記のみの分は御勝手元ノ御尋物答書〕	
1 〔太田藤右衛門江戸往来切米品渡〕一月一日	一通
2 〔仁科章碩修業御手充拝借〕二月二日	一通
3 〔江府御徒士御雇御手充〕一月一日	一通
4 〔亡小山義平御徒士御雇中御手充〕一月一日	一通
5 〔江府御所抱仲間半途御暇被下物〕一月二八日	一通
6 〔渋谷玄龜御陣屋詰中夫給被下方〕一月二九日	一通
7 御勝手元ノ申上書〔玉井進一江府内借金〕一月二九日	一通
8 〔飛脚才領組道中逗留御贈〕一月	一通
9 〔仁科章碩医術修業拝借金等〕二月	一通
10 申上書案〔交代出府詰高、不提出〕	一通
11 〔久保藤四郎拝借替〕二月三日	一通
12 〔御吟味方物書交代〕二月五日	一通
13 〔御台所仲間拝借金〕二月六日	一通
14 〔大工等細工道具焼失拝借金上納〕二月四日	一通
15 〔江府荷物才領御手充〕二月一日	一通
16 〔御馬医交代順にて西村久之助俸詰番願出〕二月一三日	一通
17 〔太田藤右衛門江戸立婦拝借金御払切〕二月三日	一通
18 〔江府書役詰御人減〕二月一三日	一通
19 〔御徒目付交代〕二月一三日	一通

20	〔御番士三筆頭御手充〕 二月一三日	一通
21	〔水野芳之助太田表数役兼勤御手充〕 二月一五日	一通
22	〔元御側女中久米実父御扶持〕 二月一五日	一通
23	〔館孝右衛門御人減御手充〕 二月一五日	一通
24	〔順操院殿御扶持渡方〕 二月一九日	一通
25	〔館孝右衛門御人減御手充〕 二月一五日	一通
26	〔畑兎毛太田詰〕 二月一五日	一通
27	〔御番士詰番等御人配〕 二月一九日	一通
28	〔御番士太田詰等御人配追答〕 二月二〇日	一通
29	〔御賄役老人詰〕 二月二四日	一通
30	〔江府の飛脚御手充〕 二月二五日	一通
31	〔高橋伝治女中附添拝借金〕 二月二五日	一通
32	〔貞松院様道中人足〕 二月二五日	一通
33	〔御前様御供御徒士御手充〕 二月二五日	一通
34	〔飛脚吉十郎早着増御手充〕 二月二八日	一通
35	〔館孝右衛門代勤出府〕 二月二八日	一通
36	〔御人減にて交代不用之儀〕 二月二九日	一通
37	〔館孝右衛門出府日延〕 二月晦日	一通
38	普請方添伺書〔鍵番助三人立帰出府御手充筋〕 三月八日	一通
39	割番伺書〔同前〕 三月	一通
40	〔鍵番助当春・酉年立帰御手充〕 七月	一通
41	〔野村弥左衛門下役拝借〕 三月一七日	一通
42	〔料理人等急御供出府拝借金〕 三月一七日	一通
43	〔御厩小頭詰〕 三月一〇日	一通
44	〔佐久間修理下役病氣ニ付代り拝借人〕 三月三日	一通
45	〔下目付急出府御手充〕 三月一三日	一通
46	〔御厩小頭御口之者等急出府御手充〕 三月一三日	一通
47	〔鉄砲鍛冶山口近藏出府拝借金〕 三月一七日	一通
48	〔野村弥左衛門立帰出府〕 三月一七日	一通
49	〔長谷川藤左衛門拝借金〕 三月一七日	一通
50	〔奥坊主等拝借金〕 三月一七日	一通
51	〔定押之者拝借金〕 三月一七日	一通
52	〔両組之者臨時出府御手充〕 三月一八日	一通
53	〔御膳立兩人拝借金〕 三月二〇日	一通
54	〔両組之者御手充〕 三月二〇日	一通
55	〔御台所元ノ兩人詰番之節切米〕 三月	一通
56	〔大里忠之進拝借金〕 三月	一通
57	〔両組之者臨時出府御手充〕 三月	一通
58	〔同前下案〕	一通
59	〔御徒目付等立帰見合後御手充〕 五月三日	一通
60	〔徳田治郎左衛門御手充〕 五月一〇日	一通
61	〔三村大之助御扶持之内拝借方へ差出分品渡之上 代金上納歟願筋〕 五月	一通

62	〔貞松院様御供兩組之者仕切賄〕 六月三日	一通
63	〔御奥御台所帳附旅役除〕 六月二二日	一通
64	〔上中水之手番所増人被下物〕 六月二二日	一通
65	〔定府長詰之御番士切替〕 六月二二日	一通
66	〔御陣屋役人切替〕 六月二二日	一通
67	〔定府長詰之御番士切替〕 六月二二日	一通
68	〔太田陣屋詰御番士切替〕 六月二二日	一通
69	御勝手元々伺書〔御徒士太田詰趣意〕 六月二二日	一通
70	〔南部坂御道具取片付御用〕 六月二二日	一通
71	〔貞松院様御供立婦被下物〕 六月二三日	一通
72	〔陣屋詰役人交代〕 六月二四日	一通
73	〔根井小右衛門詰番〕 六月二五日	一通
74	〔御金奉行向後御吟味役詰差出方〕 六月二五日	一通
75	申上書〔深川御留守居役省略、定府長詰詰高、其他〕 六月二九日	一通
76	〔鈴木内藏允長詰御免願〕 六月	一通
77	〔鍵番助立婦御手充〕 七月三日	一通
78	〔御奥帳附旅役除〕 七月四日	一通
79	〔寺内多宮等和宮下向時拝借出張内用濟御賞筋〕 七月五日	一通
80	〔春原玄三太田詰藥種料拝借〕 七月六日	一通
81	〔太田出陣之向江府諸御扶持〕 七月六日	一通
82	〔御前様御供立婦御台所元々等被下物〕 七月六日	一通
83	〔山内唯七於江府大銃鑄造取調中夫給被下方〕 七月六日	一通
84	〔春原玄三藥種料拝借再答〕 七月九日	一通
85	〔御広間帳附助御手充等〕 七月九日	一通
86	申上書〔佐藤小左衛門役替内借金〕 七月一日	一通
87	御勝手元々伺書〔貞松院様御供向御賄被下方〕 七月一九日	一通
88	〔預所懸肩衣料〕 七月一九日	一通
89	〔清水一郎京都詰御借人被下物〕 七月二六日	一通
90	〔水野芳之助兼役御手充〕 七月二七日	一通
91	〔兩角玄脩藥種料拝借金上納〕 七月二七日	一通
92	〔去戌年大野健左衛門六郷川々支入用増御手充〕 七月晦日	一通
93	〔貞松院御守役物書并鍵番新規渡し入〕 七月	一通
94	御收納郡方御尋物答書〔京都詰足輕被下物〕 七月	一通
95	〔御広間帳附助其外御手充〕 七月	一通
子年御答 四袋之内 正月より五月迄 粃方掛 元治元年〔内容摘記のみの分は御勝手元々の御尋物答書〕 袋入		
1	〔御台所仲間等詰番出府之節御手充〕 四月七日	一通
2	〔太田詰交代御番士人馬増賃錢〕 一月一七日	一通
3	〔漬物師龜作立婦之処詰並〕 四月二四日	一通
4	〔御手廻金切米之者出府之節粃直シ〕 四月二五日	一通

- 5〔御前様御供立婦足輕等被下物〕 四月二五日 一通
- 6〔御徒士助御手充〕 四月二七日 一通
- 7〔長命平三郎太田詰道中被下物〕 二月一四日 一通
- 8〔書役兩人交代〕 二月一五日 一通
- 9〔料理人俸兩人修業御手充〕 二月一六日 一通
- 10〔漬物師彦作病氣代詰〕 二月二二日 一通
- 11〔御目付調役江戸詰給再願〕 二月二八日 一通
- 12〔永沢繁弥御供上京切米渡方〕 三月九日 一通
- 13〔佐久間修理附添御台所元上京被下物〕 三月一〇日 一通
- 14〔御奥使廻御人増等〕 三月一二日 一通
- 15〔料理人并御膳立等御供出府之節内借金〕 三月一三日 一通
- 16〔御供殘御徒目付等御手充〕 三月一七日 一通
- 17〔去春中御供御徒目付等詰中御手充〕 三月一七日 一通
- 18〔綿貫泰藏交代〕 三月一七日 一通
- 19〔鍵番之者女中附添立婦出府被下物〕 三月一七日 一通
- 20〔御目付兩人詰〕 三月一七日 一通
- 21〔御收納郡方御尋物答書〔御吟味方物書昨春中居延御手充〕 四月三日 一通
- 22〔去春中急出府太田表出張月懸返上再願〕 四月三日 一通
- 23〔窪田富之助立婦御供詰並直シ〕 四月六日 一通
- 24〔岡嶋忠記・三沢刑部丞上京御内借金〕 四月二一日 一通

- 25〔御目付方調役江戸詰被下物〕 五月一九日 一通
- 26〔上京御供之内詰糶被下方〕 五月二〇日 一通
- 27〔御前様御供立婦出府小頭等仕切賄代〕 五月二三日 一通
- 28〔上京御宿割御番士駕籠被下〕 五月二四日 一通
- 29〔上京御供之向詰糶渡方〕 五月二五日 一通
- 30〔御徒目付御徒士詰中御手充〕 五月二五日 一通
- 31〔貞松院様御供去春中立婦足輕仕切賄代〕 五月三日 一通
- 32〔御前様御供小頭等仕切賄代〕 五月一〇日 一通
- 33〔上京御供御徒目付小荷駄方調役被仰渡〕 五月二日 一通
- 34〔横山正逸長崎表医術修業御手充〕 五月一三日 一通
- 35〔貞松院様御供料理人等拝借金御流再願〕 五月二二日 一通
- 36〔上京御供御茶道等馬代御手充〕 五月二二日 一通
- 37〔当春中御供小頭立婦被下物〕 五月二二日 一通
- 38〔鈴木惣五郎江戸出立程合〕 五月二二日 一通
- 39〔上京御供御側御納戸物書被下物〕 五月二四日 一通
- 40〔上京御供御目付被下物〕 五月二四日 一通
- 41〔西楽寺御供養料等内願之儀〕 五月二九日 一通
- 42〔御側御納戸物書初太郎輕尻馬被下〕 五月二八日 一通
- 43〔同前人御供上京被下物〕 五月八日 一通
- 44見合書〔御前様御迎立婦足輕被下物〕 一通

45	〔中村周鶴医師修業御手充〕	九月一二日	一通	子年御答 四袋之内 八月、二月迄 榎方掛 元
46	〔料理人手先之者立婦御手充金〕	九月二二日	一通	治元年〔内容摘記のみの分は御勝手元への御尋物答書〕 袋入
47	〔医師修業御手充〕	九月二二日	一通	1 御收納郡方御尋物答書〔去亥本詰足輕半途出立給金上納方御流し願〕 八月四日
48	〔同前〕	九月二二日	一通	2 御收納郡方御尋物答書〔同前〕 八月四日
49	〔京都表飛脚着刻極置之儀〕	九月一日	一通	3 〔西村孝三郎交代伺〕 八月四日
50	〔中村周鶴医師修業御手充〕	九月一二日	一通	4 〔弥五兵衛組与右衛門於太田表御答中扶持方〕 八月五日
51	〔御留守詰番士等御手充〕	九月一日	一通	5 〔綿貫泰藏交代伺〕 八月二日
52	〔御留守詰番筆頭御手充〕	九月一日	一通	6 〔武術修業人御切替、在府嫡子勤等〕 九月二日
53	用状〔御供其他兩組御賞筋〕 四人 宮下謙太夫宛 一二月三〇日	一通	一通	7 〔同前〕 九月二日
54	用状〔飛脚才領組御手充筋〕 駒村佐十郎他 春山喜平次宛 一二月三日	一通	一通	8 〔藤岡伊織召連之手人御贈〕 九月二日
55	用状并勘返状〔初太郎被下物〕 宮本慎助 宮本彦之進宛	一通	一通	9 〔去月出水之節御用船勤之西寺尾村水主御贈〕 九月一日
56	見合書〔宿々昼泊賄代定錢〕	一通	一通	10 〔京都表飛脚着刻極置之儀〕 九月二日
57	見合心得書〔小山弥市・問庭順之助交代書類書拔〕	一通	一通	11 〔藤岡伊織召連之手人御贈〕 九月二日
58	見合書〔借用金利息出〕	一通	一通	12 〔料理人手先之者立婦御手充〕 九月二日
59	御手廻金切米之者被下高調	一通	一通	13 〔綿貫泰藏交代伺〕 八月二日
60	見合書〔江府より立婦足輕被下物〕	一通	一通	14 〔清水一郎・小宮山三吉鉄炮方勤中御手充〕 八月四日
61	答書貼紙〔清水一郎御借人御手充〕	三月三日	一通	15 〔綿貫泰藏并字數元之丞交代伺〕 一〇月九日
62	答書貼紙〔中侯一平御借人御手充〕	三月三日	一通	16 〔御番士交代〕 一〇月二七日
63	答書貼紙〔中奥仲間共雜用〕	五月一日	一通	17 〔南沢策意上京被下物〕 一〇月九日
				18 〔中侯俊平代詰并沢喜代太郎婦府願〕 一〇月

- 19 御勝手元ノ別段申上書〔修業人代人〕 一〇月 一通
- 20 〔卜木広平妻呼戻願〕 一一月一日 一通
- 21 御収納郡方同書〔上京向々高崎銀馬銀品々手後
レ之分頂戴方〕 一二月七日 一通
- 22 御収納郡方同書〔依田又兵衛・北沢幟之助折返
詰御手充〕 一二月七日 一通
- 23 御収納郡方同書〔座間吉人定府御免〕 一二月 一通
- 24 〔御徒目付御供立婦拝借金〕 一二月一四日 一通
- 25 〔御口之者御供立婦御手充〕 一二月一四日 一通
- 26 〔高橋伝治御宿割御手充〕 一二月一四日 一通
- 27 〔御供向御貸馬口付并物持夫拝借〕 一二月一四日 一通
- 28 〔料理人等御供立婦御手充〕 一二月一四日 一通
- 29 〔春原玄三立婦御供御手充拝借〕 一二月一四日 一通
- 30 〔同前〕 一二月一四日 一通
- 31 〔堀田源之進下役拝借願〕 一二月一四日 一通
- 32 〔定押江府ノ立婦被下物〕 一二月一四日 一通
- 33 〔鍵番御供立婦御手充〕 一二月一四日 一通
- 34 〔柳沢甚三郎立婦御供御手充〕 一二月一四日 一通
- 35 〔玉川善太夫御手充拝借〕 一二月一七日 一通
- 36 〔御膳立之者御供立婦被下物〕 一二月一七日 一通
- 37 〔御台所元ノ仲間立婦御供被下物〕 一二月一七日 一通
- 38 〔綿貫泰藏交代伺〕 八月一四日 一通

- 39 叔方掛御尋物答書〔下目付去春急出府詰並御扶
持〕 九月一日 一通
- 40 〔野村弥左衛門上京被下物〕 九月一七日 一通
- 41 〔小山田老岐滞府並方〕 九月二八日 一通
- 42 〔御口之者増人〕 九月二日 一通
- 43 御収納郡方御尋物答書〔宮下三郎治等三人高瀬
口村人数引取御賄〕 一〇月二〇日 一通
- 44 〔西村孝三郎交代伺〕 一一月一日 一通
- 45 〔宇數元之丞交代願〕 一一月一日 一通
- 46 〔同前〕 一一月一日 一通
- 47 〔御前様出府ニ付足輕等起人〕 一一月一四日 一通
- 48 〔春原玄三御手充拝借金〕 一二月一日 一通
- 49 〔山崎友吉御供立婦御手充拝借金〕 一二月一七日 一通
- 50 御収納郡方御尋物答書〔御広式仲間立婦御供被
下物〕 一二月二〇日 一通
- 51 〔矢野茂・坂本常左衛門去亥居延在府増御手充〕
一二月二四日 一通
- 52 〔臨時出張人御手充〕 一二月二九日 一通
- 53 〔小林常男在府動中御宛行〕 四月一四日 一通
- 54 出納掛申上書〔商社為替手形中借——後年史料
の混入〕 五月晦日 一通
- 55 御収納郡方御尋物答書〔和宮下向道固出役道橋
方御手充〕 一二月 一通
- 56 〔於江府武術修業人増御手充〕 一一月一日 一通

57 宮本慎助伺書〔定府御免人別〕 一月一四日	一通
58 〔於江府修業人増御手充〕 一月二日	一通
59 〔酒井金太郎立婦上京拜借金〕 一月二九日	一通
60 〔同前〕 一月	一通
61 見合書〔立婦御供御手充拜借〕	一通
62 御收納郡方御尋物答書〔高田虎尾拜借夫〕 二月一日	一通
63 〔京都詰足輕病氣代人〕 二月一八日	一通
64 御收納郡方御尋物答書〔玉井進一郎居延御手充〕 二月一九日	一通
65 〔宮島通珉御供詰番拜借金〕 二月一九日	一通
66 〔長谷川藤左衛門御供立婦被下物〕 二月一九日	一通
67 〔同前〕 二月一九日	一通
68 〔小頭御供立婦被下物〕 二月一九日	一通
69 〔御徒目付立婦御供御贈〕 二月一九日	一通
70 〔横田嘉一郎御供立婦被下物〕 二月一九日	一通
71 〔御広式帳物書等起人御供出府御手充〕 二月二四日	一通
72 〔高久專之助詰番〕 二月二七日	一通
73 御勝手元ノ答書貼紙	一四枚

月二日、鈴木惣五郎立婦被下物〔一〇月二九日、倉田三之丞被下物〔一月二日〕、酒井金太郎具足等拜借願〔二月四日、御前様御供向組〔二月八日〕、御奥支配御手充拜借〔二月一七日〕〕	
御差図袋 榎方掛 元治元年二月	袋入
出府上京詰高御手充評議書類	き七六
1 家老差図書 赤沢助之進 齊藤友衛宛 二月三日	一通
2 御收納郡方伺書〔上京之向詰高被下方〕 二月二日	一通
3 北沢善三郎親類歎願書 長谷川三郎兵衛貼添〔町奉行所御尋筋ニ而御預中切米等拜借〕 小山東弥太・高橋清藏 二月	一通
4 御收納郡方伺書〔真田志摩臨時出府詰並等被下方〕 七月一四日	一通
5 御勝手元ノ御尋物答書〔真田志摩臨時出府之節御手入召連御賞筋〕 八月	一通
6 御收納郡方伺書并附札〔悴勤之向江戸詰中御扶持方〕 二月	一通
7 御收納郡方伺書〔同前下案〕 一月	一通
8 高野藤十郎書狀〔急參府御供其他御手充問合〕 宮本慎助宛 二月二六日	一通
9 高崎銀御借人振合等取調書〔前号回答事項〕 二月二六日	一通
10 高野藤十郎書狀〔問合回答之札〕 宮本慎助宛 二月二七日	一通
11 御勝手元ノ御尋物答書〔御供御徒士拜借金〕 三月一七日	一通

12 御收納郡方伺書并附札〔御役方仲間京都詰被下物〕六月	一通
13 御收納郡方伺書并附札〔関田莊助京都詰御手充〕六月	一通
14 成沢勘左衛門取次状〔各々子弟之儒書素読出席〕細田久作・富岡宗三郎・小野左金太・宮本慎助宛 一月七日	一通
15 御尋物答書〔貞松院様御守役物書老人被下并鍵番兩人永雇〕七月	一通
16 御勝手元ノ御尋物答書〔当春急出府小頭馬代被下方〕七月晦日	一通
17 成沢治之助書状 返書扣共〔山内唯七居延被下物〕宮本慎助宛 六月二三日	二通
割返高伺書類	き七七
1 粃方掛伺書〔当夏御供上京之向江戸帰割返高折返御手充〕 一月二三日	一通
2 家老差図書 赤沢助之進 草間一路宛 一月三日	一通
3 家老差図書 同前 同前宛 一月四日	一通
4 粃方掛伺書〔竹内金左衛門上京割返高〕 一月二九日	一通
5 粃方掛伺書〔宮下力之進京都割返高〕 一月二九日	一通
6 御收納郡方添伺書〔同前〕 一月二九日	一通
7 御收納郡方添伺書〔亡小山岩太郎京都割返高〕 一月二九日	一通
8 粃方掛伺書〔同前〕 一月二九日	一通

9 御收納郡方添伺書〔竹内金左衛門上京割返高〕 一月二九日	一通
粃方掛評議書類 元治元年	き二六三
1 粃方掛伺書〔京都折返詰之向御手充〕 一月二三日	一通
2 御收納郡方添伺書〔同前〕 一月二三日	一通
3 御收納郡方伺書〔上京向々高崎銀・馬銀・詰中御手充未私分御下ケ〕 一月二七日	一通
4 粃方掛伺書〔依田又兵衛・北沢幡之助折返詰御手充〕 一月二七日	一通
5 御收納郡方添伺書〔同前〕 一月二七日	一通
6 家老差図書 赤沢助之進 草間一路宛 一月八日	一通
7 粃方掛伺書〔御徒士助御手充節木代之内ヲ以渡方改〕 一月一〇日	一通
御答袋 粃方掛 慶応二年正月ノ〔内容摘記のみの分は御勝手元ノ御尋物答書〕	き二六八
1 御收納郡方御尋物答書〔月岡万里立帰出府拝借金願〕 一月二四日	一通
2 御收納郡方御尋物答書〔御番士去々子上京之節拝借夫給上納方〕 一月晦日	一通
3 〔同前再答〕 二月	一通
4 〔金児忠兵衛詰高被下〕 二月四日	一通
5 〔御奥女中八幡参詣等之節弁当被下度旨〕 二月八日	一通
6 〔宮嶋通珉等粹医術修業御手充拝借〕 二月一九日	一通

7	〔学校番人御手充粗品被下〕 二月一九日	一通
8	御収納郡方伺書稿〔京都御留守居拝借夫〕 二月二十四日	一通
9	〔中村勝右衛門御扶持渡方〕 二月二六日	一通
10	〔足輕奉行手附〕 二月二六日	一通
11	〔一場茂右衛門立帰出府御手充〕 二月二七日	一通
12	御尋直答扣〔御台所仲間助詰切〕 二月二七日	一通
13	〔家中御目見以下江戸詰之節切米渡方〕 二月二九日	一通
14	〔宮下左七郎江府居延御手充〕 二月二九日	一通
15	〔上京御供下座見等拝借金御流〕 二月二九日	一通
16	〔上京御留守居方物書等拝借金御流〕 二月二九日	一通
17	〔恵明寺御合力粗品渡〕 二月二九日	一通
18	〔玉井進一郎在府居延御手充〕 二月二九日	一通
19	〔小野宗甫等京地拝借金御流〕 二月二九日	一通
20	〔松原者給金増〕 二月	一通
21	見合書〔長国寺等合力粗等品渡割合〕	一通
22	御収納郡方御尋物答書〔恵明寺御合力粗品渡〕 二月	一通
23	見合書〔長国寺合力粗品渡割合〕	一通
24	〔山越良之助槍術修業御手充〕 三月一日	一通
25	御収納郡方御尋物答書〔上京御供向詰高井人馬賃錢〕 三月五日	一通
26	〔御供上京小銃組詰給増願〕 三月八日	一通
27	〔同前〕 三月八日	一通
28	〔春原玄三拝借金願〕 三月八日	一通
29	〔上京御供小頭足輕等被下物〕 三月八日	一通
30	〔高田貫兵衛去々子年上京御宿割勤ニ付拝借金上納〕 三月十三日	一通
31	〔刀鍛冶宮川繁三郎上京御供願〕 三月一四日	一通
32	〔去夏中上方御用荷差戻入料増〕 三月一五日	一通
33	〔江府家中上下浮御扶持代切替〕 三月一九日	一通
34	〔学校番人御手充〕 三月二四日	一通
35	御収納郡方御尋物答書〔丸山龍藏急出府被下物等〕 三月二六日	一通
36	〔山寺常吉上京被下物拝借金願〕 三月二七日	一通
37	〔武具方手附専左衛門御手充〕 三月二七日	一通
38	〔武具方手附上京御手充〕 三月二七日	一通
39	御収納郡方御尋物答書〔旧冬出府中詰番被仰付之向被下物〕 三月二九日	一通
40	〔上京書役兩人御手充拝借金〕 三月晦日	一通
41	〔原隼之進上京拝借人等〕 三月晦日	一通
42	〔御右筆兩懸之儀再申立〕 三月八日	一通
43	見合書〔矢沢但馬等御手充拝借〕 三月	一通
44	〔上京御供向從僕具足送方〕 三月	一通
45	御収納郡方追同書〔去々子上京之上願帰之向割返高被下方〕 四月一日	一通
46	〔宮本彦之進去々亥詰金増願〕 四月三日	一通

- 47 御収納郡方伺書〔寺沢十太夫去戌焼失御手充〕
四月三日 一通
- 48 御収納郡方再伺書〔家中滯府御手充金〕 四月三日
一通
- 49 御収納郡方伺書〔鎌原伊野右衛門御供上京御免
ニ付御手充〕 四月五日 一通
- 50 〔去々子先立上京之向駕籠人足等〕 四月六日 一通
- 51 〔寺内多宮御供上京荷物差出方〕 四月六日 一通
- 52 〔小銃組上京御手充〕 四月六日 一通
- 53 〔寺内多宮出府輕尻馬等〕 四月六日 一通
- 54 〔武具方手附御手充増願〕 四月六日 一通
- 55 〔渋谷玄俗藥種料拝借〕 四月六日 一通
- 56 〔我妻物持拝借〕 四月六日 一通
- 57 〔去々子年臨時上京御番士拝借夫給金上納方〕 四
月六日 一通
- 58 〔御供上京書役江府滯留中御賄〕 四月六日 一通
- 59 〔我妻出府之節輕尻馬被下度〕 四月六日 一通
- 60 〔鉄砲師上京中昼扶持等被下方〕 四月七日 一通
- 61 〔松原者給金増再答〕 四月七日 一通
- 62 〔寺内多宮御供上京輕尻馬被下〕 四月一日 一通
- 63 御勝手元々伺書〔御供上京兼役之向御手充金被
下方〕 四月一四日 一通
- 64 〔御台所元々等去々子在京中衣類等焼失御手充〕
四月一五日 一通
- 65 〔御節米才領御手充筋〕 四月一五日 一通

- 66 〔大殿様御迎立婦足輕被下物〕 四月一八日 一通
- 67 〔酒井金太郎去々子上坂被下物〕 四月二〇日 一通
- 68 見合書〔去丑春御供足輕御手充振合〕 一通
- 69 寺沢大之助用狀〔上京御供鉄砲師被下物〕 佐藤
為之進宛 四月六日 一通
- 70 〔寺沢大之輔去丑居延在府御手充〕 四月 一通
- 71 宮本慎助御内尋ニ付申上書〔長谷川深美御借人
継合〕 六月一日 一通
- 72 〔松原者給金増再答〕 六月一七日 一通
- 73 〔大谷津權太郎等料理人見習役料〕 六月一七日 一通
- 74 〔非常之節御先手人数取調〕 六月二〇日 一通
- 75 〔小林常男文武修業御手充〕 六月二三日 一通
- 76 〔一場茂右衛門去々子立婦出府御手充〕 六月二三
日 一通
- 77 御収納郡方再伺書〔滯府御手充金暫之内御改正〕
六月二二日 一通
- 78 見合書〔御人数出立之節入料積〕 一通
- 79 〔非常之節御先手人数取調〕 六月二三日 一通
- 80 〔御番士詰三筆頭御手充筋〕 七月一七日 一通
- 81 〔佐竹周蔵立婦出府御手充拝借〕 八月 一通
- 82 〔飛脚路錢増御手充筋〕 一〇月一九日 一通
- 83 〔去冬御供出府之御番士居延御手充〕 一〇月 一通
- 84 〔広場掃除〕 一一月 一通
- 85 〔御次小姓詰番出府〕 一一月二日 一通

86	〔新御殿御台所使廻御人増〕 一一月一二日	一通
87	〔松原者御手充再答〕 一一月一九日	一通
88	〔上京并帰府御供之向切替〕 一一月一三日	一通
89	〔帰府御供向旅駕料被下方〕 一一月一三日	一通
90	〔山崎友吉詰並御直〕 一一月一三日	一通
91	〔御刀番詰中御手充金増〕 一一月二二日	一通
92	〔押下座見道中被下物〕 一一月	一通
93	〔御馬奉行江戸詰御手充金増〕 一一月二二日	一通
94	〔佐藤為之進御尋物答書〔長谷川三郎兵衛詰並被下物〕 一一月二六日〕	一通
95	〔竹花兵馬京都詰並〕 一一月二六日	一通
96	〔御茶道坊主等御手充筋〕 一一月二七日	一通
97	〔富岡文蔵詰粗代被下方〕 一一月二七日	一通
98	〔御収納郡方御尋物答書〔御番士詰中三筆頭御手充〕 一一月二七日〕	一通
99	〔御収納郡方御尋物答書〔師田民治飯米不足親類歎願〕 一一月〕	一通
100	〔御供小頭道中正御賄被下〕 一一月	一通
101	〔斎田虎尾江府居延御手充〕 一一月	一通
102	〔師田民治歎願之儀〕 一一月	一通
103	〔御刀番御手充〕 一一月	一通
104	〔御台所目付等詰人数増〕 一一月	一通
105	〔山崎友吉詰並御直〕 一一月	一通
106	〔御宿割御番士拝借金〕 一一月	一通
107	〔松原者給金増〕 一二月九日	一通
108	〔矢野助右衛門居延御手充〕 一二月一三日	一通
109	〔松原者給金増〕 一二月一五日	一通
110	〔友野隼太郎修業御手充拝借〕 一二月一八日	一通
111	〔堀田伴右衛門永御蔵前品渡歎願之儀〕 一二月一九日	一通
112	〔禰津刑左衛門滯府被下物〕 一二月一九日	一通
113	〔普請方元切米渡方〕 一二月二〇日	一通
114	〔玉井恒之助詰給被下〕 一二月三〇日	一通
115	〔公事方仲間被下粗代金上納取延〕 一二月二一日	一通
116	〔御収納郡方御尋物答書〔御番士詰中三筆頭御手充〕 一二月二一日〕	一通
117	〔飯島与作立帰出府詰並被下物〕 一二月二三日	一通
118	〔長谷川三郎兵衛過月出府詰並被下物〕 一二月二六日	一通
119	〔名代詰忠太御荷物宰領にて出府途中出奔ニ付道中入料御払切等〕 一二月二六日	一通
120	〔片岡千吉去々子年上京被下物内願〕 一二月二六日	一通
121	〔去々子年急出府足輕御手充〕 一二月二六日	一通
122	〔津田源五郎助役中御手充〕 一二月二六日	一通
123	〔鑄物師鈴木惣五郎御扶持被下方〕 一二月二六日	一通
124	〔両角玄脩御扶持方江戸渡〕 一二月二六日	一通

125	〔岡野弥右衛門去丑冬中出府ニ付詰並被下物〕 一二月二六日	一通
126	〔仕立飛脚御手充金増〕 一二月九日	一通
127	御勘定吟味御尋物答書〔立田秀英拝借金歟願〕 一二月二六日	一通
128	御收納郡方御尋物答書〔子秋急上京之御番士夫給金上納歟願〕 一二月二六日	一通
129	〔去々子年京都詰御徒目付拝借金御流〕 一二月二六日	一通
130	御收納郡方御尋物答書〔御番士夫給金取延〕 一二月二七日	一通
131	〔去々子年上京御供下座見拝借金〕 一二月二六日	一通
132	〔京都表へ荷物宰領増入料被下〕 一二月二六日	一通
133	〔我妻馬銀被下〕 一二月二六日	一通
134	〔近藤權内・山崎与十馬居延御手充〕 一二月二六日	一通
135	〔富岡啓藏御扶持月渡〕 一二月二九日	一通
136	〔北沢善三郎夫給被下〕 一二月二九日	一通
137	〔武具方手附御手充被下〕 一二月	一通
138	夫拝借之向取調	一通
139	他所寺院御合力其外御出入御扶持渡方伺書案	一通
140	御尋物答書案〔家中金切米糴直し〕	一通
141	御尋物答書案〔三沢刑部丞去々子年上京御供先立詰高増〕	一通
142	見合書〔詰人名面〕	一通

卯御答袋 粃方掛 慶応三年〔きぎ三〇七七〕		袋人
用状并御尋物答書		き 七三
1	佐藤為之進用状〔春原氏上京拝借夫給金〕 三沢刑部承宛 一月一六日	一通
2	三沢刑部丞用状〔同前返書〕 佐藤為之進宛 一月二二日	一通
3	御勝手元メ御尋物答書〔御台所目付兩人詰〕 一月一〇日	一通
4	御收納郡方御尋物答書〔御手木仲間京都詰被下物〕 四月一〇日	一通
5	見合書〔同前 安政三年事例〕	一通
6	佐藤為之進書状案〔別紙慎助へ内々仰越之趣取調〕 長谷川深美宛 五月三日	一通
7	御勝手元メ御尋物答書〔御酒被下ニ付御台所仲間代り借人〕 五月八日	一通
8	御勝手元メ御尋物答書〔風脚才領組不足錢被下〕 五月二七日	一通
9	竹村金吾用状〔本人扶持方代金渡問合〕 御收納郡方宛 五月二五日	一通
10	佐藤為之進用状〔同前返書〕 竹村金吾宛 五月二五日	一通
両組之者御供出府折返詰御手充被下評議御勝手元メ御尋物答書		き 七四
1	〔大殿様両組御手充被下〕 二月	一通
2	〔両組之者折返詰御手充〕 三月四日	一通
3	〔同前再尋〕 五月二七日	一通

4 〔同前〕 五月	一通		3 〔竹村悌三郎馬術修業御手充拝借〕 三月二一日	一通	
5 〔両組之者滞府御手充〕 六月九日	一通		4 〔武術修業歎願向〕 二月二二日	一通	
詰高評議御尋物答書	き 七五		金切米御口之者江戸詰御手充評議書類	き 六八	
1 御勝手元ノ御尋物答書 〔普請奉行詰高申立〕 三月五日	一通		1 御勝手元ノ御尋物答書 三月二二日	一通	
2 御収納郡方御尋物答書 〔関口勇馬御供上京詰高〕 三月二四日	一通		2 御勝手元ノ御尋物答書 〔御口之者去冬中御供立堀御切賄〕 三月二六日	一通	
3 御勝手元ノ御尋物答書 〔郷原力作詰番切替〕 三月二五日	一通		3 御勝手元ノ御尋物答書 〔御口之者出府御手充〕 三月一八日	一通	
4 御勝手元ノ御尋物答書 〔酒井渡七詰並〕 四月五日	一通		4 佐藤為之進用状案 中村順太郎宛 三月二一日	一通	
御台所仲間江戸詰給増願評議書類	き 六六		5 御勝手元ノ御尋物答書 〔金切米之者歎願〕 三月二二日	一通	
1 御勝手元ノ御尋物答書 三月九日	一通		6 春原織右衛門用状 〔子年上京給金上納分下戻内々伺―他史料の混入カ〕 佐藤為之進宛 三月二三日	一通	
2 御勝手元ノ御尋物答書 三月一九日	一通		7 御勝手元ノ御尋物答書 四月一日	一通	
3 見合書 〔文久元年ノ三年被下物〕	一通		御勝手元ノ御尋物答書	き 六九	
4 御勝手元ノ御尋物答書 四月一二日	一通		1 〔堀田伴右衛門飯米差支〕 三月二二日	一通	
5 見合書 〔被下物渡方〕	一通		2 〔宮沢徳太郎・宮下力亥春内借金返上〕 三月二四日	一通	
6 御勝手元ノ御尋物答書 四月一三日	一通		3 御収納郡方申上書 〔子秋上京之向夫給金不納入催促〕 三月二五日	一通	
7 御口達書案 四月	一通		4 〔芝御陣屋敷詰足輕等拝借金〕 三月二八日	一通	
8 御口達書案 〔前号下案〕 四月	一通		御勝手元ノ御尋物答書	き 七〇	
9 御勝手元ノ御尋物答書 〔御口達振〕	一通		1 〔佐々木玄又交代繰上願〕 三月二四日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書	き 七七		2 〔同前再答〕 四月晦日	一通	
1 〔鉄砲鉄物師修業願〕 三月二二日	一通				
2 〔武術修業人差出方〕 三月一五日	一通				

3	〔坂本常左衛門外切米渡方〕 二月二六日	一通	
4	〔竹村半藏滞府〕 三月	一通	
5	〔同前修正〕 三月二二日	一通	
6	〔渡辺栄司切米親類歎願〕 三月二八日	一通	
7	〔小山久清後家御救筋〕 三月二二日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書			き七三
1	〔品川宿本陣へ近火被下方〕 三月二四日	一通	
2	〔寅年上京足輕等御手充〕 三月二四日	一通	
3	〔御台所使廻り平治在京中御扶持〕 四月一日	一通	
4	〔京都御留守居方物書并足輕被下物〕 四月二日	一通	
5	〔上京御供料理人御人減御手充〕 四月五日	一通	
6	〔御雇組周作途中病氣入料被下方〕 五月一日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書			き七三
1	〔団野円平等居延御手充〕 四月五日	一通	
2	〔高久専之助居延御手充〕 一月二一日	一通	
3	〔寺沢大之輔居延御手充〕 五月二五日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書〔立帰出府御手充〕			き七三
1	御収納郡方御尋物答書〔大殿様御供立帰郷夫被下物〕 四月五日	一通	
2	〔大殿様御供立帰御口之者被下物〕 二月	一通	
3	〔御節米才領仕切賄〕 四月五日	一通	
4	〔御節米上乘才領仕切賄〕 五月七日	一通	

5	御収納郡方〔宮原柔兵衛立帰出府御手充〕 二月六日	一通	
6	〔子丑兩年足輕立帰上京滞御手充〕 三月一九日	一通	
7	〔齊藤房吉丑立帰出府詰並被下物〕 四月五日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書			き七四
1	〔江府送り人附添下目付御手充〕 四月一六日	一通	
2	〔江府仕立飛脚并送り人附添下目付等被下物〕 四月一二日	一通	
奥村良藏詰高評議御尋物答書 御勝手元ノ			三通き七五
五月二二日、六月一日、六月二六日			
仁科素碩詰番評議御尋物答書 御勝手元ノ			き七六
1	〔役替ニ依り詰番切替〕 五月七日	一通	
2	〔同前〕 六月三日	一通	
3	〔滞府被仰付〕 六月二六日	一通	
久保極人御手充評議御尋物答書 御勝手元ノ			き七七
1	〔御側御納戸役被仰付ニ付肩衣代申立〕 六月二二日	一通	
2	〔同前御手充〕 六月二四日	一通	
〔柵方掛御尋物答書稿〕 慶応三年〔きせへくせ〕			
御勝手元ノ御尋物答書			き七八
1	〔詰辻足輕松原者御手充〕 四月一日	一通	
2	〔京都表ノ荷物宰領道中賄代〕 五月二〇日	一通	
3	〔御節米上乘宰領仕切賄〕 五月二七日	一通	

4	〔上方掛御尋物答書〔家中御答之向被下物渡方〕三月二三日〕	一通
5	〔上京御供小頭并詰給被下方〕三月二日	一通
6	〔上京御供道中仕切賄代〕三月三日	一通
7	〔書役詰中御手充拝借金増再願〕三月一三日	一通
8	〔同前〕三月八日	一通
9	〔坂本常左衛門居延御手充〕三月	一通
10	〔定府長詰切替等〕二月	一通
御勝手元ノ御尋物答書		
1	夫給申立之節御答試扣 七月一〇日	一通
2	〔齊藤房吉臨時詰並扶持方〕七月一日	一通
3	〔宮嶋玄孝等医術修業御手充増〕七月一二日	一通
4	〔亡玉井兵一郎親類歎願〕七月一日	一通
5	〔買物役兩人詰〕七月	一通
6	〔同前下案〕七月三日	一通
7	〔御番士詰三筆頭御手充〕七月一二日	一通
8	〔久保極人御手充筋〕七月二〇日	一通
9	〔市村南組要左衛門役改被下糶減方〕七月一日	一通
10	見合書〔文政十三年小市村清兵衛先例〕	一通
11	〔越後川浦陣屋へ飛脚仕切賄〕七月一日	一通
12	〔御乗切御供押以下之者御手充〕七月二二日	一通
13	〔飛脚才領組旅籠料〕七月二二日	一通

き七元

14	御勝手元ノ答書貼紙	五枚
〔御留守居方物書被下物〔七月一日、松本表飛脚仕切賄、御供御口之者増旅籠料、千葉恒五郎被下物、京都之跡荷宰領之者御手充〔以上七月一二日〕〕		
15	申上書案〔御取箇引高取調等〕	一通
御勝手元ノ御尋物答書		
1	〔新御殿湯殿番御手充〕九月六日	一通
2	〔轟文助拝借金〕九月四日	一通
3	答書貼紙〔申立之趣〕九月二日	一枚
4	見合書〔立歸出府御手充金〕	一通
御勝手元ノ御尋物答書		
1	〔在府御番士来春迄差留御手充〕一〇月二五日	一通
2	〔新御殿台所帳附柳之助本役〕一〇月二一日	一通
3	〔薦之者役中月々御扶持被下〕一〇月二〇日	一通
4	〔矢野助右衛門普請方手段金被下〕一〇月一日	一通
5	〔金切米御口之者出府御手充〕一〇月二五日	一通
6	答書貼紙〔松本表飛脚旅籠料、同増被下、川浦表飛脚仕切賄〕	三枚
7	〔小林太一郎江府居延御手充〕一〇月一五日	一通
8	〔中俣一平立歸并御供中跡御扶持被下〕一〇月一五日	一通
9	〔江府足輕御雇賃錢増〕一〇月一五日	一通
10	〔江府御口之者御手充〕一〇月二七日	一通

き七二

- 11 「宮沢徳太郎去寅内借金上納方」 一〇月二七日 一通
- 12 「江府賄所仲間給金増」 一〇月二〇日 一通
- 13 「同前之内松原者給金追答」 一〇月二五日 一通
- 14 松原者給金渡方案 一通
- 御勝手元ノ御尋物答書 き 七三
- 1 「去寅秋京都ノ之荷物宰領旅籠料被下方」 一一月 一通
- 2 「江府鉄砲方兩人御手充」 一〇月 一通
- 3 「同前」 一〇月二六日 一通
- 4 「去子立婦上京足輕御手充」 一〇月二六日 一通
- 御勝手元ノ御尋物答書 き 七三
- 1 「宇敷元之丞拝借米」 一一月二〇日 一通
- 2 「山内唯七長詰被下物等」 一一月一日 一通
- 3 「宮本義治詰中御手充糲被下」 一一月三日 一通
- 4 「同前再答」 一一月一九日 一通
- 5 「御口之者江戸詰給改正」 一一月九日 一通
- 6 「野村莊左衛門江府拝借金上納方」 一一月七日 一通
- 7 「上京御供向被下物」 一一月一〇日 一通
- 8 「去子上京御供杖突等拝借金之内御払切」 一一月一九日 一通
- 9 「齊藤房吉去丑臨時詰並夫給夫扶持被下方」 一一月 一通
- 10 「御荷物藏式錢被下増」 一一月一日 一通

- 11 「才領組之者去秋木曾路迄出張輕尻馬被下」 一一月 一通
- 12 「高野藤十郎拝借金上納方」 一一月七日 一通
- 13 「御手木仲間詰糲被下」 一一月八日 一通
- 14 「齊藤房吉去亥臨時急出府被下物」 一一月一日 一通
- 15 「新御殿御側御納戸物書役料渡方」 一一月一日 一通
- 16 「鉄砲師岩村寅松夫給夫扶持被下」 一一月 一通
- 17 「兩角玄修御扶持歎願」 一一月一日 一通
- 18 御勝手元ノ伺書「糲米不足ニ付品々渡糲之内代金渡極方」 一一月二八日 一通
- 19 「足輕立婦出府被下物」 一一月一日 一通
- 御勝手元ノ御尋物答書 き 七四
- 1 「急出府杖突内借金」 一二月二九日 一通
- 2 「金切米之向々糲ニ直シ願」 一二月二九日 一通
- 3 「上京鉄砲方之内鍵持夫拝借」 一二月一七日 一通
- 4 「海沼新助立婦出府御手充拝借」 一二月 一通
- 5 「恵明寺御合力糲皆品渡願」 一二月二九日 一通
- 6 「急出府小頭御手充」 一二月二九日 一通
- 7 「亡渡部榮司切米拝借」 一二月二九日 一通
- 8 「上村治右衛門・伊東一太郎京都帰割返高被下方」 一二月二九日 一通
- 9 「伊東録太郎長詰被下物拝借金御流願」 一二月二〇日 一通
- 10 「鎮目実之助長詰歎願」 一二月二〇日 一通

御勝手元ノ御尋物答書〔御馬乗詰番〕八月	一通き七五	19 〔去寅上京小頭足輕御賄代増被下〕八月九日	一通
御書類御答袋 糺方掛 慶応四年正月より六月迄 〔内容摘記のみの分は御勝手元ノ御尋物答書〕	き八九	20 〔京都詰徴兵被下糺渡方〕八月	一通
1 〔小山弥一郎上方社御判物持参道中困金拝借〕七月一七日	一通	21 〔詰辻足輕并松原者切替〕九月二六日	一通
2 〔荒井伴之助立婦出府被下物〕七月二一日	一通	22 〔喇叭修業人御手充筋〕九月二一日	一通
3 〔小銃組御取立被下物〕七月二二日	一通	23 〔御判物差送方〕九月二八日	一通
4 〔江戸詰辻足輕御人遣被下物〕七月	一通	24 〔当春木曾路迄飛脚賃錢〕九月九日	一通
5 宮沢善治用状〔医師共越後表急出張御手充之儀取調〕宮本慎助宛 七月二六日	一通	25 〔鉄砲師助等下筋出張中御手充〕九月九日	一通
6 出張御手充取調書〔前号添付〕	一通	26 〔武具方附雇足輕下筋出張中御手充〕九月 御勝手元ノ添伺書案〔家中江戸往来之節鼠新地御賄料増、代官申立〕九月二二日	一通
7 御勝手元ノ答書貼紙〔前々号答書〕	一通	27 〔板仲間抱込〕九月九日	一通
8 〔御台所元ノ仲間等上京被下物〕八月二一日	一通	28 〔近領飛脚脚代〕九月九日	一通
9 〔上京御留守居方物書等御手充拝借金〕八月九日	一通	29 〔新御殿御庭辺掃除御手充〕九月	一通
10 〔小頭桜井勇作詰番御免被下物〕八月九日	一通	30 〔米倉勇助御手充筋〕九月一〇日	一通
11 草間一路答書〔甲府へ立婦被下物〕	一通	31 草間一路答書〔力石村浪人児玉九兵衛等出張御手充〕九月二六日	一通
12 〔片岡十郎兵衛出甲御借人〕八月一八日	一通	32 返書稿〔牽扶持渡方〕九月一七日	一通
13 〔大代本詰婦辻之内時御雇被下糺〕八月	一通	33 御勝手元ノ伺書〔長寿之者被下方〕一〇月	一通
14 〔当春中山道筋出張足輕御手充〕八月一〇日	一通	34 見合書〔前号添〕	一通
15 〔水野芳之助詰中御手充糺〕八月三日	一通	35 〔前島友之進御借人松原者被下物〕一〇月二〇日	一通
16 〔御雇組下目付定加役之者御手充〕八月九日	一通	36 御勝手元ノ答書貼紙〔徴兵組弥市往来入料被下、病院御賄、御台所家具番詰切御賄〔以上一〇月九日〕、病院台所水汲増人〔一〇月一三日〕、赤沢助之進御借人切替〔一〇月三日〕〕	五枚
17 〔下筋出張下目付御手充〕八月九日	一通		
18 〔新御殿御雇仲間病氣ニ付代人願〕八月三日	一通		

- 38〔赤沢助之進御借人詰〕 一〇月九日 一通
- 39〔下目付定加役孝太郎役扶持〕 一〇月一日 一通
- 40〔新小銃組火入御一覽〕 一〇月 一通
- 41〔武具方手附出張御手充〕 一〇月一日 一通
- 42〔京詰御預所御勘定役着服料〕 一〇月一日 一通
- 43〔徵兵足輕被下物品渡願〕 一〇月三日 一通
- 44〔長谷川三郎兵衛御借人〕 一一月一七日 一通
- 45〔柳原殿へ佐藤正左衛門御貸人被下物〕 一一月一三日 一通
- 46〔真田祿太郎様一条〕 一一月八日 一通
- 47〔小野唯之進御借人并人馬被下〕 一一月一七日 一通
- 48〔在京御留守居方物書等拝借金〕 一一月 一通
- 49〔徵兵足輕等御手充并太鼓拝借〕 一一月一六日 一通
- 50〔中村鉄藏東京居延御手充〕 一一月一七日 一通
- 51〔京都御預所御勘定役御人増〕 一一月一六日 一通
- 52〔足輕浮御扶持代金御内借〕 一一月二一日 一通
- 53〔在京御留守居方物書御手充〕 一一月一七日 一通
- 54御勝手元々答書貼紙 一一月(年違之儀)(二八日、別紙之趣(四日)、松原者兩人立歸上東京被下物(一一月)、書類返上貼紙、新井宿飛脚人足賃錢、台所仲間詰切賄(以上一七)) 六枚
- 55〔相原音五郎帰京ニ付夫人拝借〕 一一月一五日 一通
- 56〔京都詰等之節夫人拝借方〕 一二月五日 一通
- 57〔上東京足輕松原者被下物〕 一二月七日 一通

- 58〔松原者抱置〕 一二月七日 一通
- 59〔菅鍼太郎奥羽筋へ出張御手充等〕 一二月二二日 一通
- 60〔松原者御台所仲間代立歸被下物〕 一二月七日 一通
- 61〔足輕八重勤訴訟〕 一二月一六日 一通
- 62〔樋口旗之助附人拝借〕 一二月五日 一通
- 63〔郷原力作在東京御手充親類共内歎願〕 一二月二二日 一通
- 64〔御刀番詰中御手充金〕 一二月一六日 一通
- 65〔笠原平六郎等夫人〕 一二月七日 一通
- 66〔表御用人物書上東京〕 一二月五日 一通
- 67〔足輕并松原者浮御扶持代内借〕 一二月二二日 一通
- 68〔菅鍼太郎奥羽筋へ出張品々被下物等〕 一二月二三日 一通
- 69〔金切米之向々御手充〕 一二月二八日 一通
- 70〔西村重左衛門御手充筋〕 一二月 一通
- 71〔詰辻足輕松原者給金上納〕 一二月二二日 一通
- 72御勝手元々答書貼紙〔奥坊主詰切賄(一二月二五日)、御預り所役人姓名書類返上(一二月二三日)〕 二枚
- 73御收納郡方伺書案〔詰中并立歸御手充渡方〕 一二月一八日 一通
- 74御收納郡方伺書〔当四月中御供上京延引之向御手充〕 一二月 一通
- 75公事方・御收納郡方申上書〔切米渡四ッ切証文名面認方〕 一一月 一通

76	草間一路用狀并勘返狀〔四ッ切証文連名變更〕 磯田音門宛 一月五日	一通
77	御収納郡方伺書〔家中詰番并立婦等之向供連賄代〕 一二月	一通
78	御収納郡方伺書〔同前〕 一二月二日	一通
79	家老差図書 鎌原伊野右衛門 草間一路・佐藤為之進宛 一二月二四日	一通
80	佐藤為之進伺書〔長谷川三郎兵衛・草間一路去卯出府中上坂詰並被下物〕 九月	一通
81	草間一路伺書〔赤沢助之進等上京詰並〕 九月	一通
82	御収納郡方伺書〔家中金切米少給之向御手充相場〕 一二月	一通
83	見合書〔前号添〕	一通
○		
入方掛諸書類綴 慶応四年四月〜閏四月〔きんぎょ〕 〔たて〕 袋入		
	宮本慎助用狀〔農兵御手充支給連絡〕 瀬兵衛宛 四月二〇日	一通き 六二
	毛利瀬兵衛用狀〔新規呼出農兵御手充別紙之通渡方依頼〕 宮本慎助他宛 閏四月二〇日	一通き 九六
	出仕人届書〔帶刀御免之者〕 宮沢善治 四月二二日	一通き 九六
	御上京御供先立名面 四月	一通き 九二
	御上京御供御手充分内借金覚	一通き 九四
	〔御勝手元〕伺書〔臨時出張之向御手充〕 四月二六日	一通き 九五
	御勝手元〔伺書 四月二六日	一通き 九五〇

御勝手元〔伺書〔賊徒一条立働御手充〕 四月二八日	一通き 九六
用狀 九左衛門 竹内金左衛門宛 四月二九日	一通き 九六
用狀〔官軍岩村精一郎出張附添郷夫御渡願〕 彦四郎 草間一路宛 閏四月二日	一通き 九五
草間一路用狀〔到來別紙回付〕 佐藤為之進宛 二日	一通き 九六
用狀〔官軍福島着出迎手段断狀〕 宮本慎助宛 二日	一通き 九六
佐藤為之進用狀〔柘植氏五十両内借申出之件〕 宮本慎助宛 閏四月三日	一通き 九六
久保三郎用狀〔中野表金穀才覚報知〕 佐藤為之進宛 閏四月二日	一通き 九六
佐藤為之進用狀案〔前号返答〕 久保三郎宛 閏四月二日	一通き 九六
佐藤為之進用狀案 久保三郎宛 閏四月四日	一通き 九六
毛利瀬兵衛用狀〔清瀬村捨子病死ニ付養育手充除外〕 宮本慎助他宛 閏四月六日	一通き 九六
御手充受取念書〔臨時出張御手充代判之分〕 出浦勝四郎 宮本慎助宛 閏四月	一通き 九五
御時拜借証文写〔母ふゆ奉公中着服料〕 馬場介作 鹿野茂手木宛	一通き 九六
御用勤出面	一通き 九五
御用勤出面	一通き 九五
急御人数出御手充銘々断袋 入方掛 慶応四年四月〜六月〔きんぎょ〕三三	一通き 九五
相沢龍太郎書狀〔下筋出張御手充印書同封添狀〕 入方宛 六月八日	一通き 二〇五

春山喜平次書狀并勘返狀〔出張人数催促願〕
宮沢善治宛 二二日 一通き二〇六

竹村金吾書狀〔慶三郎手充代判廻送礼〕 五月六日 一通き二〇七

家老達書〔金井弥惣右衛門弟清八郎牟礼宿出張〕
望月婦一郎 岡野弥右衛門宛 四月二〇日 一通き二〇八

竹村金吾書狀〔次男慶三郎臨時出役御手充有無問合〕 榎方宛 閏二九日 一通き二〇九

返書狀案〔出張御手充高〕 一通き二一〇

宮沢善治書狀〔答人之番人呼出し依頼〕 宮本慎助他二人宛 四月二二日 一通き二一一

宮沢善治書狀〔東寺尾村鉄物師良太郎出頭名前書依頼〕 宮本慎助・入弥左衛門宛 二七日 一通き二一二

臨時出張役人賄申付書案〔関屋村他三ヶ村宛ノ案〕 一通き二一三

書狀〔帶刀御免之者呼出急觸〕 前欠 二六日 一通き二一四

御金掛用狀〔中借元返上其他〕 榎方掛宛 四月二六日 一通き二一五

宮沢善治書狀〔帶刀御免之者五十人呼出不能〕 宮本慎助宛 四月二四日 一通き二一六

宮沢善治用狀〔御出馬有無問合〕 宮本慎助他二人宛 四月二二日 一通き二一七

宮沢善治用狀〔土藏へ合衆入之儀通報〕 宮本慎助宛 四日 一通き二一八

返書狀案〔御出馬雨天延引〕 一通き二一九

高橋清藏用狀〔春原玄三出張御手充渡方依頼〕
入弥左衛門宛 一九日 一通き二二〇

宮沢善治用狀〔羽尾村銀兵衛倅御用之節大小并鉄砲拜借方問合〕 春山喜平次他一名宛 四月二八日 一通き二二三

用狀〔村々借入金一条〕 閏四月三日 一通き二二三

用狀〔御用達差出金御尋返事〕 □助 宮本慎助宛 四月二八日 一通き二二三

高橋清藏用狀〔誂陣羽織仕立延引〕 入弥左衛門宛 二三日 一通き二三四

臨時御人数諸書類綴
・名面表 二一通き二三五
・人数書 三七枚き二三五
・堀内莊作用狀
・家老達書

御手充金渡方書類綴
・出張御手充金代判受取書 一八通き二三六
・中借金受取書 三枚き二三六

辰年中御達袋 榎方掛〔辰年以外ヲ含ム〕〔き二二六〕
京都御留守居方内々歎願書〔京都詰足輕被下物〕長谷川深美 九月 一通き二二六

京都御留守居方内々申上書〔物書廃止ニ付赤塚和三郎拜借金御流シ願〕 同前 九月 一通き二二七

御藏内仲間共切米前借評議書類 慶応三年 一通き二二八

1 御藏番願書 一月 一通き二二九

2 榎方掛御尋物答書 二月 一通き二三〇

綿貫泰藏滞府割返評議書類

き二七九

1 金井弥惣左衛門添伺書 八月

一通

2 綿貫泰藏願書 八月

一通

回付添状〔奉行出仕前附出し願〕

一通き二八〇

山崎藤太郎扶持被下方評議書類 慶応二年

き二八一

1 御勘定吟味御尋物答書貼紙 六月四日

一通

2 御徒士頭助添伺書 五月

一通

3 御徒士目付伺書 五月

一通

大検見御用掛御手充伺書并附札 佐藤為之進、草間一路 八月、九月三日

二通き二八二

御台所使廻り御扶持渡評議書類

き二八三

1 御勘定吟味御尋物答書 一〇月一〇日

一通

2 御吟味役添伺書 九月

一通

3 御台所目付伺書

一通

湯殿番江戸詰給評議書類 慶応二年

き二八四

1 御勘定吟味御尋物答書 一〇月一八日

一通

2 御吟味役添伺書 二月

一通

3 御台所目付・御買物役伺書 二月

一通

我妻馬銀被下評議書類

き二八五

1 御勘定吟味再御尋物答書 一二月一〇日

一通

2 竹内新左衛門伺書写 五月二七日

一通

3 御城同心頭再伺書 一一月

一通

宮原柔兵衛等御手充評議書類 慶応二年

き二八六

1 御勘定吟味御尋物答書 一二月二七日

一通

2 御預所郡奉行伺書 一〇月

一通

長谷川徳右衛門拝借金年賦返納評議書類 慶
応元年、二年

き二八七

1 御勝手元ノ御尋物答書貼札 一二月

一通

2 御勘定吟味御尋物答書 一二月二日

一通

3 家老用状 玉川左門 鎌原伊野右衛門他二人
宛 一〇月二七日

一通

4 長谷川徳右衛門願書 御勘定吟味答書貼紙
一二月(一〇月)

一通

御收納郡方

御收納郡方御尋物答書 卯六月(天保一四年)

き二八二

1 〔日光御供跡詰中御扶持被下〕 六日

一通

2 〔押合役拝借金并御右筆御手充金〕 六日

一通

3 〔刀鍛冶山口近藏御扶持方〕 六日

一通

4 〔桶川宿内田源三郎御出入〕 六日

一通

5 〔沼田屋大藏御賞被下〕 七日

一通

6 〔坂本齊助召出申立〕 七日

一通

7 〔同前〕 七日

一通

8 〔山下勇記願之趣〕 七日

一通

9 〔御徳居白子屋平三郎へ銀被下并御出入疊屋弥左
衛門御徳居取立〕 八日

一通

10 〔立掃足輕拝借金〕 八日

一通

11	〔御城番組堀内直左衛門永苗字御免願〕 一三日	一通	き八〇三
12	〔馬具師吉三郎逗留中御扶持被下方〕 一四日	一通	
13	〔南部坂両組之者御手充〕 一四日	一通	
	戌暮ヨリ亥年迄調物案文 嘉永三年〜四年		袋入
	金児忠兵衛韭山表度々罷越御手充評議書類		
1	1 艸方掛御尋物答書 九月	一通	
2	2 御收納郡方伺書 一〇月三日	一通	
3	3 見合書	一通	
4	4 金児忠兵衛切米渡方伺書 一二月	一通	
5	5 見合書〔天保十四年以後受取物調〕	一通	
6	6 見合書〔弘化二年渡物達書写〕	一通	
	御駕籠岩吉御雇中御切米返上方評議書類		
1	1 御收納郡方御尋物答書 四月	一通	き八〇四
2	2 艸方掛御尋物答書 三月	一通	
3	3 艸方掛御尋物答書下案 三月	一通	
4	4 見合書〔文政九年常吉先例〕	一通	
5	5 見合書〔渡方試算〕	一通	
6	6 見合書〔同前〕	一通	
7	7 見合書	一通	
	峯村七左衛門小林喜草二御加増取扱往復書狀及見合書		き八〇五
1	1 竹内茂用狀 御收納郡方宛 一二月一九日	一通	

2	2 竹内茂用狀 竹村金吾宛 一二月二日	一通	
3	3 竹村金吾用狀案 竹内茂宛 一二月二四日	一通	
4	4 竹村金吾用狀案 竹内茂宛 一二月二五日	一通	
5	5 竹村金吾用狀案 竹内茂宛 一二月二五日	一通	
6	6 見合書〔文化一一年先例〕	一通	
7	7 見合書〔同前〕	一通	
8	8 竹内茂用狀 竹村金吾宛 一二月二四日	一通	
9	9 見合書〔文化一一年先例〕	一通	
10	10 竹村金吾用狀控 御收納郡方答書類	一通	
1	1 御收納郡方御尋物答書〔寺内多門大統附添出府賄〕 四月二六日	一通	き八〇六
2	2 竹内茂書狀〔小頭岸田愛治跡式以前御扶持渡方依頼〕 磯田音門宛 八月二一日	一通	
3	3 堤常之丞書狀〔役方元帳取調返事〕 春山磯治宛 八月二二日	一通	
4	4 御收納郡方御尋物答書〔北島半兵衛御徒士勤中出府御手充〕 八月二二日	一通	
5	5 御收納郡方御尋物答書〔御簡打試之節山本常吉等へ村賄〕 八月	一通	
6	6 堤常之丞書狀〔病氣仕着代〕 春山磯治宛 九月六日	一通	
7	7 御收納郡方御尋物答書〔駒沢市兵衛御手充〕 九月八日	一通	
8	8 御收納郡方御尋物答書〔友野俊藏御仕着代〕 九月八日	一通	

9 春山磯治書狀并勘返狀〔附人熊吉御賞筋〕 春日儀左衛門宛 一月一日	一通	6 〔兩調役助合勤御手充〕 一月二三日	一通
10 成本治之助書狀〔質地証文・小作証文下案 教示依頼〕宮本慎助・春山磯治宛 一月一九日	一通	7 〔小山田孝岐・斉藤友衛立帰御手充〕 一月二一日	一通
11 矢沢帶刀書狀〔会合招待及拝借札金割合〕春山磯治宛 一月一九日	一通	8 〔御判物持人等御手充筋〕 一月一九日	一通
12 磯田音門伺書并附札〔御歳奉行御手充〕 一月	一通	9 添伺書〔昨年中御用夫御手充〕 一月晦日	一通
13 御手充筋取調 粃方掛	一通	御收納郡方御尋物答書	き二五
諸調物書付〔先例見合、御歳米凡積其他〕	二綴 八七	1 〔一代御目見席小頭宛行頂戴方〕 四月三日	一通
御收納郡方御尋物答書〔片井京助立帰出府内願〕 一月二四日 二月二三日	一通き二五	2 〔鈴木安三郎跡目取立方親類歎願〕 四月四日	一通
御收納郡方御尋物答書	き二五	3 〔御台場詰医師増人申立〕 四月一三日	一通
1 〔吟味方物書詰順繰合〕 一月二八日	一通	4 〔大熊謙太郎長詰等歎願〕 四月一五日	一通
2 〔井上宗兵衛滯府〕 二月一二日	一通	5 〔片山半之輔長詰出府之節三ヶ年御扶持〕 四月一五日	一通
3 〔御側御納戸物書輕尻馬被下〕 四月一八日	一通	6 〔御台場御入料御出方〕 四月一九日	一通
4 〔富岡啓蔵夫給代御手充〕 一月	一通	7 〔三村大之助江府留守御扶持〕 五月一日	一通
5 〔長谷川深美等附添下目付帰府道中被下物〕 一月二六日	一通	御收納郡方御尋物答書	き二五
御收納郡方御尋物答書并伺書	き二五	1 〔御徒士滯府五ヶ年居延〕 四月	一通
1 〔奥女中下役松原者御手充〕 三月二日	一通	2 〔宇佐美清兵衛在府被下物〕 五月一六日	一通
2 〔御徒士江戸詰三筆頭御手充〕 四月	一通	3 〔太田藤右衛門居延御手充〕 六月一七日	一通
3 〔同前再答〕 四月二四日	一通	4 〔宇佐美清兵衛被下物差支有無〕 七月六日	一通
4 竹村金吾伺書并附札〔大検見御用懸御手充〕 九月	一通	5 〔館孝右衛門居延御手充〕 四月一九日	一通
5 〔荷物才領之者御手充〕 九月一〇日	一通	6 〔中村辰右衛門長滯府居延歎願〕 二月一日	一通
		7 〔竹内小右衛門在府居延〕 五月一五日	一通
		8 〔吟味方物書居延在府〕 一月二四日	一通

9	〔吟味方物書塩野善藏居延御手充〕 一〇月	一通	き二九七
10	見合書〔前号ノ見合〕	一通	
11・12	〔塩野善藏居延御手充〕 一二月二八日	二通	
13	〔太田藤右衛門居延肩衣代〕 未一月四日	一通	
14	〔金児与助居延御手充〕 七月二八日	一通	
15	見合書〔前号ノ見合〕	一通	
御収納郡方御尋物答書〔磯田小藤太出府〕 四月二日	一通き二五		
御収納郡方御尋物答書〔御供御右筆御借人〕 四月二四日	一通き二五		
御収納郡方御尋物答書〔御徒目付立帰出府御手充〕 五月	一通き二五		
御収納郡方御尋物答書〔鍵番立帰出府御手充〕 七月二八日	一通き二五		
御収納郡方御尋物答書〔馬場弥三郎帰府人馬〕 九月一日	一通き二六		
御収納郡方御尋物答書〔神戸音太郎修業出府御手充〕 未一〇月一六日	一通き二六		
御収納郡方御尋物答書〔鹿野伴治居延御手充〕 二月	一通き二六		
諸伺書類并御尋下案入 亥一二月ヨリ〔き二五ノ二六〕	袋入		
大検見御用懸御手充伺書類	き二六		
1 郡奉行伺書并附札 磯田音門 九月	一通		
2 家老差図書 恩田頼母 竹村金吾宛 九月五日	一通		
<hr/>			
関屋村有地改御用懸御手充伺書類			
1 郡奉行伺書并附札 九月	一通		
2 御収納郡方伺書并附札〔増御手充〕 一二月	一通		
御収納郡方伺書并附札〔金児忠兵衛度々立帰出府御手充〕 一〇月	一通き二九		
海野藏主立帰出府賄被下方評議書類 一一月	き二九		
1 御収納郡方伺書并附札 一一月	一通		
2 御収納郡方伺書稿 一一月	一通		
3 艸方掛申上書稿	一通		
4 見合書〔役料詰高ニよる賄人数割合高〕	一通		
島田長庵出府御手充并詰中御借人評議書類 一一月	き二九		
1 御収納郡方御尋物答書〔出府手充〕	一通		
2 〃 御収納郡方御尋物答書〔家来御借人〕	三通		
菅沼小弥太割返渡方評議書類	き二九		
1 御収納郡方伺書稿 一一月	一通		
2 御収納郡方伺書并附札 一一月	一通		
3 艸方掛伺書〔菅沼のほか白井平左衛門、坂口登詰高〕	一通		
4 艸方掛伺書稿 一一月	一通		
御収納郡方伺書 見合書共〔真田志摩立帰出府御手充〕 一一月	二通き二九		
足輕御切米渡方調 亥一二月	一通き二九		

御収納郡方同書并附札〔御藏奉行御手充渡方〕
嘉永四年二月

一通き二五

家中詰高割返代金調差出覚 亥一二月

一通き二〇〇

山岸助藏割返高伺書 見合書共

二通き二〇四

粃方掛取次状〔元作組軍藏被下粃返上取扱〕 嘉
永五年閏二月

二通き二〇一

御預所村山村孫八長寿被下粃渡方評議書類

き二〇三

1 礖田音門用状 山寺源太夫宛 五月一九日

一通

2 粃方掛御尋物答書 五月

一通

御収納郡方御尋物答書〔中島直藏詰順替〕 六
月

一通き二〇三

御勝手元ノ

御勝手元ノ御尋物答書

〔清水一郎御借人〕 八月一三日

一通き八〇

〔奥坊主役佐藤元吉詰金〕 一〇月九日

一通き八二

〔佐田又兵衛交代詰合〕 一〇月九日

一通き八三

〔御警衛方調役江戸詰粃〕 一〇月二九日

一通き八三

御収納郡方同書〔長命平三郎太田陣屋詰高〕 一
〇月一二日

一通き八四

〔目付方調役詰給〕 一〇月一九日

一通き八五

〔下目付詰並被下物〕 一〇月

一通き八六

〔竹内小左衛門役料高之内品渡内願〕 一〇月

一通き八七

〔貞松院様御供向御借人賃錢上納〕 一一月一七日

一通き八六

〔江府書役ニテ小僧役助申立〕 一一月一七日

一通き八六

〔御膳立兩人切米渡方内願〕 一二月八日
御勝手元ノ御尋物答書稿

一通き八〇
き二〇六

1 〔去戌年大野健左衛門等六郷川支御手充〕 九月一
日

一通

2 〔仕立物師御手充〕 九月一二日

一通

3 〔鈴木栄懐御手充〕 一〇月

一通

4 〔先立詰足輕居延御手充〕 一〇月一〇日

一通

5 〔当春参府御供帰殘御徒目付等御手充滞〕 一一月
一八日

一通

6 〔北山藤三郎等御手充申立〕 一一月二三日

一通

7 〔北山藤三郎等門弟御手充〕 一一月

一通

8 〔友野隼太郎文学修業願〕 一二月五日

一通

9・10 〔刻付飛脚御手充〕 一二月八日

二通

御勝手元ノ御尋物答書

き二〇五

1 〔清水一郎・小宮山三吉鉄砲方勤中御手充〕 八月
一四日

一通

2・3 〔家具番兼駒吉出府被下物〕 一〇月

二通

4・5 〔御供足輕人数調并被下物〕 一〇月五日

二通

6 〔昨戌太田詰足輕御手充〕 一〇月九日

一通

7 〔太田表厩小触御手充〕 一〇月一八日

一通

8 〔同前〕 一一月二日

一通

9 〔普請方杖突急出府被下物〕 一一月

一通

10 〔御前様・貞松院様御台所帳附御手充〕 一〇月一
九日

一通

11	〔同前〕 一二月一九日	一通
12	〔御両方様御台所帳附御手充〕 一一月 御勝手元ノ御尋物答書	一通 き二九三
1	〔荒井弥平上京御供立婦被下物〕 六月九日	一通
2	〔足輕臨時増人数繰出〕 八月	一通
3	〔浪士一条出張御手充〕 一二月一〇日	一通
	御勝手元ノ御尋物答書	き二九四
1	〔上京御供小頭被下物〕 六月七日	一通
2	見合書〔同前被下物調〕	一通
3	〔同前再答〕 六月八日	一通
	御勝手元ノ御尋物答書	一通
	〔貞松院様住居向普請職人昼御扶持〕 九月一〇日	一通き四〇〇
	〔木挽・屋根屋見習之者へ昼御扶持〕 九月一日	一通き四二二
	〔大工・木挽昼御扶持再答〕 一〇月二九日	一通き四三三
	〔普請方杖突昼御扶持〕 一一月	一通き四三三
	○	
	小頭孝太夫給金評議御尋物答書 二月	一通き八二二

手 充

手充達書

家老通達状〔田中万作立帰出府拝借金御払切并別段御手充被下之旨〕 矢沢監物 寺内多宮宛 二月八日

一通き一〇四二

奥坊主給扶持内渡達書 御側御納戸宛 寅四月一八日	一通き一五五
御手充増被下方下調 駒村佐十郎 二月	飯一冊き九三三
学校守器并使丁御手充達書 会計懸宛	一通き九五五
御手充被下達書〔西村源兵衛・田中権之助・柿崎良作分〕 郡政副主事宛	一通き九六八
御手充被下達書〔大日方弥惣治父子関門出勤手充〕 会計懸宛 (明治四年)	一通き九四四
御手充被下達書〔下給仕三人出精手充〕 同前宛	一通き九四五
御手充被下達書〔戸根山徳三郎他四人元監使加役〕 同前宛	一通き九四六
御手充被下達書〔宮沢彦治・高橋清蔵上金出精〕 同前宛	一通き九四七
御手充被下達書〔学校仕丁六人手充糶〕 同前宛	一通き九四八
月給渡方達書〔西村重郎免役前月給〕 同前宛 (明治四年)	一通き九四九
役 料	
嫡子勤御役料并御徒士別家被下高申上書 郡方 天保二二年二月	一通き八五五
嫡子勤御役料并御徒士別家被下高申上書 郡方 卯二月	一通き八六六
御役料江戸割返高調〔鎌原司馬、恩田新六分〕	四通き八九〇
御知行御宛行中以上之向嫡子本人共御役料仮調出	一通き八六七
御役料増減申上書扣 寅九月	一通き八六八
職方町方手附御役料評議書類	き八四四

1 磯田音門・市場茂右衛門申上書 三月	一通	金切米御口之者御手充増願書類写	き 六五
2 御勘定吟味御尋物答書 三月二九日	一通	1 金切米御手充願書 寅三月	一通
3 御勝手元ノ御尋物答書 四月一九日	一通	2 当三月交代御口之者御手充願書 一月	一通
4 御勘定吟味再御尋物答書 四月	一通	3 御口之者御手充願書 三月	一通
元下目付御役料渡方評議書類	き 六九	4 詰御手充金被仰渡書 三月	一通
1 榎方掛伺書〔柳沢七十右衛門御答退役ニ付御役料取計〕 一一月	一通	御手廻金切米之者御手充歟願御尋物答書	き 六六
2 家老差図書 恩田頼母 竹村金吾宛 一二月一日(混入史料カ)	一通	1 御勝手元ノ御尋物答書 三月二四日	一通
3 御收納郡方評議答書并附札 一一月	一通	2 御勘定吟味御尋物答書 三月二八日	一通
4 家老差図書 恩田頼母 磯田音門宛 一一月二七日	一通	御刀番再願書〔詰給榎数ニ直シ被下方〕 八月	一通 六七
御口吉兵衛御役料金伺書 跡式申付書付写添 一〇月	二通 八七	御切米継等五ヶ年平均調 子二月	三通 六八
元ノ役内々申上書案〔役料増方〕 一二月	一通 二六	金御切米御手充調書類 慶応二年	一綴 六九
諸 手 充		詰辻足輕雇錢増願評議書類 慶応三年	き 八〇
御手廻之内金切米之者御手充被下筋評議書類		1 詰辻足輕惣代再願書 惣代五人 割番所宛 五月	一通
出府御手充筋歟願書 長谷川藤左衛門宛 慶応二年一月	一通 六〇	2 割番添伺書 七月	一通
御手廻支配小頭添伺書 長谷川藤左衛門 御頭中宛 一一月	一通 六二	3 家老用状 真田志摩 鎌原伊野右衛門 赤沢助之進宛 八月一六日	一通
出府御手充筋再歟願書 長谷川藤左衛門宛 慶応三年六月	一通 六二	4 御勘定吟味再御尋物答書 八月	一通
御手廻支配小頭再伺添書 長谷川 六月	一通 六四	下目付御手充筋再御尋物答書 卯四月二七日	一通 三七
御勝手元ノ御尋物答書 卯一二月二五日	一通 六三	御手充伺書類 亥年	
		御收納郡方伺書并附札〔御蔵奉行節木代之内御手充〕 一二月	一通 七六
		長谷川三郎兵衛伺書并附札〔榎摺掛等一九人分〕 一二月一日	一通 七七

家老差図書 赤沢助之進 長谷川三郎兵衛宛 一二月一五日	一通き一七四	御口之者九左衛門金切米評議書類〔御手充増を願い不勤申立〕	き六七
長谷川三郎兵衛伺書〔大檢見元ノ等御手充〕一二月	一通き一七九	1 御馬奉行伺書 五月	一通
綴方掛伺書〔折返出府御手充〕 一二月	一通き一七〇	2 御勘定吟味御尋物答書 九月	一通
御收納郡方添伺書〔前号添〕 一二月一四日	一通き一七五	北沢源次兵衛存寄返答書〔節木代之内を以御手充之儀〕 岡嶋莊藏宛 一〇月四日	一通き一八三
御弘方用状〔帰府被下物弘方依頼〕 御金掛宛 九月一三日	一通き一四二	御藏奉行御手充評議書類〔節木代之内御手充〕	き一七〇
御雇御徒士御手充評議書類〔年中勤之者へ被下方〕	き一七三	1 竹村金吾伺書 一二月	一通
1 御徒士頭助添伺書 一月	一通	2 家老差図書 恩田頼母 竹村宛 一二月二日	一通
2 御徒士御雇名面申上書 御徒目付 二月	一通	納戸役用状〔小納戸窪田吉左衛門御手充渡方〕 郡方宛 一二月晦日	一通き一九三
3 御徒目付内々願書 巳一月	一通	学校番人御手充評議書類 一二月	き一九四
4 御勘定吟味御尋物答書 二月一三日	一通	1 御目付伺書	
御勘定吟味御尋物答書〔富岡文藏等居延御手充〕 二月二日	一通き一九五	2 御勘定吟味御尋物答書	
居延御手充被下方評議書類	き一九三	御刀番詰中御手充金評議書類	き一九九
1 割番伺書 足輕奉行添伺貼紙 御勘定吟味答書貼紙〔伊東善右衛門分〕 八月(一)一月	一通	1 御刀番内々申上伺書 一二月	一通
2 割番伺書 足輕奉行添伺貼紙〔依田莊吉分〕 八月	一通	2 御勘定吟味御尋物答書 一二月一七日	一通
御取次助御手充筋評議書類	き一九三	3 御勝手元ノ御尋物答書 一二月一六日	一通
1 玉川左門用状 鎌原伊野右衛門他二人宛 四月二九日	一通	4 御勘定吟味再御尋物答書 一二月一八日	一通
2 御勘定吟味申上書 四月	一通	御刀番詰中別段御手充評議書類	き二二三
		1 御勘定吟味申上書 三月二〇日	一通
		2 御刀番願書 二月	一通
		3 御刀番願書 一二月一六日	一通

4 前島友之進御尋物答書 二月	一通		5 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 九月二日	一通	
5 前島友之進申上書 二月	一通		6 御勘定吟味御尋物答書 九月一七日	一通	
6 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 一〇日	一通		徴兵足輕拝借金評議書類	一通	き二〇八
御刀番兩組三度渡御手充評議書類	一通	き二七三	1 徴兵一同願書 盛之助・金重他二人 大嶋・成本宛 九月	一通	
1 御刀番申立書写 二月	一通		2 徴兵小頭太鼓拝借願書 成本榮二 九月	一通	
2 御刀番申立書添書 長谷川藤左衛門 二月	一通		3 長谷川深美添伺書 九月	一通	
3 御刀番伺書 御勘定吟味答書貼紙 六月	一通		4 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 九月二九日	一通	
御手充金積申上書〔飯島新吉等七人分、寅年々末年間日数割〕	一通	き二七四	御尋物答書綴	一通	き二〇九
嫡子勤書役等詰中頂戴物申上書 見合書共	一通	き二七五	1 御勝手元々御尋物答書〔御手充并太鼓拝借〕 一一月二六日	一通	
御手充被下高見合書	一通	き二七六	2 御勘定吟味御尋物答書 一〇月一五日	一通	
○			3 前島友之進御尋物答書〔月々御手充被下方〕 一二月	一通	
坊主組頭伺書 添伺書案共〔北島三智跡目後御手充被下〕 閏四月	一通	き二七〇	4 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 二月九日	一通	
徴兵足輕御手充拝借金評議書類 慶応四年	一通	き二七〇	山越右馬允居延御手充評議書類 明治元年	一通	き二七〇
徴兵足輕願立書類	一通	き二七〇	1 山越右馬允内々申上書 一〇月	一通	
1 徴兵惣代願書〔朝廷月給差額支給等〕 金重・盛之助他 大嶋梅吉・成本榮二宛 八月	一通		2 御勘定吟味御尋物答書 一一月二七日	一通	
2 割番所江差出候印書写 百鉢小頭書下ケ写共 七月	一通		御城同心頭渡物評議書類〔上京御留守中〕 明治元年	一通	
3 徴兵隊小頭添願書 大嶋・成本 八月	一通		大御門番人渡物願書写 御城同心頭宛 一二月	一通	き二七二
4 長谷川深美申上書 八月	一通		御城同心頭添伺書 一二月	一通	き二七三

御城同心頭伺書〔御城詰番所渡物〕 一二月	一通き 一三
御勘定吟味御尋物答書 一二月二七日	一通き 一四
西村重左衛門上京延引御手充被下方評議書類 明治元年二月	き 三六
1 西村重左衛門歎願書〔四分一御手充頂戴〕	一通
2 御馬奉行添願書	一通
3 御勘定吟味御尋物答書 一二月一五日	一通
4 御勝手元ノ御尋物答書 一二月	一通
5 御勘定吟味再御尋物答書 一二月二三日 詰辻之者月々御手充被下方評議書類〔明治二年 カ〕	一通 き 三七
1 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 一月 二九日	一通
2 前島友之進添伺書 一月	一通
3 駒村佐十郎伺書 見合書共	一通
横田数馬御手充調書 明治二年	一通き 二七三
御留守詰御手充評議書類 明治二年	き 二七二
1 御勘定吟味御尋物答書 九月一二日	一通
2 西村重左衛門歎願書写〔昨年差出之写〕	一通
3 御馬奉行再願書 五月	一通
割番伺書 足輕奉行添伺貼紙〔徴兵并諸々番人御手 充被下〕 明治二年二月	一通き 二七元
御手充金札を以渡方評議書類	一通き 七〇七
家老用状 赤沢助之進 真田志摩宛 二月二六日	

金札渡方評議書類	き 二七三
1 前島友之進伺書 二月	一通
2 高野広馬御尋物答書 二月	一通
會計掛伺書〔認物助之者へ御手充〕 三月	一通き 二七四
絵図面仕立掛御賞御手充評議書類〔城内分間図 并藩中屋敷図〕	き 二七五
1 營繕方伺書 清十郎 三月	一通
2 監督御尋物答書 三月二四日	一通
3 見合書	一通
4 營繕方伺書 三月	一通
5 取調書 三月	一通
金兒友太郎家来峯村伊兵衛銃創御手充評議書類	き 二七〇
1 飯島与作伺書 五月	一通
2 御勘定吟味御尋物答書 六月一日	一通
月給御手充評議書類〔御在所行途中、東京へ立帰 之分〕	き 二七三
1 加藤直衛伺書 五月	一通
2 御勘定吟味御尋物答書	一通
御金番御手充筋評議書類〔三隔定泊ニ付〕	き 七〇〇
1 佐藤伊与之進伺書 五月二三日	一通
2 監督御尋物答書 五月晦日〔八月一八日取計〕	一通
割番伺書〔去巳年本詰先立四人被下物御下金〕 明 治三年六月	一通き 四〇〇

計政副主事伺書〔司藏当審定例御手充〕 一二月	一通き 三三
飯島勝休伺書〔元樹芸方仕丁冥加勤御手充〕 七月二〇日	一通き 六〇
會計掛御尋物答書〔御手木使丁去午御手充〕 七月	一通き 六二
御藏番内々伺書 去辰伺書写共〔郡方仲間五人出精御手充〕 一〇月	二通き 二六四
計政方御尋物答書〔公事方手附助五明万吉御手充〕 一二月一五日	一通き 六二
計政副主事御尋物答書〔吉原素之丞御手充〕 一二月	一通き 一七六
割番伺書 副隊長補添伺貼紙〔去巳年本詰足輕被下物代御下ケ金〕 二月〔二月一八日〕	一通き 四一
学政局庶務掌伺書 学監貼添〔兵学寮写本御手充〕 明治四年六月	一通き 六三
税手見習之者御手充再伺書類 明治四年	き 八三
1 民事懸添伺書 七月九日	一通
2 司税伺書 七月八日	一通
百鉢役并帳付等御手充評議書類 明治四年～五年	き 六二
1 割番伺書 一〇月	一通
2 見合書〔従前被下物〕 割番 一〇月	一通
3 見合書〔被下高凡積〕	一通
4 軍事少参事添伺書 一〇月	一通
5 監督御尋物答書 一二月四日	一通
6 會計懸御尋物答書 一月五日	一通
7 監督再御尋物答書 一月一七日	一通
浪人大日方弥惣治等関門動中御手充評議書類 明治五年	き 六四
1 大日方四郎兵衛へ御書取案	一通
2 大日方四郎兵衛伺書〔小根山村関門上番大日方弥惣治他二人分御手充、3・4添〕 一月	一通
3 関門出張日数覚〔仁左衛門分共〕 大日方弥惣治 大日方四郎兵衛宛	一通
4 関門出張日数覚〔大日方恒治郎分〕	一通
5 御手充金見合書	一通
6 監督御尋物答書 二月一〇日	一通
7 民事懸御尋物答書 二月	一通
8 監督再御尋物答書 二月一二日	一通
吉池与市御手充筋内々中上書〔宮繕庶務廃止後庶務助ニて出精〕 権少属補助 明治五年二月	一通き 一七三
戸籍掛助増御手充伺書 柘植彦六 明治五年二月	一通き 九七
元雇方使丁学校使丁御手充伺書 明治五年七月	き 九六
1 杖突伺書	一通
2 元宮繕方添伺書	一通
元用度方使丁御手充伺書 明治五年七月	き 九七
1 元用度方伺書〔焚炭御払代被下度〕	一通
2 元用度方伺書〔台所水汲勤御手充〕	一通
元民事方附飯島精之助御手充評議書類〔上坂之節京都表御用勤〕 明治五年	き 一七元
1 差図書 飯島精之助宛	一通

2 前島有年添伺書 八月五日	一通
3 玉井浅之進伺書 七月	一通
小野忠政在京中月給御手充被下方伺書 明治六年十一月	一通き 三九
元御台所向御手充被下願書 元御台所元々・元御台所帳付・元吟味方物書 明治六年十一月	二通き 九七
○〔き二五三〕二七三、もと一括史料〕	
岡嶋莊藏用狀〔大検見御手充渡方延引評議意見〕北沢源次兵衛宛 七月三〇日	一通き 二七二
金児丈助伺書 追申上書共〔大検見御用掛御手充〕八月、九月	二通き 一七〇
竹村金吾詰並御手充評議書類 一〇月	き 二五三
1 家老差函書 望月主水 宮下兵馬宛 二二日	一通
2 宮下兵馬再伺書 井附札 一〇月	一通
3 見合書	一通
出府居延御手充被下内願書 富岡文蔵・大塚宰治 二月	一通き 一七五
御供頭御刀番人減御手充再御尋物答書 卯三月二〇日	一通き 一七三
吟味役物書見習御扶持被下方評議書類	き 一七九
1 御郡方評議申上書 一一月	一通
2 見合書	一通
3 吟味役伺書 八月	一通
御預所御巡見之節用掛出精御手充評議書類	き 二七九
1 町方伺書 郡方答書貼紙 一二月	一通

2 〓 磯田音門・松木源八伺書 一〇月	二通
4 御巡見取調懸御尋物答書 一二月	一通
5 御郡方御尋物答書 五月	一通
上京御供御手充見合書	一通き 二七三
御目付内々申上書〔貝役助御雇組續治御手充〕八月五日	一通き 二七三
触頭月番中島丸出張所出勤之物書共御手充評議書類	き 二七七
1 家老用狀 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 一二月二七日	一通
2 公御用人伺書 一二月	一通
3 前島友之進御尋物答書 一二月	一通
4 御手充員数調	一通
5 御勘定吟味御尋物答書 一月	一通
公用方物書富岡茂助御手充伺書 前島友之進添伺書共 割番 巳六月	二通き 二七六
定押片桐乙治御手充評議書類 巳七月	き 二七七
1 御刀番添伺書 御勘定吟味答書貼紙 七月	一通
2 片桐乙治願書 巳七月	一通
丑年より辰年迄居延御手充被下願書 明治三年	き 二七三
1 山上伊三郎願書写 用度司・司金宛 五月	一通
2 山上伊三郎再願書 同前宛 七月	一通
3 用度司・司金添伺書 七月	一通

駒村佐十郎伺書〔京都詰之者御手充等金札歩増方〕 二月	一通き七六四	2 家老差図書 望月主水 磯田音門宛 五月八日	一通
戸籍掛助御手充評議書類	き二七〇	3 御收納郡方御尋物答書〔小納戸伴七他一人分〕 五月	一通
1 少属等伺書	一通	4 御收納郡方御尋物答書〔長岡富五郎他八人分〕 五月	一通
2 柘植彦六伺書 九月	一通	我妻類焼御手充拝借評議書類	き六四
3 戸籍掛助相勤名面	一通	1 御城同心頭伺書 四月	一通
4 見合書〔同掛本役及金札製造掛御手充高〕	一通	2 御勘定吟味御尋物答書 四月二日	一通
元武庫司事添伺書〔元西京手附助兩人御手充被下〕 明治五年七月	一通き二七五	藩中焼失御手充評議書類	き六五
武庫属伺書〔大沢庄吉上京御供詰高〕 七月	一通き二七五	1 會計懸申上書 三月二二日	一通
武庫司事伺書〔役方庶務助山崎多作御手充〕 七月 一〇日	一通き二七六	2 計監御尋物答書 三月二六日	一通
合藥製所御賄去年野菜料評議書類 元硝石合 藥製懸 元武庫司事答書貼紙 明治五年七月	一通き二七六	3 計監再御尋物答書 四月二三日	一通
午未兩年検見出役御手充伺書類	き二七二	4 御手充被下凡積	一通
1 兩年御手充高調書	一通	出張手充	
2 矢野唯見伺書写 戊五月	一通	日光御供小納戸以下御手充之儀御尋物答書 天 保一四年三月一八日	一通き二二三
3 矢野唯見伺書 酉九月	一通	日光御供足輕御手充評議書類 天保一四年	き四八
4 矢野唯見申上書 三月	一通	1 申上書 三月二八日	一通
5 出役後奇特申立御褒美被下案 八月二八日	一通	2 再申上書 四月二四日	一通
家扶局増御手充評議案〔給禄方・職禄〕	一通き二七六	3 御尋物答書 五月七日	一通
○		日光御供我妻御手充筋御尋物答書 四月七日	一通き二三五
居宅焼失御手充評議書類	き六六	割番小頭立婦御手充筋御尋物答書〔日光御供〕 天保一四年四月七日	一通き二〇六
1 差図通知状	一通		

寺沢大之輔等御手充筋評議書類〔大坂表へ武器廻送上乗之節当人及附人等〕元治元年〱慶応二年

き二〇元

1 在府御勝手元〱御尋物答書 七月

一通

2 御勝手元〱御尋物答書 四月

一通

3 心得書〔内評議箇条留〕寅五月一日

一通

4 御勘定吟味御尋物答書

一通

5 寺沢大之輔歎願書 一二月

一通

6 江府御勘定吟味御尋物答書 御勘定吟味答書貼紙 七月〔四月〕

一通

7 寺沢大之輔願書 御徒士頭助貼添 四月

一通

8 寺沢大之輔添願書 同前 六月

一通

9 寺沢大之輔願書 同前 六月

一通

10 御勘定吟味御尋物答書 七月

一通

11 御徒士頭助添伺書〔5号の添〕一二月

一通

12 御徒士頭助添伺書 六月

一通

13 江府御勘定吟味御尋物答書 御勘定吟味答書貼紙 七月〔四月二〇日〕

一通

御勝手元〱御尋物答書〔大田詰小頭以下御手充筋〕子四月二二日

一通き四〇三

御收納郡方伺書并附札〔御陣屋敷御目付方調役長詰被下物〕慶応元年閏五月

一通き七六〇

急速出府立帰足輕被下物評議書類写留 慶応二年

一通き八七四

京都詰足輕出張被下物評議書類 慶応四年

一通き七九

1 割番伺書 六月

一通

2 足輕奉行御尋物答書 六月

一通

3 割番伺書 七月

一通

4 臨時詰並被下物積書

一通

5 御勘定吟味御尋物答書 六月二五日

一通

6 御勝手元〱御尋物答書 七月一日

一通

善光寺上人京都表護送付人増御手充評議書類 慶応四年

き二五〇

1 御勘定吟味尋書〔内借金返上有無聞合〕閏四月八日

一通

2 赤沢助之進用状 鎌原伊野右衛門宛 四月一五日

一通

3 御手充拝借願書 宮沢小次郎他一人 四月一二日

一通

4 拝借金被下高案

一通

5 京都中老職御尋物答書 四月

一通

用状〔出張人帰国之節増御手充被下方〕耕之進 鹿野外守他一人宛 二月一二日

一通き二七六

磯田小藤太用状〔勢州代參被下金増之儀回答〕宮下孫兵衛宛 三月二日

一通き二〇六

竹村金吾・堀内権右衛門立帰出府御手充評議書類

き二九六

1 高田幾太伺書并附札 八月

一通

2 見合書〔天保二年先例〕

一通

3 竹村金吾詰並被下物取調

一通

小頭桜井勇作御手充評議書類

き九七

1 足輕奉行再伺添書 九月	一通
2 割番再伺書 九月	一通
3 御勘定吟味御尋物答書 九月二六日	一通
野村弥左衛門上京被下物評議御尋物答書写〔御勘定吟味・御勝手元々答書〕 九月一七日	一通き二〇三
御刀番伺書 御勘定吟味答書貼紙〔駕籠者出府御手充〕一〇月	一通き八五〇
鎌原伊野右衛門用狀〔金切米御口之者へ出府御手充被下方〕 佐藤為之進宛 一一月九日	一通き二六六
湯本源助・牧野大右衛門折返出府御手充伺書	一通
1 御收納郡方添伺書 一一月	一通
2 靱方掛伺書 一一月	一通
御收納郡方御尋物答書〔御手木兩人立帰出府被下物〕 見合書共 一一月四日	一通き二〇六
御勝手元々御尋物答書〔御前様御供立帰番士御手充〕 一一月一四日	一通き二〇三
用狀〔上京御供而組之者被下物渡方依頼〕 四人 宮下謙太夫宛 一一月	一通き九六
立帰出府御手充割返高評議見合書	一〇通き七〇
○	
嫡子等臨時出張之向増御手充評議書類 慶応四年閏四月	き五六
1・2 御勝手元々伺書	二通
3 御勘定吟味御尋物答書 閏四月二九日	一通
中山道出張之足輕御手充評議書類〔勅使通行ニ付追分宿外宿々出張〕 明治元年	き五二

1 出張足輕人数取調一紙	一通
2 割番伺書 足輕奉行添伺貼紙 閏四月〔七月一五日〕	一通
3 割番再伺書 足輕奉行添伺貼紙 一一月	一通
4 御勘定吟味御尋物答書 一一月	一通
岩村田藩御預々人請取出張御手充増評議書類 明治元年	
老番小銃小頭願書〔雨具料御下ケ〕 小山繁之助・永原新之助 一一月	一通き二四
宮嶋嘉織伺書〔雨具料御手充増〕 一一月	一通き二五
御勘定吟味御尋物答書 一一月一三日	一通き二六
從東京立帰足輕并松原者御手充評議書類 明治二年	き二九
1 足輕奉行添伺書 一一月	一通
2 割番伺書 一一月	一通
3 割番伺書〔池田儀左衛門組作治分〕 一一月	一通
4 前島友之進御尋物答書 一一月	一通
西京表御用済新小銃組御手充被下方評議書類 明治二年	
新小銃組惣代願書〔金札割合直し合銀御下ケ〕 宇兵衛・軍兵衛 割番所宛 四月	一通き二一
割番伺書 足輕奉行添伺貼紙 五月	一通き二二
御勘定吟味御尋物答書 五月九日	一通き二三
割番伺書 銃兵副隊長補添伺貼紙〔貞松院様御供之者御手充御下ケ〕 五月	一通き二〇〇

岩村田藩土西京護送帰御手充評議書類	明治四年	き〇五二
1 割番伺書 副隊長補添同貼紙	二月（二月一八日）	一通
2 割番伺書	三月	一通
3 會計掛御尋物答書	四月	一通
4 計監御尋物答書	五月二三日	一通
陣場方杖突桜井久太御手充評議書類〔東京出張道中御手充〕	明治二年	一通き〇四
桜井久太願書	二月	一通き九六
割番伺書	二月	一通き九六
前島友之進御尋物答書	二月	一通き九六
上京御供御手充評議書類		一通き二五
御供御徒士御手充拝借評議書類		一通
1 前島友之進御尋物答書	二月	一通
2 御供御徒士御手充拝借願書	一月	一通
3 衣服染仕立代積書写		一通
上京御供郷夫江荷物賃錢被下方評議書類	明治二年	き二九六
1 御勘定吟味御尋物答書	二月晦日	一通
2 足輕奉行伺書	二月二七日	一通
3 割番伺書	二月	一通
上京御供其他被下物評議書類		き二九七
1 足輕奉行伺書 御勘定吟味答書貼紙	一二月一七日	一通
2 割番伺書	一二月	一通
3 割番伺書〔田町辺臨時出役〕		一通
御乗切之節御供馬口取之者増御手充評議書類		き二九八
1 御刀番伺書	一月	一通
2 前島友之進御尋物答書	二月	一通
上京先立之者御手充評議書類		き二九九
1 竹内金左衛門内々伺書	一一月	一通
2 御勘定吟味御尋物答書	一一月一五日	一通
足輕八重勤艱代不足金御下々評議書類		き三〇〇
1 割番伺書	九月	一通
2 足輕奉行添伺書	九月	一通
3 割番再伺書	九月	一通
4 割番伺書 副隊長補添同貼紙	未二月	一通
5 飛脚才領組八重治願書	閏四月	一通
荒井伴之助伺書 副隊長補貼添〔上東京御用御手充被下方〕	明治三年閏一〇月	一通き二〇一
午未兩年検見御手充振合御尋物答書		一通き二八
○戊辰戦争出張		
甲府出張番士御手充伺書 御勘定吟味答書貼紙	慶応四年四月	二通き二〇六
春原織右衛門用状〔甲府炊出し、小隊引揚其他〕		一通き二五
前島友之進宛	七月二二日	

具役ニ而甲府出張中増御手充評議書類 慶応四年		き二四九
1 御雇組峯治歎願書 八月	一通	
2 御目付御尋物答書 八月	一通	
3 御勘定吟味御尋物答書 一〇月一五日	一通	
4 足輕奉行御尋物答書 一〇月	一通	
春原小八郎甲府表御手充評議書類 明治元年	き八五	
1 春原小八郎書狀 牧野大右衛門宛 一二月二八日	一通	
2 牧野大右衛門添伺書 一二月二八日	一通	
3 御勘定吟味御尋物答書 一二月二八日	一通	
下筋出張之者御手充評議書類 明治元年	き九一	
1 割番伺書 一二月	一通	
2 足輕奉行添伺書 一二月四日	一通	
3 御勘定吟味御尋物答書 一二月一日	一通	
草川吉右衛門被下物評議書類〔新発田御用〕	き二〇〇	
1 草川吉右衛門伺書 一一月	一通	
2 御郡方添伺書 一一月一三日	一通	
3 御勘定吟味御尋物答書 一一月一七日	一通	
去辰甲府出張大銃方附属一同御手充伺書 小幡金一郎 明治二年四月	一通き二〇五	
甲府出張御手充請取不足分引合願書 明治二年	一通き二〇四	
水原県出征入費覚書	一通き二〇三	
去辰甲府出張日限并御手充金申上覚 矢野求馬	一通き二〇二	
綿貫謙蔵下筋出張御手充評議書類		き二〇一
1 綿貫謙蔵伺書 一二月	一通	
2 監察御尋物答書 一二月	一通	
3 竹内新七御尋物答書 一二月	一通	
4 計政副主事御尋物答書 一二月二七日	一通	
吉原慎吾御手充被下願書 〔下筋出陣中大銃方助被仰渡ニ付〕 一二月	一通き二〇六	
去辰甲府出張中増御手充評議書類 明治五年	き八六	
1 監督御尋物答書 九月二八日	一通	
2 元御雇組貝役落合嶺治歎願書 七月	一通	
成本治之助願書 〔去已出張入料御下ケ〕 明治八年五月	一通き二〇四	
○飛脚手充		
御收納郡方御尋物答書 〔飛脚逗留賄代〕 九月一〇日	一通き二七六	
割番伺書 口上書別紙共 〔京都への刻付飛脚増入料〕 慶応四年閏四月	二通き二七三	
御勘定吟味御尋物答書 〔同前〕 九月一六日	一通き二七四	
足輕清治郎江府へ飛脚途中於輕井沢宿病氣ニ付御手充評議書類 慶応四年	き四九三	
1 割番伺書 足輕奉行添伺貼紙 御勘定吟味答書貼紙 八月 〔九月一〇日〕	一通	
2 清治郎歎願書 小幡丈左衛門宛 八月	一通	
3 輕井沢宿木曾屋伊兵衛差上一札 〔当宿にて病氣療養之旨〕 松本清治郎宛 八月	一通	

7 普請方御尋物答書 一二月二五日	一通	御用在中賄代御弘切評議書類〔御役方調役中村惣左衛門、合衆製にて永井・上山田兩村出張〕	き〇五五
8 御勘定吟味御尋物答書 二月四日	一通	1 武具奉行伺書 七月二八日	一通
9 御尋物答書稿 二月	一通	2 御勘定吟味御尋物答書	一通
御勝手元ノ御尋物答書〔小頭齊藤房吉臨時出府帰途本馬被下之儀〕 九月二五日	一通き〇四六	3 賄代請取書 中村宛 七月二〇日、二二日	四通
御勝手元ノ御尋物答書〔小頭急出府馬代被下之儀〕 一二月二三日	一通き〇四七	小銃組小頭等御供道中賄代不足分下渡評議書類	き六〇
〇賄代		1 足輕奉行添伺書 一二月二日	一通
割番申上書〔於京地御賄代御聞濟之儀〕 慶応三年五月	一通き六七	2 小銃組四番小頭再伺書〔五十人一泊一昼分〕 辰一二月	一通
上京御供道中賄代増被下評議書類 慶応三年、明治元年	き六六	3 三番四番小銃組小頭再伺書〔寅三月同十一月賄代并人馬賃錢〕 辰一二月	一通
1 寺内多宮伺書 二月	一通	4 御勘定吟味御尋物答書 二月九日	一通
2 御勘定吟味御尋物答書 二月一日	一通	用狀稿〔立歸出府人足九十五人帰路鼠宿村賄鑑札渡方依頼〕	一通き〇四九
3 京都割番助伺書〔陣場方普請人賄代〕 卯二月	一通	手充中借	
4 御勘定吟味御尋物答書 一二月二三日	一通	文聰院様御刀番伺書〔御供向組之者御手充代中借〕 一月	一通き九一
5 小銃方小頭申上書〔小銃組出府賄代〕 二月	一通	給祿掛伺書并附札〔野村寛治上東京御手充〕 六月	一通き〇四五
6 寺内多宮添伺書 二月	一通	計政副主事御尋物答書〔捕亡出役入用中借〕 二月二五日	一通き一七五
7 御勘定吟味御尋物答書 一二月二三日	一通	郡政副主事伺書〔宮原嘉兵衛檢使立会出役入用中借〕 六月	一通き一七六
8 小銃方小頭申上書〔小銃組帰路賄代〕 二月	一通	御手充拝借	
9 御勘定吟味御尋物答書 一二月二三日	一通	御手充年賦拝借金証文案紙	一通き〇八一
10 御勝手元ノ御尋物答書 辰八月九日	一通	御預所勘定役着服拝借料評議書類 明治元年	き一八九
11 御勘定吟味再御尋物答書 九月一日	一通	封入	

1 御預所勘定役願書 相原音五郎・駒村佐十郎 九月	一通	き二〇〇	御東行御供足輕等拝借金評議書類 明治二年	一通き 三三七
2 北沢幟之助伺書 長谷川三郎兵衛添伺貼紙 九月二日	一通		御供辻足輕惣代願書〔滯京中季節替ニ付夏服代拝借〕雅五郎・万作 割番所宛 四月	一通き 三五六
3 家老用状并勘返状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 九月三日(一〇月一五日)	一通		割番伺書 四月	一通き 三五六
4 御勘定吟味御尋物答書 九月二〇日	一通		割番伺書〔郷夫之者同断〕 四月	一通き 三五六
5 御勝手元ノ御尋物答書 一〇月一三日	一通		京地殘人別名面 割番	一通き 三六〇
関田莊助着服料拝借評議書類	一通	き二九〇	前島友之進御尋物答書 五月	一通き 三六一
1 御預所勘定役願書 相原音五郎・駒村佐十郎 九月	一通		手充等請取	
2 北沢幟之助伺書 九月二〇日	一通		極密御手充請取一札 藤田繁之丞 高田幾太宛 嘉永六年七月、一二月	二通き 四〇〇
3 家老用状 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 九月二〇日	一通		北山安世御手充金請取証文 山寺源太夫 磯田音門宛 安政五年二月	一通き 四〇一
4 御勘定吟味御尋物答書 一〇月一日	一通		北山安世御手充金請取証文 山寺源太夫 斎藤友衛宛 酉九月	一通き 四〇三
家老用状 長谷川深美御尋物答書入〔御預所掛関田莊助着服料拝借〕 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 一一月一日	二通き 二八六		御長屋荷物料請取証文〔太田陣屋長詰用〕 小宮山甲之助 谷口左伸・坂口又治他二人宛 文久二年一〇月	一通き 四〇七
御刀番御手充拝借評議書類 明治二年	き二〇〇		御手充金其他請取証文綴 慶応二年	
1 御刀番願書 七月	一通		本馬宍正代請取証文 山崎友吉 六月	一通き 四〇〇
2 御刀番別紙〔辰十二月於御在所内願書写〕	一通		御馬飼料穿鑿入料請取渡証文 竹村半蔵 三月	一通き 四〇一
3 御刀番別紙〔二月於京地内願書写〕	一通		御馬爪髪御手充請取渡証文 御厩小頭稲葉恒作 三月	一通き 四〇三
4 御勘定吟味御尋物答書 七月二八日	一通		郡代御貸附拝借金歩合請取納証文 相原音五郎・玉井繁之助 二月	一通き 四〇三
拝借金三十年賦返納勘定覚	三通き 六六		兩組御供之者日増旅籠料請取渡証文 長谷川藤右衛門 二月	一通き 四〇四

御馬御領ノ飼料請取渡証文	竹村半藏	四月	一通き	六五	
御台所仲間御手充請取渡証文	小林太一郎	四月	一通き	六六	
兩組之者旅中御手充請取渡証文	長谷川藤右衛門	四月	一通き	六七	
定押御手充金請取渡証文	小坂忠兵衛	五月	一通き	六八	
足輕松原者御扶持分雜用給金請取渡証文	酒井渡七他	五月	一通き	六九	
丑年御田米積智入料請負金請取証文	同前	五月	一通き	七〇	
御内用金差出手形	齊田虎尾	五月	一通き	七一	
御抱鷹給金請取渡証文	鷹頭甚八	五月	一通き	七二	
珠光院様へ被進金請取渡証文	齊田虎尾	七月	一通き	七三	
御内用金差出手形	柘植嘉兵衛	七月二日	一通き	七四	
御内用金差出手形	齊田虎尾	七月	一通き	七五	
御内用金差出手形	同前	六月	一通き	七六	
御内用金差出手形	同前	四月	一通き	七七	
御内用金差出手形	同前	四月	一通き	七八	
御内用金差出手形	同前	慶応元年一二月	一通き	七九	
当寅夫給金請取証文	清水一郎	七月	一通き	八〇	
寅年夫給金請取証文	根来斧右衛門	七月	一通き	八一	
寅年夫給金請取証文	小宮山三吉	七月	一通き	八二	
寅年夫給金請取証文	清水新太郎	七月	一通き	八三	
寅年夫給金請取証文	多田謙三郎	七月	一通き	八四	
役中御手充金請取証文	同前	七月	一通き	八五	
夫給金請取証文	諏訪刃守之進	五月	一通き	八六	
下目付立婦御手充金請取証文〔大殿様湯治御供〕	峯村富左衛門	四月	一通き	八七	
滯京中御手充金請取証文	鈴木栄慎	四月	一通き	八八	
滯京中御手充金請取証文	宮岡宗清・月岡桂齋	四月	一通き	八九	
御取次御手充金請取証文	竹村半藏・久保喜代馬他三人	慶応二年五月	一通き	九〇	
御取次御手充金請取証文	久保喜代馬	慶応二年五月	一通き	九一	
上京御供出精御手充金勘定一紙	慶応二年一月	五月	一通き	九二	
1 勘定一紙 齊藤房吉	池田富之進・小野熊男他三人宛(吟味・見届)		一通き	九三	
2 御手充金請取渡証文	齊藤房吉	元治元年六月	一通き	九四	
3 御手充金請取渡証文	荒井伴之助	元治元年六月	一通き	九五	
4 御手充金請取証文	荒井弥平・荒井伴之助	元治元年六月	一通き	九六	
西丸大手御門番勤番御手充請取証文綴	慶応三年七月・四年三月		一綴き	九七	
未年御手充金請取書	中沢量三郎・浦野長之助他二人	春山喜平治他宛	明治六年一月	一通き	九八
文武修業御手充前借証文	片桐重之助・宮本慎助・春山磯治宛	安政元年一二月・二年二月		き	九九

1 北山安世 (小山藤三郎分)	一通
2 関田莊助 (大草安尾分)	一通
3 片桐重之助 (岩下鉄之助分)	一通
4 岩下左源太 (矢島順太郎分)	一通
5 堤右兵衛 (倅、堤千次郎分)	一通
6 西村十郎右衛門 (弟、西村重尾分)	一通
文武修業御手充前借証文 榎方懸	き 七六
1 長谷川安太郎・卜木廉平 寅一二月	一通
2 矢島源左衛門 (倅、順太郎分) 安政三年一月	一通
3 齊藤増喜 (倅、新藏分) 安政二年二月	一通
4 水井忠治 (岡野安三郎分) 安政二年一月	一通
5 長谷川藤藏 (倅、安太郎分) 安政二年三月	一通
6 金井諫 (倅、清八郎分) 安政二年九月	一通
7 春日榮作 (大日方孫三郎分) 安政二年二月	一通
8 齊藤増喜 (倅、新藏分) 安政二年二月	一通
9 入久左衛門 (遠藤清人分) 安政二年二月	一通
10 堤右兵衛 (倅、千治郎分) 安政三年一月	一通
11 長谷川藤藏 (倅、安太郎分) 安政三年二月	一通
12 中島渡浪 (道貢分) 安政三年三月	一通
13 片桐総左衛門 (小野重四郎分) 安政三年三月	一通
14 片桐総左衛門 (岩下鉄之助分) 安政三年三月	一通
15 堀内莊治 (青木榮作分) 安政三年三月	一通

16 岩下左源太 (弟、章五郎分) 安政三年三月	一通
17 田中増治 (長谷川安太郎分) 安政三年六月	一通
18 小野権兵衛 安政三年十二月	一通
19 笠原平六郎 安政四年九月	一通
滞御扶持拝領願連署状「七六と一袋入」	一通き 七九
武芸修業御手充金請取渡証文 窪田利左衛門他二名 片岡弘人宛 慶応二年十二月	一通き 九三
御供駄賃銭請取渡証文 松下賢吾 文久二年二月	一通き 九六
馬銀請取証文 小泉浅右衛門 文久三年一月	一通き 九八
抱薦給金 (ト手充等請取)	一通 一〇〇
抱薦給金請取証文 薦頭甚八 慶応二年十一月	一通 一〇〇
被下金	
村上英俊母并弟江被下金請取書類	
子年分請取渡証文 竹内晋平 嘉永六年二月	一通き 一〇六
寅年分請取証文 村上英俊 高田幾太宛 安政二年二月	一通き 一〇九
辰年分請取渡証文 清水新六 竹村金吾宛 安政四年一月	一通き 一七〇
午年分請取渡証文 長谷川三郎兵衛 宮下兵馬宛 安政五年十二月	一通き 一七一
亥年分請取渡証文 大熊謙太郎 草間一路宛 文久四年二月	一通き 一七三
亥年残分請取切手 村上寛次郎 宮下謙太夫宛 文久四年二月九日	一通き 一七四

亥年分請取切手	同前	同前宛	元治元年三月六日	一通き 五五	仕 着	御供火事羽織代金請取書 水野芳之助 関山平治・湯本十学他宛 嘉永六年二月	一通き 九四
内借金請取切手	同前	同前宛	元治元年四月二十九日	一通き 五六		道具拝借願書〔出張夫人法被笠〕 青木謹一郎宛 二月	一通き 三七
子年分前借請取切手	同前	同前宛	元治元年五月一四日	一通き 五七		着領拝借願書〔小手袖脇当〕 川崎仲太郎他三人 青木謹一郎宛 二月二十九日	一通き 三三
子年分請取渡証文	堀内太一郎	水野清左衛門宛	元治二年二月	一通き 五三		御尋物答書〔小宮山登仕着代并夫給被下方〕 卯三月七日	一通き 六五
請取切手	村上寛次郎	宮下謙太夫宛	元治二年四月一六日	一通き 五八		兩組之者へ股引御渡評議書類〔御手廻・御駕籠之兩組〕	き 六五
權右衛門書狀写〔村上寛治郎頂戴物御下ヶ願〕 宮下孫兵衛宛	一月一日			一通き 五九		1 長谷川藤左衛門伺書 巳二月	一通
被 下 物						2 御刀番伺書并 附札 二月	一通
被下物目錄写〔袴、御手充金其他〕 文化九年四月、 文政元年三月				一通き 九三		3 前島友之進御尋物答書 三月	一通
經節被下覺 万延二年				一通き 二六		御駕籠看板代仮領り書 近藤権内 酒井市治・水野清右衛門宛 巳一月	一通き 九五
子年春被下物覺				一通き 二六		其 他	
徴兵婦休ニ付金子軍服等被下物進達書類 明治 二年四月				き 二二	引越御手充代積書〔各職別之車・人足・大工割当数代料〕 天保二二年六月	横長半 仮二冊き 一〇七	
1 軍務官御書付写 内訳目錄共 真田信濃守宛 四月				二通	御供馬口付之者足袋代金増願書 備後屋八兵衛片桐乙治宛 明治二年一月	一通き 八三	
2 金子包紙				一枚	御家従伺書 別紙明細書共〔御駕籠揚人看板代等請取度旨〕 明治三年閏一〇月	二通き 七三	
3 長谷川平次郎申上書〔被下之趣并金品差送〕 四月三日				一通	給 禄 方		
4 徴兵人名面				一通		長野県布令写〔士族卒家禄収届届差出方〕 松代住貫属取締中 明治五年四月八日	一通き 七九
5 家老用狀 赤沢助之進 用番宛 四月三日				一通			

華士族卒米金渡方取調書上 下書

士族卒給禄ノ高 松代庁

改正現米高書拔「小林齊太、八田平三郎、久保三郎三人分」

旧藩士禄制取調書書式写

富永新平書状「給禄取調至急差出方依頼」 春山喜平治宛 四月一三日

家禄書出し書式改正伺書「地方取と蔵米取差別可立旨」 高野秀叟 七月二六日

適宜改正

計監御尋物答書「給禄適宜割合之儀旧御徒士席取扱士族並」 一月

給禄適宜改正ニ付高直シ評議書類 明治四年

1 長谷川深美申上書写 明治三年

2 竹内小左衛門歎願書 理事宛 一月

3 三浦助次郎歎願書 理事宛 二月一〇日

4 富岡文蔵・森五十三他二人歎願書 添書共一月

5 會計掛伺書 一月二二日

6 森木一二三願書 二月一四日

7 久保三郎願書 理事宛 四月二二日

8 適宜直シ高試算覚

9 適宜改正五ヶ条尋合書 二月一五日

10 田中左吉・小泉市二願書 二月

給禄適宜問合返答書 明治四年～五年

元松代庁問合書 返答下札「給禄適宜処分」 元中津庁 一二月

元松代庁問合書 返答下札「同前」 元淀泉 二月

元忍県返答書「同前」 元松代県宛 一月

元前橋県返答書「同前」 元松代県宛 一月

富永新平用状「給禄渡方適宜取調」 駒村佐十郎宛 四月六日

給禄適宜向々御試稿

給禄適宜渡高見合書

士族卒給禄適宜問合書綴

「高遠庁、上田庁、飯山庁、高島庁」

旧小納戸給禄適宜精算書類 松代佐藤則善・前島好謙 東京大熊教政・河原理介宛 明治一四年二月

封入

1 旧官員用状写 佐藤則通・長谷川昭道 令扶宛

2 差引精算明細書

3 献上金願書写 徳嵩十助他三人 令扶宛

4 公債証書売渡証写 同前 伊藤盛太郎宛

現米渡高取調書

職 禄

白井要人職禄達書 計政副主事宛

中俣俊平職禄達書 同前宛

一通き二〇八五

一通き二〇八六

一通き二〇八七

二通き二〇八八

一通き二〇四四

五通き七四六

四通き七四五

一綴き七四八

き二〇三九

一通き七四四

一冊

一通

一通

二通

一通

一通

一通

一通

一通

一通

き二〇三八

一通

一通

一通

一通

一通き二〇三三

一通き七四四

一通き二〇〇七

月給渡方御尋物答書 一月	一通き100五	給禄掛伺書 會計掛貼添〔渡辺大属上東京御手充中借〕四月五日	一通き10七七
月給等被下物調差出書 明治二年二月	一通き 七五	給禄掛伺書并附札 會計掛添伺貼紙〔長岡権少属上東京御手充中借〕四月	一通き 八四
去年年在東京役員職禄被下方申上書 柘植彦六 一月	一通き100八	去已品々被下物之内中借評議書類	き10一六
官給残り分下々渡願書 依田謙次郎・高久慶次郎他四人 学校掛宛 明治四年一〇月	一通き1000	1 達書 給禄掛宛 六月一八日	一通
在京中職禄頂戴伺書 富岡判六 明治四年一月	一通き100元	2 達書 計政副主事宛	一通
民事懸伺書〔元市政方捕亡月給之内未済分〕 明治五年一月	一通き100六	3 給禄掛伺書 六月	一通
家令以下月給御手充評議往復書状 月給表案共 三月一〇日	三通き 九七三	給禄掛伺書并附札 計政副主事添伺貼紙〔藩中給禄七月代金渡中借〕七月一〇日	一通き100三
給 禄 方		會計掛伺書并附札〔藩中給禄継合手形〕七月	一通き101一
會計懸伺書 渡方取調書共〔給禄渡方〕二月	一通き10三	達書〔武田斐三郎御借人代り被下米〕 給禄掛宛 七月一二日	一通き100一
吉原慎吾隠居御宛行評議書類 明治四年	き1010	達書〔真木其他学政副主事へ可渡〕 給禄掛宛 一〇月三日	一通き100一
1 吉原慎吾願書 三月二日	一通	達書〔隔月渡給禄当年並可渡旨〕 會計掛宛 明治四年	一通き10四
2 給禄掛伺書 三月	一通	達書〔大熊董官禄残分渡方〕 會計掛宛	一通き10一五
3 會計掛伺書 三月	一通	諸伺御達 給禄方 明治四年八月ヨリ〔き四七〕翌、翌々〔翌元各合綴〕	袋入
4 被下物達書 會計掛宛	一通	給禄掛御中借伺 會計掛貼添〔北村与右衛門七月渡粃代金〕八月	一通き 四七
5 給禄掛伺書 二月	一通	給禄方御中借伺并附札 會計掛貼添〔去年在京中職禄二人分〕八月二七日	一通き 四六
原悌次郎給禄渡方評議書類 (明治四年カ)	き1011	給禄方御中借伺 會計掛貼添〔去年中手木使丁出精御手充被下粃代〕八月二二日	一通き 四元
1 達書 給禄掛宛	一通		
2 達書 會計掛宛	一通		
3 會計方伺書 三月	一通		
4 給禄掛伺書并附札 會計掛添伺貼紙〔去年年分之内七月渡中借〕五月	一通		

給禄方御中借伺并附札 會計掛貼添〔去午治水 手出役中賄代金〕 八月二七日	一通き 四三〇
給禄方御中借伺并附札 會計掛貼添〔等原權大 屬去午職禄及御手充〕 八月二四日	一通き 四三三
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔正月、三月迄議 員手充〕 九月一四日	一通き 四三三
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四位様被下御酒 代〕 九月一八日	一通き 四三三
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四位様御召馬九 月分飼料〕 九月一八日	一通き 四四六
給禄方御中借伺 別紙共 會計掛貼添〔大熊重 在東京中職禄〕 九月一九日	二通き 四四九
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四位様上京品々 入用金〕 九月一九日	一通き 四六〇
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔久保三郎上東京 御手充〕 九月	一通き 四四四
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四位様帰京御供 鼠宿昇并当賄代〕 九月二五日	一通き 四四五
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四位様御跡荷物 賃錢〕 九月二七日	一通き 四四五
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔上京二人分御 手充〕 九月二七日	一通き 四四一
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔堀井泉蔵在东 京中月給及足輕八人御手充〕 九月	一通き 四三六
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔職禄四月、六 月迄〕 九月二九日	一通き 四三七
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔四位様召馬鉄 杵代并飼料〕 九月二五日	一通き 四三六

給禄方御中借錢伺 會計掛貼添〔四位様御荷物 賃錢〕 九月	一通き 四三九
給禄方御中借金伺〔高橋繁三郎給禄分出納掛内 借返納〕 九月	一通き 四四〇
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔西村重郎午正 年、十月迄月給〕 九月	一通き 四四二
給禄掛御中借金伺 會計掛貼添〔四位様被下御 酒代〕 九月	一通き 四四三
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔監察方加役并 司金泊助へ職禄〕 九月	一通き 四四四
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔四位様被下酒 代〕 九月二九日	一通き 四四六
給禄掛御中借金伺〔四位様御召馬八月分飼料〕 九月	一通き 四四七
給禄方御中借金伺〔貞松院真晴院御賄料出納掛 内借分返納〕 九月	一通き 四四八
給禄掛御中借金伺 會計掛貼添〔轟文助詰並金〕 九月	一通き 四四九
給禄方御中借金伺 會計掛貼添〔小林太一郎・ 今井守二郎月給〕 九月	一通き 四五一
給禄方御中借伺 會計掛貼添〔四月、六月迄学 政兵政元議員職禄〕 一〇月七日	一通き 四四三
給禄方御中借伺〔御目録被下金〕 一二月	一通き 四四四
給禄方御中借伺〔貞松院真晴院賞典七月分〕 一 二月	一通き 四四五
給禄方御中借伺〔七月渡賞典代金〕 一二月	一通き 四四六
會計掛御中借伺〔相沢新太郎松本出張御借人入 用〕 一二月二五日	一通き 四三七

穀物町相場差上書 酒井弥左衛門・北沢長左衛門他二人 會計給禄懸役所宛 八月一日	一通き 四六
給禄方預金引戻伺 會計掛貼添〔去冬献上粃等司金方へ預ヶ上納之分〕 八月	一通き 四六
給禄掛御下金伺 會計掛貼添〔御酒料被下〕 九月	一通き 四二
月渡御扶持御下願書 大島小藤太 九月一八日	一通き 四三
給禄方御下金伺 別紙共〔開善寺馬場地年貢〕 一〇月	二通き 四三
給禄掛請取金伺〔四位様荷物賃錢〕 一〇月	一通き 四四
給禄掛請取金伺〔四位様荷物増賃錢〕 一〇月	一通き 四四
給禄掛請取金伺〔北沢少参事上東京手充〕 一〇月	一通き 四六
給禄方御払金伺 會計掛貼添〔旧藩士上金議員手充被下〕 一〇月九日	一通き 四七
給禄方御払金伺 會計掛貼添〔文聰院様法事入料〕 一〇月一〇日	一通き 四七
會計掛被下米代金渡伺〔妻科村佐惣治養老典〕 一〇月	一通き 四六
會計掛御払金伺〔四位様御金差送賃錢〕 一〇月二五日	一通き 四六
給禄方御払金伺 會計掛貼添〔中村小一郎上東京手充〕 一〇月一四日	一通き 四三
給禄方月給渡方伺 會計掛貼添〔監察方加役并司金方泊助月給〕 一〇月	一通き 四七
給禄方御払切伺 會計掛貼添〔村々人別御手充粃代金其外証書渡り之分〕 一〇月一六日	一通き 四三
給禄方御払金伺〔四位様御附之向月給〕 一〇月	一通き 四七

給禄御払金伺 會計掛貼添〔長国寺へ被下金〕 一〇月二八日	一通き 四六
民事掛御下金伺〔元知事様御酒被下調落分〕 一〇月	一通き 四五
給禄方御払金伺 會計掛貼添〔午年村々人別御手充粃代四分一渡〕 明治五年一月	一通き 四六
給禄方伺書 矢野倉書状共〔取替金引当給禄被渡度旨〕 矢野倉謙兵衛願出之件取扱方 明治五年一月二〇日	三通き 四七
立掃道中御手充積書〔大属・権少属上下〕	一通き 四七
給禄調書 明治四年～五年〔き五五〕三六	袋入
山里郡役其外品々冥加金上納殘金高寛 御余慶上納懸り 未七月二六日	一通き 四六
被下品仮請取書 飯島与作 富永新平宛 未八月五日	一通き 四六
玉川一学書状〔東京詰職禄被下方〕 八月一二日	一通き 六三
用度方伺書〔常用印彫刻〕 八月二四日	一通き 六五
各局卒上金不納申上書 議員 八月	一通き 六三
東京詰中職禄下渡願書 玉川一学 九月	一通き 六四
長岡茂在京職禄被下方評議書類	き 六五
1 駒村佐十郎願書 九月	一通
2 監督添願書 九月一六日	一通
長野県引渡村々藩札引換申上書 會計懸 一〇月二日	一通き 五九
東京詰中職禄下渡願書 小林五十太 未一〇月	一通き 六七
給禄方伺書〔御咎中職禄渡方〕 一〇月	一通き 六八

旧小頭足輕去午暮献上金之内半金御下ヶ願書 献上金高申上書共 未二月	二通き 六二五
割番申上書〔辰巳兩年御手充殘金御下ヶ願〕 一月	一通き 六二六
玉川一学書狀〔現石五分二省略分借用方〕 長谷川宛 二月一四日	一通き 六二一
招魂場番人被下刼御下ヶ願書〔清野村伴左衛門分〕 二月一四日	一通き 六二七
民事懸添伺書〔国役御下金土木掛申立添〕 二月一五日	一通き 六二四
前島有年添狀〔御役方払切代金差引書添〕 富永新平宛 二月一八日	一通き 五九九
水原泉出張元小隊長伺書〔小頭・世話役等出張中月給被下方〕 未二月	一通き 六〇九
開善寺願書〔去年御初穂滞分御下ヶ〕 被下高覚共 未二月	二通き 六三一
白鳥神社堀内寿美雄願書〔御扶持并除地分被下米滞分御下ヶ〕 未二月	一通き 六四〇
東京詰中附人御扶持等上納願書 樋口旗之助 二月	一通き 六三三
御賞換被下方歎願評議書類 明治五年一月	き 五九五
1 入弥左衛門他十人歎願書写	一通
2 監督御尋物答書	一通
武田斐三郎差置御手充評議書類	き 五九六
1 飯島与作伺書 一月一〇日	一通
2 監督御尋物答書 一月二二日	一通

全国錢幣取扱御手充御尋物答書	き 五九七
1 會計掛伺書〔取扱各人別御手充高〕 一月	一通
2 會計掛伺書〔同御賞筋〕 一月	一通
伯長并帳付へ月給又は御手充被下方評議書類	き 六二〇
1 割番再伺書 申二月三日	一通
2 元軍事掛申上書 二月	一通
3 監督御尋物答書 二月九日	一通
辛未年中請取物取調申上書〔司藏・用度・營膳ノ請取物数量〕 割番 申二月	一通き 六二七
去午粗代金上納調 民事掛	一通き 六〇〇
去午御飯米端米調	一通き 六〇一
御賞典新規被下大凡調	一通き 六〇二
金銀有高調	一通き 六〇三
有金高取調	横長半 仮 一冊き 六九
子年以來勤方書上〔御賞筋願書之内〕	一通き 六〇〇
拝借金借入金其外取調箇条申立案	一通き 六三三
給禄月渡証書渡方通知	一通き 六六六
断簡合綴	四綴き 六六六
書付綴	二綴き 六六六
印書入 元給禄方	袋入 一点き 二〇三
御入用金中借証文 峯村七左衛門・中沢義市・春山喜平治・入弥左衛門宛 申二月	一通き 二〇三
職禄仮請取書 小林清右衛門 申七月二二日	一通き 二〇四

收納有俵数引継覽

一通き二三五

御家禄・中借証文 中沢保孝 春山喜平治・入
弥左衛門宛 申九月

一通き二三六

○

横田数馬伺書并指令〔元兩組之内給禄渡方〕 長野
県参事宛 明治七年一月

一通き二三五

旧松代県貫属給禄等払残御下金再願書扣 長谷
川昭道・河原均他五人 同前宛 明治七年三月

一通き二三六

士族卒給禄渡物払残御下金願書案 富永新平・
矢野唯見 同前宛 明治七年三月

一通き二三四

小野忠政書状〔給禄職禄渡残并北越戦争兵食料御
下ケ方ニ付正院意向報知其他〕 富永新平・佐藤則通
宛 明治七年八月一七日

一通き九七二

旧松代藩給禄其外払残分御下金願書稿 一一月

一通き二三七

長谷川昭道書状〔内川小六窮迫歎願繰廻し依頼〕
富永新平宛 一月

一通き五〇五

殿町議員用状〔禰津刑左衛門猷俵差継依頼〕 給禄
掛宛 七月二十九日

一通き八九三

賞典渡方

賞典渡辻延引申渡書

一通き二三三

松代庁歎願書案〔真田從四位賞典御渡方〕 出納調
帳ニ添 本県宛 明治五年一月

一通き二〇六

賞典禄家禄請取証 明治五年

き二〇四

1 真田幸民賞典米請取証扣〔壬申冬分〕 大熊教
政・長谷川昭道 長野県宛 一一月二〇日

一通

2 真田幸民賞典米請取証扣〔辛未分〕 長谷川
同前宛 一一月二〇日

一通

3 真田幸民家禄請取証扣 長谷川 同前宛 一一
月二〇日

一通

4 貫属家禄請取証 春原織右衛門・片岡半十郎
富永新平宛 一一月二七日

一通

5 貫属家禄請取証扣 長谷川 長野県宛

一通

信濃国
松代

真田家文書目録（その三） 解題

文書の内容と特色

収録史料 の範囲

本目録は、『真田家文書目録（その一）』（史料館所蔵史料目録 第二十八集）『真田家文書目録（その二）』（同上 第三十七集）に続いて、『真田家文書目録（その三）』として同文書のうちの書付史料の一部を収録したものである（以下、既刊分は『その一』『その二』と略記）。前回の解題にも述べたように、真田家文書目録を分冊形式としたのは多量史料を目録化するためのやむを得ない措置であって、各分冊が独立の内容をもつものではなく相互に関連を有することは改めて指摘するまでもない。利用には既刊の『その一』『その二』と併用して参看していただきたい。なお、真田家文書の伝来および関連史料の所在、また目録化の方針などについては『その一』『その二』の解題で述べてあるので併せて参照されたい。

本目録には、冊子型史料を収録した『その一』の大項目のうち「藩政」の一部（「法制」「役職」「賞罰」「学芸」「寺社」と「家中」に照応する書付型史料を主に収めた（以下、項目名の表記は、『内ゴジック』中項目を『内明朝体』小項目を「」内明朝体とする）。「その一」の大項目のうち『領知』から『真田家』『勤役』および『役儀』までに関係のある史料は『その二』に収めたので、本目録はそれに続くわけであるが、『日記』に配すべき書付型史料は一般的にも少ないと考えられ、現在までのところ真田家文書にも残存例が見出されないため、次の大項目『藩政』から始めたものである。ただし、『その一』の『藩政』には二十二の中項目が立ててあるが、今回はその中から前記五項目を採り、これに『家中』を加えて一分冊を編成した。その際、『その一』では『役職』内の小項目であった「勤方」を中項目にし、同じく『家中』の中項目であった「給禄」を「給禄・手充」として大項目に変更した。残存量に合せての便宜の改変である。

今回の項目採用が『その一』の編成順と一致していないのは、目録編集の都合であって特別の意図はない。あえていうなら、同一項目にま

とめ易い史料を主として選んだといってもよい。本来ならば、『その一』の項目編成順に依じて書付型史料を順次目録化して行くのが理想であるが、それには全体をカード化しなければならず、それが時間的に許されないための例外的措置としての分冊刊行であるため、多少の変動を生じてしまう。『その二』以後の整理は、本文書を受入れてから数年間に実施してあった仮整理の状態を一応の目安として同系史料の集合を計りながら目録化を進めている。しかし、所詮は仮整理であり、まして三十年以前の作業であるから、完全を期し難いのは当然である。そこで、同系史料が他の分冊に分散するのをできるだけ防止するために、比較的に他の項目へ混入する怖れの少ない史料を優先させることも念頭においた。もっとも、他の項目への影響がないからといって、全体としてまとまりを欠いた寄せ集めにならないように配慮したつもりである。なお、今後の整理過程のなから、本目録Ⅱ『その三』に収載さるべき史料が発見された場合は、その都度、追加せずに、最終分冊に補遺編として全分冊の収録洩れ史料を一括して載せる予定にしている。本目録と直接関係の深い史料の検索には、将来刊行される最終分冊をご参照下さるよう予めお願いしておく。また、本文書の全般的事情の把握や前後の関係確認には『その一』の関連項目の史料を参照していただきたい。

本集の特色

本目録に収載した史料は、前記のように『その二』と同様、大半が書付型史料であり、若干混入している簿冊型史料も袋入史料などの中に書付型史料とともに併存したものである。真田家文書における書付型史料の特色については『その二』の解題で詳しく述べてある通り、一般的には消去されてしまっても何ら不思議でないような零細な書類が、しかも多量に残存しているところに特色がある。そのような瑣末な史料に対しては評価の分れるところであるが、これについても『その二』の解題でその一端を説明しているように、大名家文書における「生」の史料の稀有な残存例として注目する必要があると考える。本目録の作成に当っては、前記の特色をできるだけ活かすことを心掛けた。断片的な同種史料を敢えて一括せずに、一点ごとに目録上に表記したのもその故である。しかし、本集に収録した史料は断片史料よりも、何通かが一組となっているものが多く、一組の構成は二通を最低として、多いものは百通以上に達する。こうした組史料といえ、特定の事件に関連した史料をまとめた例などが一般的であるが、本集にはこの他に、史料の作成または受理を担当した部署で取扱った史料を一括して袋入などにして保存を計ったものが見うけられる。具体例としては、前者には評議書類、後者には御尋物答書を挙げるこ

とができる。両者の内容については次節に略述し、また一括史料の配列方針についても後述（一三四ページ参照）したので、それぞれ参照されたい。ここで断りしなければならないのは、これらの一括史料の保存の原形が部分的に崩れてしまっていることである。当館が譲り受ける以前の真田家文書における一括史料の最も通常な状態は、巻紙の書状のように畳んだ書付を数通重ねてこより紐で束ねてあったと考えられる（口絵1参照）。更に、このような束をいくつか重ね合せて大きな束として結んであるものもあり、その高さが10センチ位に及ぶものも珍しくなかった。前に、今回の目録化に当り過去に実施した仮整理を基本にしたと述べたが、受入直後から着手した仮整理の際に、右の大きな束の紐を解いて小単位の束に分割してしまったものが多い。小単位の束には二〜三通から十通以上までのものがあるが、数量の多寡は一束の性格とは無関係である。この小束の書付を適当に拵げて袖の部分をこよりで綴じてしまったものも多い。これらの原状変更のすべてが仮整理の結果だったわけではなく、譲渡の際の荷造りや運搬およびその後の燻蒸消毒によって、結束が崩れたり袋からこぼれ落ちたりしたものがあって、仮整理に着手する以前に原形を失っていたものも少なくはない。何れにせよ、現在となつては復原することは殆ど不可能である。幸いに、袋入史料や小単位の束については、口絵に掲出したように原形のまま保存したものが残っているので、小束を積み重ねた大束の形状を推測することはできる。同時に、原形で保存してきた分は今後ともこれを維持していくように利用者にも心がけていただきたいと思う。

なお、本目録に収録した史料は、真田家の家中内で作成・授受されたものが大半を占めるが、明治維新後の史料のなかに明治政府あるいは長野県などから送達されたものが若干含まれている。それらは個別案件に対する指令や回答類なので、それぞれの項目に分散して配列した。

評議書類と目録の記載形式について

ここで、本集の目録本文の表記法などについて若干の説明を加えておきたい。従来の当館史料目録にない表現を新たに採用したことや、古文書学上の表記とやや異なる部分があるので、本文の利用を円滑にするため初めにお断りするものである。

評議書類

本目録のなかで最も特色を有するものの一つは、前節で指摘した如く評議書類と呼ぶのは、一つの案件を実施する際に、下級職からの発議に対し諮問や答申を加えて決定に至る一連の書類であつて、現代の稟議書に当る。当時この

書類に特定の名称はなかったようだが、前節でも述べた通り一連の書類としてこゝで束ねてある状況をみれば、適当な名称を付与する必要がある、当時この種の諮問を評議と称したのに因み評議書類とよぶことにした。但し、当時は発議から決裁に至る過程を指すのではなく、同役内で検討を加えることを一般的に評議といっている。評議書類が一定の形式をもっていたか否かは、現在のところ結論を得ていない。少なくとも残存史料による限りでは、評議を経ずに伺書から直ちに指図を得る場合や諮問先を事案によって変更することがあり、必ずしも一定の形式を具備していない。しかし、恒例化した事案にも毎回、伺を立てて決裁を求めるといふ官僚的書類制度は確立していたと見受けられる。次に評議書類の一例を挙げて、その概要と全体を構成する個々の史料名称を説明する。例示に用いた「き一〇六六」(整理番号―以下同)の九通の史料の巻上ゲの記載は次の如くである(①～⑨は整理のための小番号、「一ノ上」以下は原本に書入れられた書類番号、口絵3・本文p.25参照)。

① 回 状

② 一ノ上 岩下権太夫御馬乗責仕候ニ付御目録被下之義申上 山中小平次

③ 一ノ下 岩下権太夫江御目録被下之義申上 御馬奉行

④ 二 岩下権太夫江御目六被下之義申上 御勘定吟味

⑤ 三 岩下権太夫御賞之義ニ付申上 御勝手元ノ

⑥ 四 (ナシ) 内蔵允

⑦ 五 志摩様

⑧ 六 左門様

⑨ 七 左京様

右の一連の史料は、②の発議から諮問答申を経て評議を加え、⑧で一応の結論を定めた上、⑨に②～⑧を添付して送付し、これをそのまま同役家老に①を加えて回覧したものである。

(註) 巻上ゲ上リ書 書付類は、一般に奥から巻いて平に伸した形状をもつが、その外側となった部分に宛名や注記などを記すことが多い。この部分は

本文に対し裏面に当るので裏端書などと呼んでいるが、近世史料にはそれでは適切でない事例がある。確に料紙の裏面ではあるが、そこに記された記事によつては、その部分だけに別の性格が生じている。書状の例をみれば最も明確で、この部分に宛名と差出署名を記しており、決して裏書とはいえない。いわば封紙または包紙を省略した形式の表テ書とみなすべきものである。これを「巻上ゲ上ワ書」と命名した根拠は、この部分への貼紙を「巻上附札」と記していることに基つき（「きぎ云」）、書状にも援用することを考慮して総称として上ワ書を採用した。真田家文書では前掲②における「……之義申上」を「見出し」と呼んでいるので、これを「巻上ゲ見出し」ないし「巻上ゲ見出書」と称するのが適当と思うが、なお今後の検討に俟ちたい。

右の例で②⑤の巻上ゲ見出書は何れも「……之義申上」で区別がないようにみえるが、本文を読むと②は「此段申上候」、③は「此段奉伺候」と書留めてあるのに対し、④⑤の文中には「……之義御尋御座候所」とあり書留は「尚御勘弁可被成」となっていて明かに性格が違う。②は実質的には伺書の性格をもつが、③の伺書とは文言も違うので区別する必要がある、この種の書類を指して「申立之趣」などと記す例によつて「申立書」と称するのも一案であるが、伺書に対しても同様に「申立」と呼ぶことがあるため、暫く「申上書」としておく（『その二』解題P.115参照）。これに対し、④⑤は②③を受けて答申したものであり、『その二』ではこれを御答書と命名したが、この種の諮問を御尋物と称したことに鑑みて「御尋物答書」と改めることにし「御勘定吟味御尋物答書」のように表記した。御尋物答書については次項で説明する。次の⑥も御尋物答書の一つであるが、これには巻上ゲに見出書がなく答申内容も④⑤に比べるとやや重厚である。この例では御賞対象者の岩下権太夫に与える御賞申渡書の試案を加えて答申しているが、他の事例でもこの階級の答書には、伺書や前に出ている他役の御尋物答書を引用批判しながら、独自の見解を開陳することが珍しくない。従つて、内容は意見書の如くであるが、書留の体裁や、これを受けて執筆された⑦に「中老……右答」とあるのをみれば、やはり答書の域を出るものとはいいい難く、⑥の文中にある「評議致し」の語を借りて評議答書と名づけたが更に検討を加えていきたい。①⑧⑨は書状であつて史料名称に問題がないので言及をひかえる。

なお、評議書類にみられるこの他の諸形式について付言しておく。右に引用した②と③との間には直接の連繋がみられないが、下級職の伺書に対し直接の上級職が「……別紙相添奉伺」と添状を付している場合がある。これは取次状の一種であるが、巻上ゲ上ワ書を記さずに「口上覚」として取次いでいるものと区別したいので「添伺書」とした。添伺書の略式に、巻上ゲに貼紙しているものがある。即ち、割番の伺書について「……之義別紙割番申立之趣……此段奉伺候」と副兵隊長が貼紙する如きものである（口絵5）。これを便宜上「添伺貼紙」とした。

この形式を更に省略すると、右の割番の差出署名の上に「副兵隊長」の小紙片を糊付けすることになる。この事例のみをみれば、差出者を変更したための貼札と解釈することもできるが、前述の添伺の形式から推測すれば、やはり添伺の省略型と考えるべきことは明かであり、これを「貼添」と称することにした（口絵6）。即ち、添伺書↓添伺貼紙↓貼添と変化しているのである。

同様の省略形は御尋物答書にもあり、巻上ゲ部分に小紙片（多くは巻上ゲ面とほぼ同じ大きさであるが、時にはそれより小さいこともある）を天部だけ糊付けして答書の代用としていたことがある（口絵2）。真田家文書の用語例ではこの形式を「巻上附札」というが（「き三七六」）、前記の添伺貼紙も同じく巻上附札であって内容の差異によらず貼付位置に基く名称なので、そのままでは採用できず、仮に「答書貼紙」と名づけた。詳しくは「巻上ゲ」を冠すべきであるが、巻上ゲの用語も定着しておらず、且つ冗長になるのを怖れて略記することにした。この方法で、時には同種の二件の伺書に対し、「別紙兩件申立之趣御尋御座候処」と一枚の答書貼紙で済ませている例もある（「き一四六」）。これらの貼紙は省略形とはいえ効力には少しも差別なく扱われていたことは、一連の評議史料に付した書類番号でこの貼紙に一番号を与えていることに明白であり、小紙片と雖も独立の文書とみなされていたわけである（「き二八九」）。なお、明治二年以後の評議書類には、答書を全く省略して「計監可」などの矩形小印を捺すだけの例もあり（口絵7）、「赤沢」「河原」などの丸形朱印を捺したものは（口絵8）指圖書の省略を意味するものかと思われるとともに、近代行政文書の稟議書における捺印方式への変遷過程を示すものともいえよう。但し今回は捺印についての注記を省略した。

このほか、評議書類には、御尋物御答書の参考書類として先例の書拔や試算書などを添付することがある。巻上ゲなどに「御見合」または「書拔」などと書いている例が多いが、本集では「見合書」に統一して命名しておいた。原本の書き分けに内容および形式における明確な差異が認められなかったからである。

御尋物答書

評議書類の中の御尋物答書を指して当時は「御答」または「申立」と呼んでおり、『その二』ではこれを「御答書」としたものであるが、評議の諮問答申以外にも吟味などの折に作成される答書類との区別がやや不明確である。そこで、なお検討を加えていたところ、今回収録の史料に答書のみを集めて保存した袋があり、その表書に「御答書類」「御答袋」などのほか「御尋物御答稿」（口絵4）と記してあったこと、且つ冊子型史料にも「辰年中御尋物日々御下留」（『その一』所収「い三九」）が存在することを参考に「御尋物答

書」と改めたのである。

ところで、評議書類の一環として御尋物答書が存するのは当然であるが、本集においては答書だけをまとめて残存している例がみられる。それらは年別に袋に入れて保存されたと推定されるが、現在では袋の多くは失われており、辛うじて残った袋の表書にはすべて「勅方掛」とある。袋を失った答書類にも内容や形状が類似しているものがあり、それらも恐らく勅方掛の袋をもっていたと考えられる。何故、勅方掛だけにこれが残ったか、他の部署でも保存が計られたかは興味ある問題だが、今は何の手掛りも得ていない。その上、勅方掛の袋に入れられた史料の多くは御收納郡方あるいは御勝手元が作成した答書であって、勅方掛の作成にかかるものは僅少に過ぎない。この理由も全く不明である。郡奉行所の職制では、郡奉行の下に御收納方（これを御收納郡方と称す）があり、その配下に勅方掛、分限帳増減帳掛、御賄役、金御切米掛が属していたので、上役の御收納郡方の書類を担当掛としての勅方掛で保存したか、或は上役の作成すべき答書の案文を勅方掛が代行したことなど、幾つかの条件が想定できるが確定はむづかしいであろう。袋書の中に「御答稿」というのがあるのをみてもわかるように、本文や見出書には加筆や削除の推敲の跡が多い。但し、単なる草稿でないことは、巻上ゲ部分に「留済」と注記をしていることにも明かなように、答申の正文原稿となったものと考えて差支えない。中には「寅御尋留へ留済」と書いている例があり、答申の控を書留めた冊子が作られていたことが知られる。「留済」でなく「不用」と注記したものもあり、これは答申を見合わせたか新たに書直したことを意味しているようである。目録上には「留済」の注記を省略したが、利用に当ってはこの点に注意してほしい。また、御尋物答書の省略形として答書貼紙のあることを前述したが、袋入の答書の中に答書貼紙の形式のものが混在して残っていることは、小紙片ながら答書貼紙が独立の文書としての機能をもっていたことを示す一例である。

なお、同一の案件につき再度答申する場合がある。これには初回の答申を不満として再諮問を受けた場合と、却下または決裁遅滞に対して伺書が再提出されたのに応じて答申を求められた場合とがあるが、本文の短い記述からは両者を区別し難いことが多いので、統一して「再御尋物答書」とした（内容摘記には再答と略記した）。これとは別に、一度提出した答書の不備などを補うために答書を再提出することがあるが、これは同じく再答申であっても、答申者側の自発的な追加意見であるから「御尋物追加答書」と名づけた。

目録の
記載形式

目録記載の基本形式については巻頭の凡例に記した通りであり、また『その二』解題で挙げた表題および内容摘記の要領も基本的には踏襲している。但し、個々の事例では諸種の理由により同種史料に異った史料名称を付与した場合や、前述のように部分的に改変を試みたものがあり、統一を欠く結果となったことをお許しいただきたい。以下に、本集における目録記載形式の留意事項を略述しておく。

書状のうち勘返状は、必ずしも表記法が一定していないが、本集では「○○書状#勘返状」とし原書状の宛名人を注記することで、勘返の発信者を示した。これは何書に対する附札を何書#附札と表記したのと同趣旨である。勘返は厳密には原書状に勘を付けて答えたものに限りべきかもしれないが、広く解釈して返事を加筆したものすべてを含めた。なお、返信日付がある場合は原書状の日付の下へ（ ）で記した。答書貼紙などの日付にもこの形式を応用した。また、回状で回覧済の記事は目録上に示さなかった。

評議書類を始めとする一括史料は、一つの整理番号を付与して枝番号で処理したものと、一点ごとに整理番号を付けたものと二方式に分かれており、目録上の配列は番号順となったり不揃いとなったり一定しない結果となった。枝番号による配列が簡単に決めかねるものや、残存の形態によっては枝番号のなかをさらに細分して枝番号が二重になるのを避けるためなど、整理の都合であって内容とは関係ない。記載形式は、一番号で整理したものは総括名称の下部に整理番号を示し、次行以下に枝番号を表題の上に付けて並記した。これに対し一点ごとに番号を与えたものは、総括名称の下部に番号はなく、内訳の史料表題を一字下げとして各史料の下部に整理番号を記した。また一括史料のうち、勘定書類に添付された請取書や見積書などで一点ごとに明細を示すに及ばないものは、。を付して史料の件名のみを掲げた。

前掲の評議書類の説明で、原史料に書類番号を付けてある例を示したが、目録上にはこの書類番号は記載しなかった。煩瑣を避けるためのほか、整理の枝番号と不一致の場合に解りにくくなるのを怖れたのも一因である。

内容摘記は必要最少限に留めたので、指図書における「別紙伺之通」などは多く省略に従った。逆に、御尋物答書では「○○役御尋物答書」の同一表題が並列するところは表題を省略して内容摘記のみを記した。紙幅の増大を抑えらるとともに紙面の見易さを計ったものとご了承ください。

文書の配列と概要

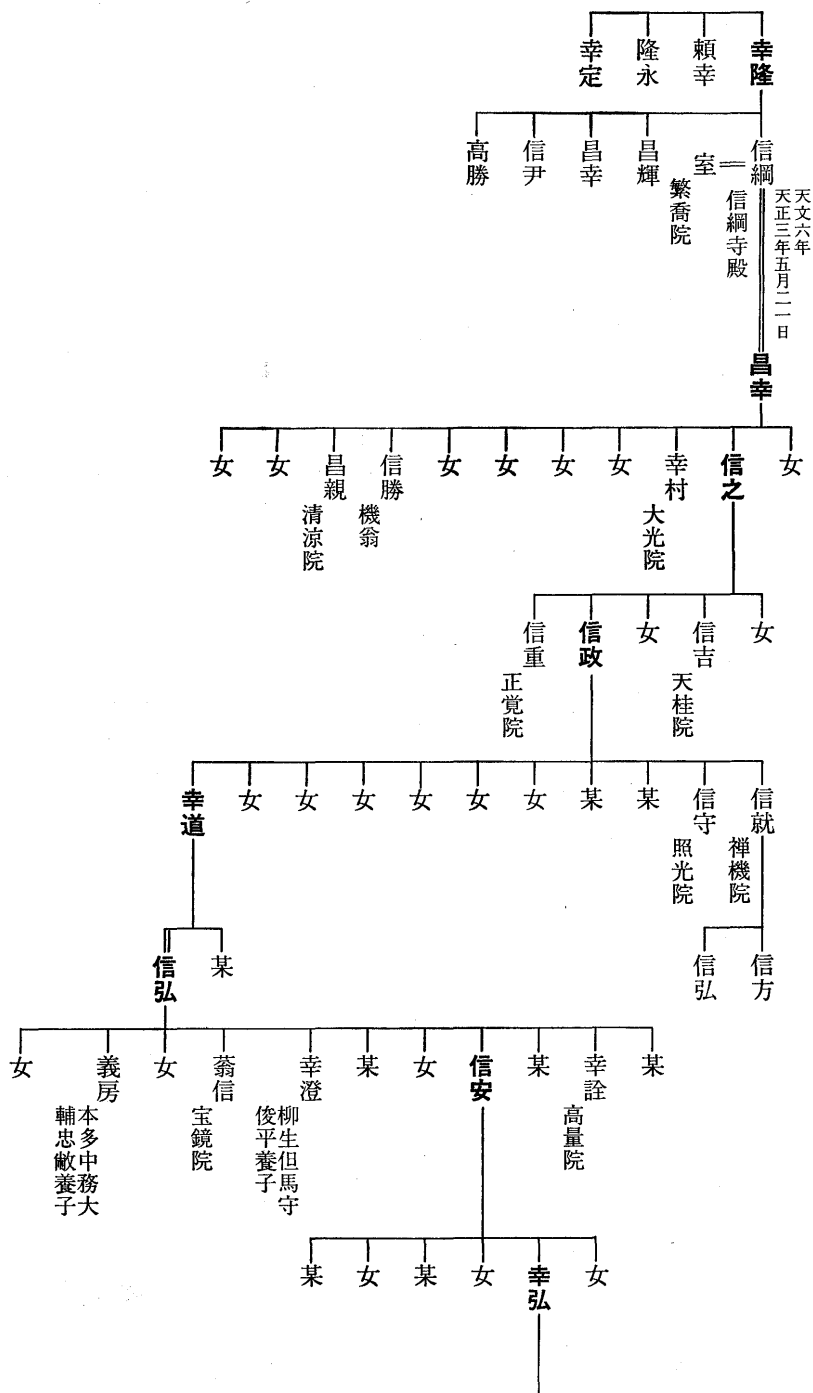
本目録の編成に当り、項目を基本的に『その一』に準拠したことは前記したが、簿冊型史料と書付型史料とでは残存史料の内容に相違する点が多く、小項目名はかなりの不一致を生じた。また、伝来の形状を残すことを原則としたため一括史料のなかには、配列基準が不明確となるとともに、項目内に異質な内容の史料が混入した箇所がある。即ち、一括史料には、関連史料がまとまっている形と、特定の部署が関与した史料を集めてある形とがあり、後者の場合は部署別の配列で問題ないが、前者の史料では複数の部署にわたっているため配列にはその史料を最終的に保管した部署を基準としなければならないが、保管部署を確定できる事例は乏しく、勢い事案をもとに配列せざるをえなかった。そのため、部署別と事案別との二つの配列基準を併用する結果となった。史料の伝存形態によるものとご理解いただきたい。なお、一括史料中に混入していた別系史料については、本目録の項目内で重出を要すると思われる史料に若干の重出を試みたが、煩雑をおそれて最少限に留めた。同様に関連項目を参照記号↓で指示したものも一部に限った。

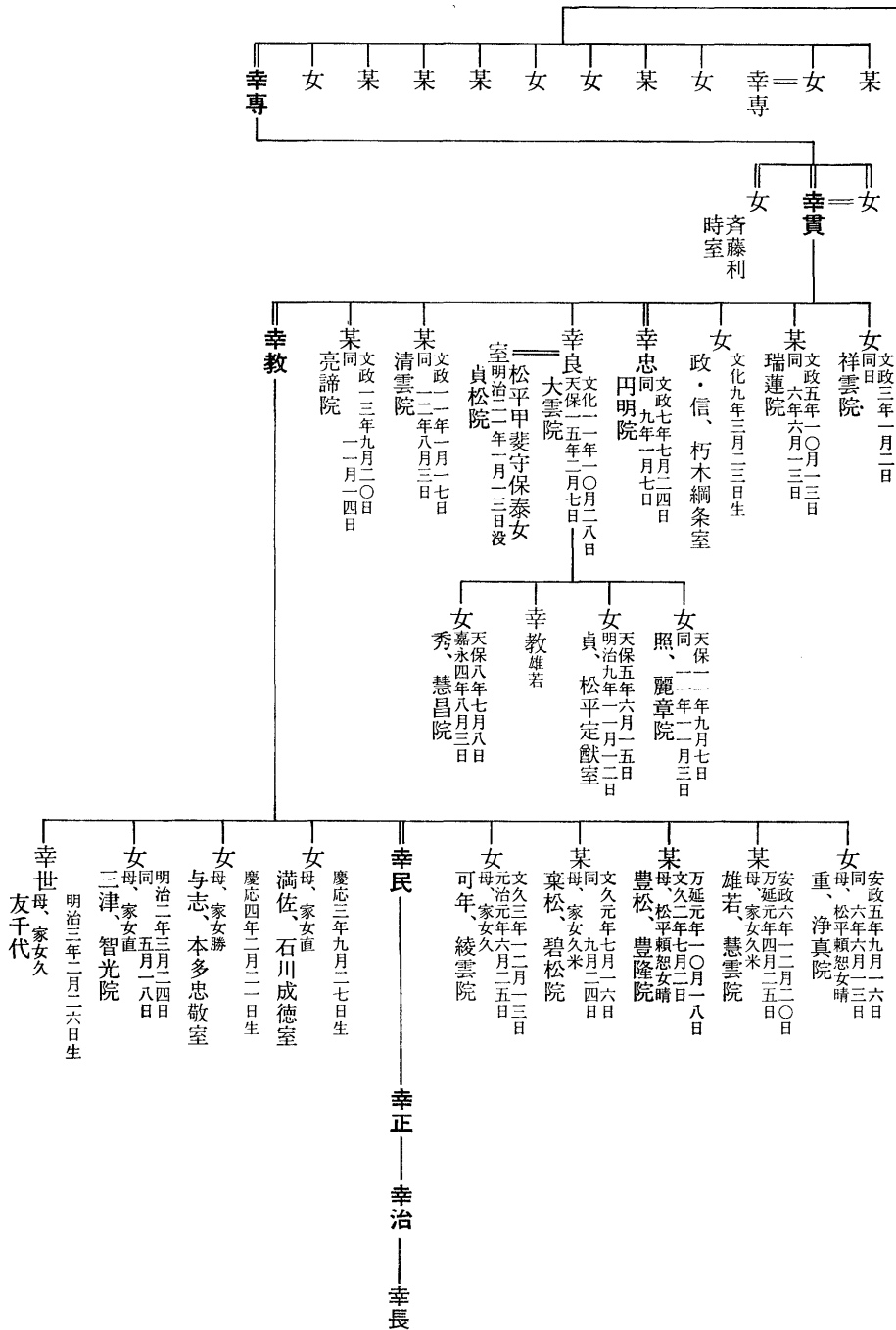
以下、目録の配列順に従って、各項目ごとに概要および特記事項について略述する。本目録を使用する際の参考に使用されたい。

『藩政』

前述の如く、本目録には『その一』の『藩政』のうち法制・役職・賞罰・学芸・寺社の五つの中項目に相当する書付型史料を収めた。このうち『法制』には「御条目」と「張紙」および明治初年の布令類を配した。「御条目」中の各役向のものは、多くの場合、当該役へ直接交付の形式になっていないが、もとの包紙ごと新しい包紙でくるみ、上ワ書を記して封印のまま残っているものがある。役向の中では目付方の諸役に対する御条目が目立つ。職務の特殊性によるものか、或は偶然の結果であるかは確認し難い。出役人宛の掟書のうち竿取足輕へのは後出の『役職』内「誓詞」の中に同役の誓詞があるので関連して参照すべきであろう。「張紙」は番所内などに常時掲出した掟書で、何れも煤に汚れて張出してあった痕跡を残している。「布令・布告」中の市政役所触廻状は町外町に宛てたものである。町外町とは、松代町のなかで武士町や町人町などとは別に、武家の長屋や寺に混って職人、工人、日雇などが居住した区域であり、当初はい・組・ふ・組の三十二組であつたらしいが、史料をみると「こ組」が追加されているほか、を・わ・か・れ・そ・ね・の・ふの八組には新組

1 この系図は、真田幸長氏蔵「御系譜稿」をもとに、若干の補訂を加えて作成した。
2 歴代当主はゴチック活字で示し、系譜事項は別掲の略系表にまとめた。
3 当主以外の系譜事項は、生年・没年と幼名および諡号を示したが、史料の残存状況に
応じて適宜に省略した。生没年は特に注しないほかは右が生年、左が没年である。





真田家歴代略系表

1 この略系表は、真田幸長氏蔵「御系譜稿」をもとに、歴代当主の系譜事項をまとめたものである。
 2 表の作成にあたっては、改名や叙任の年月日を他の史料によって補ったほかは、すべて「御系譜稿」の記載に従った。

当主(実名)	幸隆	昌幸	信之	信政	幸道	信弘
実父 実母	幸隆 幸隆室	昌幸 昌幸室	信之 信之室	信政 信政室	幸道 幸道室	信弘 信弘室
誕生 幼名・初名	永正一〇年 小太郎 幸綱	天文一六年 源五郎 喜兵衛	永禄九年 源三郎 信幸	慶長 百助 仙之助	明暦三年三月三日 右衛門 信房(正徳元年一月二三日改)	寛文一〇年二月二日 六郎
襲封 隠居	天文二〇年二月一日 剃髮 一徳斎		明暦二年一〇月晦 日致仕 一当斎	明暦二年一〇月晦 日	明暦四年六月一日	享保一二年七月一日
叙任	彈正忠	安房守	伊豆守(文禄二年九月朔日)	内記	伊豆守(寛文九年一月五日)	藏人 出羽守(宝永元年二月一日) 伊豆守(享保二年七月九日) 彈正忠(享保五年七月二日)
夫人	河原丹波守隆正 姉(天正一〇年五月二〇日) 泰雲院殿喜山理慶 大姉	菊亭右大臣晴季 女(山之手殿) 慶長一八年六月三日 寒松院殿宝月妙鑑 大姉	徳川家康養女 (本多中務大輔 忠勝女) 元禄八年二月二十四日 太蓮院殿英誓皓月 大禪定尼	稲垣摂津守重綱 女(離縁)	伊達遠江守宗利 女 享保一八年七月五日 法雲院殿慈栄元光 尼禪師	松平右京大夫頼 純女 享保六年二月六日 清岸院殿知峰日登 大姉
家女			小野氏 高橋氏 某氏 某氏 某氏 法性院	遠藤氏 妙雲院	藤田氏 冷台院 前田氏 智岸院	
逝去 享年	天正二年 五月一日 六二才	慶長一六年 六月四日 六五才	万活元年 一〇月一七日 九三才	明暦四年 二月五日 六二才	享保一二年 五月二七日 七二才	元文元年 一二月二六日 六七才
諡号	一徳斎殿 月峰良心大庵主	一翁千雪大居士 (長谷寺殿)	大鋒院殿 徹巖一当大居士	円陽院殿 威良一中大居士	真常院殿 金山一提大居士	乾徳院殿 龍岳一雲大居士

信 <small>のぶ</small> 安 <small>やす</small>	幸 <small>ゆき</small> 弘 <small>ひろ</small>	幸 <small>ゆき</small> 専 <small>せん</small>	幸 <small>ゆき</small> 貴 <small>き</small>	幸 <small>ゆき</small> 教 <small>のり</small>	幸 <small>ゆき</small> 民 <small>たみ</small>
信弘 藤田氏 冷台院	信安 伊東氏 慈眼院	井伊掃部頭直幸 四男 (天明五年一月四日 養子トナル) 坂本氏 智貞院	松平樂翁定信 次男 (文化二年七月養子 トナル) 中井氏 貞順院	真田豊後守幸良 村上氏 順操院	伊達遠江守宗城 次男 (慶応二年三月九日養 子トナル) 某氏
正徳四年八月一八 日 小次郎 豊之助	元文五年正月二 日 豊松 幸豊 (天明元年 五月改)	明和七年 順介	寛政三年九月二日 次郎 幸善 (文政七年二 月一日改)	天保六年二月一 三日 雄若 幸孝 (嘉永三年三 月一二日改)	嘉永三年四月一七 日 保磨
元文二年二月一八 日	宝暦二年六月一〇 日 寛政一〇年八月二 日致仕	寛政一〇年八月二 日 文政六年六月二 日致仕	文政六年八月二〇 日 嘉永五年五月六日 隱居 遂翁	嘉永五年五月六日 慶応二年三月九日	慶応二年三月九日 明治二年六月二四 日 松代藩知事
豊後守(元文元年一 月一六日) 伊豆守(延享元年六 月一八日)	伊豆守(宝暦五年一 月一八日) 彈正大弼(天明八 年四月五 日) 右京大夫(寛政二 年四月一 八日)	彈正大弼 豐後守(天明七年一 月一八日) 伊豆守(文化元年九 月一〇日) 彈正忠(文化三年五 月一六日)	豐後守(文化一三年 二月) 信濃守(天保八年五 月六日) 伊豆守 右京大夫(慶応二 年三月九 日)	信濃守(慶応二年五 月一〇日)	信濃守(慶応二年五 月一〇日)
松平備後守利章 女 延享五年六月四日	松平越中守定賢 女 文化一四年九月七日	幸弘女 文政五年五月一九日	幸專養女(井上河 内守正甫女) 嘉永六年八月九日 (二四日改) 真月院殿実操松影 大姉	松平讃岐守頼恕 女 大正四年五月二〇日 真晴院殿觀瑞妙慶 大姉	大村純熙二女 利宇 明治七年八月二七日 真隆院殿清操妙薫大姉 伊東祐歸妹 宏 子 明治三年六月一二日 真玄院殿慈海静遠大姉 島津忠清養妹 輯子 昭和三年一〇月一五日 真浄院殿大慈慈観大姉
伊東氏 毛登 慈眼院 琴浦 江見氏 鈴木氏 蓮光院	座間氏 清信院 田村氏 本 藤田氏 春光院	佐野氏 喜瀬 慎操院 某氏 寿嘉 清操院	山本氏 久(多喜) 土屋氏 久米 前嶋氏 勝 兒玉氏 直		
宝暦二年 四月二三日 三九才	文化一二年 八月三日 七六才	文政一一年 七月六日 五九才	嘉永五年 六月三日 (二七日改) 六二才	明治二年 一〇月一八日 三五才	明治三六年 九月六日 五四才
覺性院殿 幽山一玄大居 士	天真院殿 覺源一無大居 士	大暁院殿 聖諦一義大居 士	感応院殿 至貫一誠大居 士	文聡院殿 惕若一教大居 士	泰寛院殿 義烈一貫大居 士

がおかれて、全体で四十一組になっている。右の触廻状に続く差紙の宛先に出てくる紺屋町・伊勢町などはすべて町人町（全部で八町）である。

『役職』には、職制、職務に係のある史料を配した。職掌の改変や後任人事および任用について活潑な意見の開陳がみられる。御役誓詞には、「誓詞」と「神文」との両様の記載があり、時に前書の書出しと封紙との用語が一致しない例もあるが、小項目は「誓詞」を採用した。上番御徒士以下は年次を経るごとに牛王宝印の紙継ぎを加えて多人数が捺印血判している。長期のものは約百年間にわたって書継がれ七百余人が署名しているものがあるが、紙面が不足すると上下二段に署名したり適宜に裏面を使用するなど、誓詞の形式化を伺わせる。「口留番所」には職務の特殊性に鑑み、番所の勤方や預り鉄砲証文を始め、個別の番人の扶持や願書などまで、口留番所役人に関わる史料をまとめた。

『勤方』には、各役職における実際的な職務に関する史料を集めた。従って、「願届書」は出仕・帰国などの職務に関連するものに限り、家臣の身分に関する願書類は後出の『家中』の項に分離してあるので合せて参照されたい。「勤方」は、表御用人、御郡方、御勘定吟味、水道役の各役にわけて、それぞれの役で作成し、または受理した史料を配した。ただし、各役における具体的な職務の史料ということならば、本文書の書付型史料の大半はこの項に分類されることになる筈であるが、実際には前記の諸役を挙げたに過ぎない。しかも、その多くは一括の状態で保存されていたものである。逆にいえば、他の項目に配した史料の中にも、もし一括の状態で保存されたならばこの項に加え得たものが増えたであろう。前節で触れた原形の崩壊がここに影響を及ぼしている。一方では、「勤方」の史料が部署としての各役で制度的に保存されたものか、その役に就任していた役人が個人的判断によってまとめたものか、残存状態からは何れとも決定し難い。目録本文をみれば明かなように、御郡方に配した史料の大部分は一括史料であった。それらは岡嶋莊蔵（文政四年一月から郡奉行）を軸として授受された史料であり、同人への私書状に類する挨拶状までを含んでいる。この書状は、私信の混入と考えずに職務上の儀礼として受取った役務書類とみることができるが、その場合には郡奉行岡嶋がまとめた史料ということになる。実は、他の項目中にも岡嶋に係のある史料が分類してあるが、それらの全部ではなくとも一部分は一つのまとまりをもって残存していたと想定することができる。同様の事例は岡嶋以外の何人かにも推測が可能のように思えるが、このことは史料残存の要素に個人的な意図ないし関心が契機として存在することを暗示する点で重要な意味をもつ。

勿論、史料の伝存には、幾多の偶然と必然との条件がからみ合っており、単純な図式に帰結させるわけにはいかないが、他項目の史料をこのような観点で捉える試みがあってもよいと思う。なお、他の項目にも出てくる文字であるが、表題中に使用した「遍」はセリと訓み、真田家においては勘定書類の監査的検算を意味しており、遍算という用例もある。

「用状」の小項目には、他の項目への配分が困難な用状をまとめた。用状については、例えば郡方関係のものは前項の「勤方」の中へ含めたように、用状の内容や宛所あるいは残存形態に従ってそれぞれに適した項目へ配分するように努めたのであるが、役名や年代が確定できぬものなどもあるため、それらを中心にこの項を編成した。用状綴は「反古」と表記した袋に入れたものであったり、差出・宛名の部分が破棄してあったもので、明かに保存の対象から除かれていた史料である。

『賞罰』は家臣に対する関係史料を中心とした。「御賞」は各種の功勞に対する褒賞の評議書類である。そのうち戊辰戦関係の分は数が多いため別項を立てて分離した。なお、後出の『手充』の中には性格的に褒賞に似ている場合があるので参照の要があり、また『その一』では「維新賞典」として賞典・禄の史料をまとめたが、本集では賞典・禄関係は『給禄方』で扱ったので、これまた『給禄・手充』の項を参照されたい。「仕置」「吟味」の史料は『その一』の冊子型史料に比べると少量であり、一件としてまとめたものも少い。なお、町方・村方の賞罰史料は訴訟史料と関連する場合などがあるため続集で扱うことにした。「箱訴」には、ほぼ同年に起った二件の箱訴と駕籠訴との史料を合せたが、これも年代から考えると訴訟方の書類としてではなく他の所掌書類と一括して保存された疑いが濃い。

『学芸・学校』の冒頭二件は藩主の学芸に関する史料であり、『その二』で扱うのが本筋とも考えられたが、他に関連史料がないため、ここに配置することにした。このうち「長国寺奉納写経奥書と和歌」「かき書」は真田幸貫が長国寺に奉納した七巻の写経の各巻末に記した自詠の和歌である。七巻は楼門・位牌所などに分納した由の添書が加えられている。「学校」はほとんどが明治以後の史料であるが、「被仰出書」〔きよ三〕は文武学校の正式開校（安政二年）以前における方針を示す史料である。なお、後出『手充』の項の「文武修業手充」の史料が間接的に関連をもつ。「書籍」の書物目録の類は在庫照合用に作成されたものらしく、書物拝借書も照合に必要なため残ったのであろう。

『寺社』の小項目は寺社別の配列も考えてみたが、残存形態に従って同種史料を事案別に並べた。但し「長国寺」と「白鳥宮」とは真田家

との所縁が深いので項目を分けた。「寺社領」には特に目立ったものはないが、念のため御朱印寺社を挙げれば次の如くである。

戸隠山勸修院、善光寺、八幡宮、飯繩神社、長国寺（松代）、大英寺（松代）、開善寺（西条村）、大林寺（松代）、明徳寺（関屋村）、練光寺（松代）、大安寺（大安寺村）、福德寺（東寺尾村）、龍洞院（桑原村）、高山寺（椿嶺村）、興禪寺（牧田中村）、西念寺（松代）、長明寺（東寺尾村）、昌禪寺（上松村）、金剛寺（竹生村）、法蔵寺（古山村）、法花寺（矢代村）、正源寺（笹平村）、専照寺（赤田村）、長勝寺（三水村）、明松寺（上野村）、明桂寺（綱島村）、真龍寺（安庭村）、源真寺（上条村）、天宗寺（大岡今泉村）、大昌寺（栃原村）、清水寺（西条村）、淨福寺（田中村）

「合力米」「供養料」には在地や江戸および高野山の廟墓所のほか、江戸増上寺の宿坊浄運院、日光の宿坊恵乗院などに対する寄附も含まれる。「勸化金」はすべて江戸屋敷の取扱分である。「拝借金」は寺社への貸付、「取替金」は寺社からの預り金である。「長国寺」は松代における真田氏の菩提寺である。ここには他の項目に配しきれないものを集めたので、他の項目を併せて参看されたい。同様に「白鳥宮」も他項目を参照されたい。白鳥大明神は真田家の前領所上田から移したもので、藩祖を合祀した氏神的存在である。幸貫の代に規模を拡張して四宮大明神と改称したが、幾許もなく旧名称に復している。別当寺の開善寺関係史料も参照されたい。なお、明治以後も同社の維持に真田家は協力しており、明治三十年十月に県社に指定されている。

『家中』

『分限・明細』は家臣の身分・格式に関わる史料である。相続・家督・跡式を始め、隠居・取立に関する願書や伺書とこれに附随する史料のほか「士族編入」の史料もこの項に含めた。なお、真田家では家督・家名と跡式・跡目は身分上の差異による区別であった。「女中請状」は本箱に収めた一括史料であり、『その二』奥向と関連が深い。請状のほか親類書、宗旨書、支度金請取書などが添えてあったと考えられるが、一部は散逸している。女中の職種は、中老、御側、御次、御末、仲居の五種で、年令は十一才から四十八才に及ぶが概して二十才前後が多く、また年季を明記したものは殆どが十年季となっている。末尾に添えた「き一三」は同じ箱に入れてあったものである。「屋敷」の史料には、ここに集めたもののほか、屋敷へ配管した水道関係の史料などがあるが、形状などの都合で今回は除外したので続集を参照されたい。「勤方」は家臣の個人的な行為に属するもので、職務上の勤方史料は前出の『藩政』の方に分けた。書状も私的な依頼や問合せなどである。末尾に明治後の「家扶」史料を付した。

『足軽』の項には、「御足軽一巻」〔き三七～三三三〕と「松原者抱入書類」〔き三三～三三六〕との二つの一括史料を中心に、足軽の勤方史料を配し

た。ただし、分限や給禄手充などに関する史料は、それぞれの項目で扱ってある。なお、松原者というのは足輕の下役として江戸城大手門警護に従う雇人で、毎年百人を割当てた。これを松原者と称するのは、

右松原詰ト唱へ候義ハ、先年御上屋敷校田御門内土手ノ松並木其下ニ御長屋アリテ、右ヲ拝借仕、右百人松原部屋ト称シ、御奉公相勉メ候義ニ御座候（旧足輕禄高引直上申書〔あ九〕）

ということであつた。

『給禄・手充』

初めに『知行・扶持』の中項目をおいたが、家臣への宛行の基本を示す史料には乏しい。「米金切替渡」は幕末期の米価変動に見舞われて給物を現米あるいは現金にと変更したいという願書、および関連の評議書類である。「滞米金下付」に関する史料は、実際にはかなり多量に達した筈だが、残存分としては現在のところこれだけである。ほかに『御尋物書類』中に滞分に対する答書があるので参照する必要がある。「請取書」の中で用いた請取渡証文という名称は、数人分の支給額を一括して受領した後に各人へ配分する方式の請取書のことである。請取って渡すから請取渡であつて、証文上にも「請取渡」の文言がある。この種の史料には「一枚手形」の呼称があるようであるが、内容を特定するに至らなかったため、仮に請取渡証文とした。請取書の奥に勘定役や奉行が見届けて証印を捺す形式が通例である。『御尋物書類』は前節で説明したように、枳方掛の袋入史料を中心に同類の史料をまとめて配列した。項目名を御尋物答書としなかったのは、答書以外に伺書や指図書が混入しているので答書より広い意味の「書類」に換えたのである。

『手充』の項は「諸手充」「出張手充」を中心とする支給評議書類が大半を占める。支給手続の細部を伝える史料として、この項の他の小項目に配列した史料とともに、本集の一特色を示すといえよう。「出張手充」には、出張の内命を受けて道中費用等が支給された後でその出張が取消された場合の返納方式に関する史料が数点残っている。手充の支給や返納の実体を伝えるだけでなく、当時における出張の意義を暗示する史料といえよう。前出の『御尋物書類』にも各種御手充の支給をめぐる御尋物が多数含まれているので併せて利用されたい。「御手充拝借」は手充としての支給が認められぬ際に、普通より有利な条件で受ける拝借金である。

『給禄方』は、維新後の新藩制で会計掛に所属して家臣の給禄を担当した給禄掛が関与した史料が中心である。士卒給禄の確認や適宜禄へ

の切換に関わる「適宜改正」のほか賞典禄の史料をこの項に含めた。

なお、『給禄・手充』関係の史料には、例えば本集に収録した評議等に従って支給を実施する時に作成される会計書類を始め、資金操作や現米の出納などの史料があり、このうち請取書などは本集に入れたものもあるが、多くは財政史料としてまとめることにしたため、それらについては今後編集の続集をお待ちいただきたい。

○本目録の作成は原島陽一が担当した。

史料館所蔵史料目録 第四十集
信濃国松代真田家文書目録（その三）

昭和六十年三月三十一日 印刷発行

東京都品川区豊町一丁目十六番十号
国文学研究資料館内
編集者 国立史料館
発行者

東京都中野区中央四丁目八番九号
印刷所 株式会社 三協社

（本文用紙は中性紙を使用）